

大網白里市
男女共同参画に関する市民意識調査の
結果について

令和6年12月

目次

I 調査概要	2
II 結果詳細	
1 属性情報	4
2 回答結果	
【男女平等に関する意識について】	7
【男女の役割分担について】	12
【仕事について】	29
【女性の社会参加について】	53
【男女共同参画用語について】	68
【ドメスティック・バイオレンス（DV）について】	74
【防災等における男女共同参画の推進について】	86
【多様な性に関する意識について】	89
【男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて】	93
III 調査票	109

I 調査概要

1 調査目的

第3次男女共同参画計画策定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や生活実態、事業所の男女共同参画に関する意識や現状などを総合的に把握し、計画策定に反映させるための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査時期

令和6年9月7日～9月30日

3 調査対象

大網白里市民かつ令和6年8月1日現在で満18歳以上の男女2,000名

4 調査方法

[18歳～49歳]

オンライン回答

対象者に葉書を郵送し、記載された URL または二次元コードからオンラインで回答する。

[50歳～]

郵送回答・オンライン回答選択可能

対象者にアンケート用紙と返信用封筒を同封して郵送する。

返信用封筒を使って郵送回答、またはアンケート用紙に記載された URL 若しくは二次元コードからオンラインで回答する。

5 調査回収数

607名（郵送409名、オンライン198名）

（回答率30.4%）

6 結果の表記における注意事項

アンケート結果について、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

7 標本誤差について

市民意識調査は標本調査であり、一定の範囲で誤差が含まれる可能性がある。それは下記の式によって与えられる。(信頼度95%)

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p \times (1-p)}{n}}$$

(1.96は信頼区間、N=母集団、n=標本数、p=母比率)

※pは0.5のとき最大となるので、以下の計算では0.5とする。

大網白里市男女共同参画計画に関する市民意識調査の誤差率は、次のとおり3.9%であり、誤差率の基準である5%未満となっている。

N=36,998、n=607

【市民意識調査の誤差率計算】

N=36,998 (令和6年8月1日現在18歳以上の人口数)

n=607 (抽出サンプル数2,000、回収率30.4%)

$$\sqrt{\frac{36391}{36997} \times \frac{0.25}{607}}$$

$$1.96 \times 0.0201 = \boxed{3.9\%} \quad \text{誤差率}$$

計算結果=3.9% (誤差率の基準5%未満)

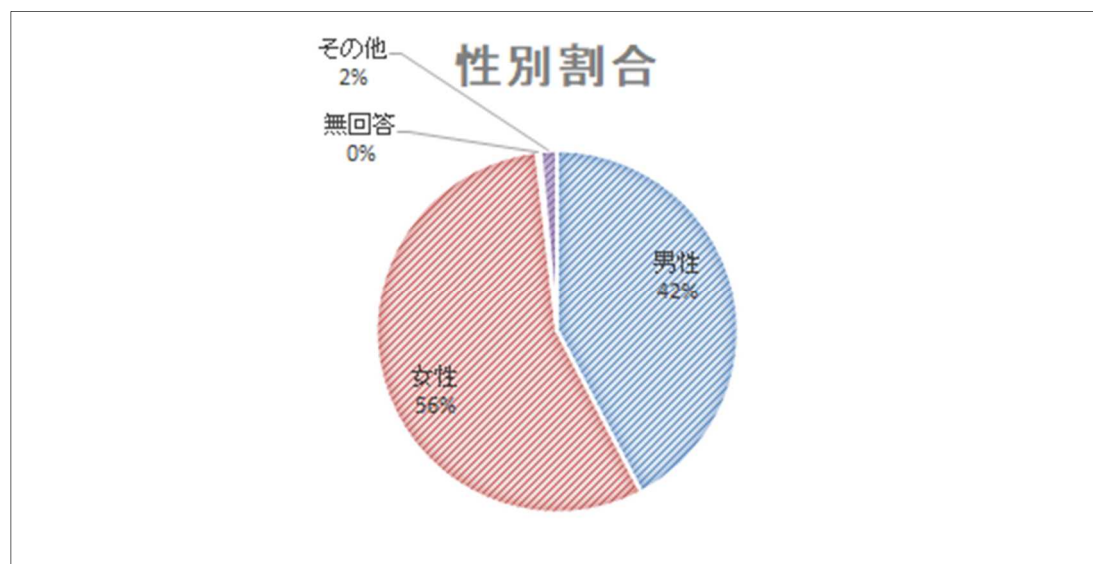
Ⅱ 結果詳細

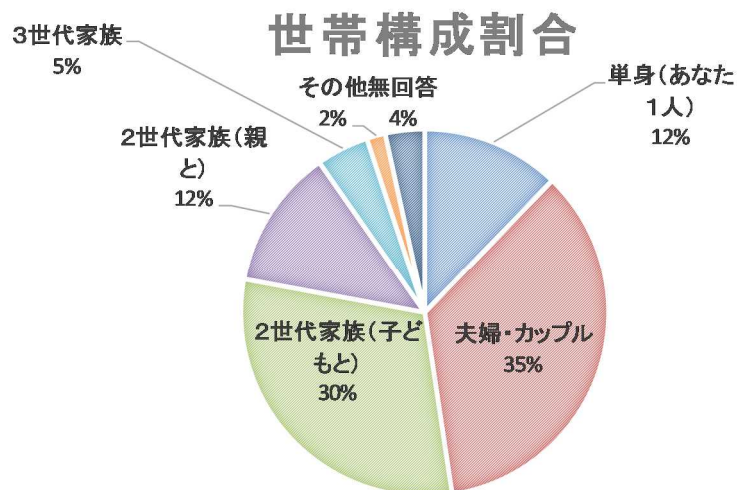
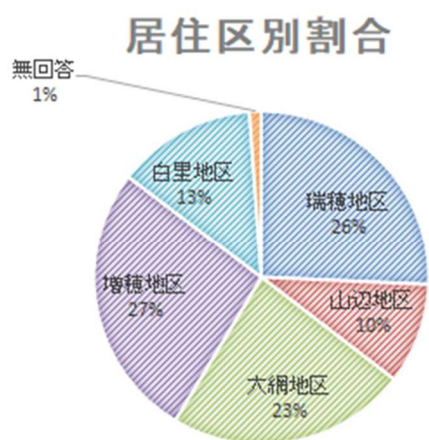
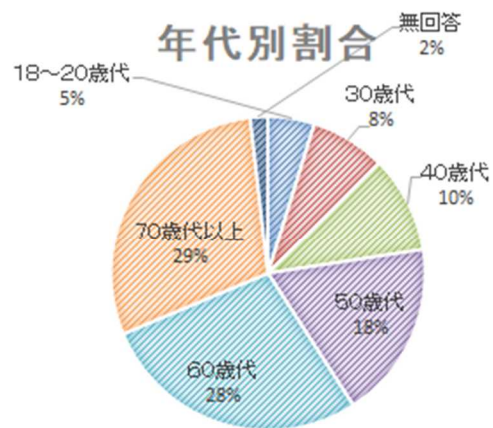
1 属性情報

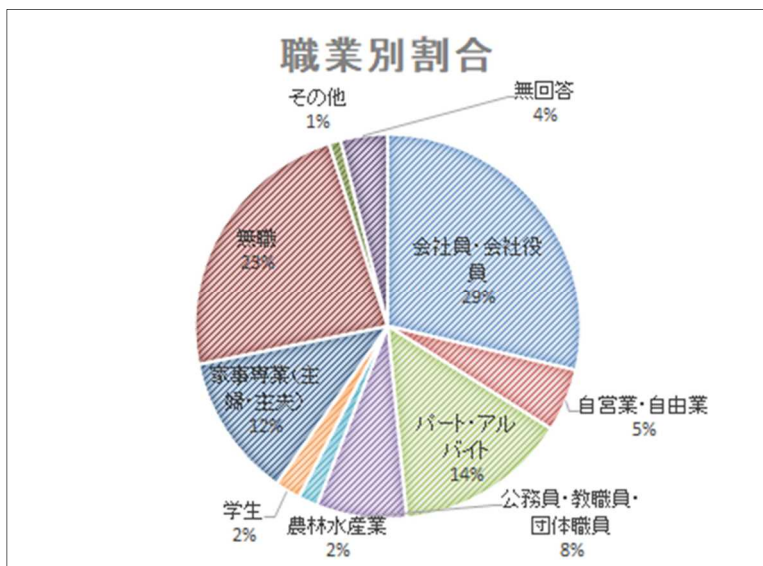
回答者の属性情報は以下のとおり。

属性項目		件数	構成比 (%)
性別	男性	257	42.3
	女性	339	55.9
	無回答	2	0.3
	その他	9	1.5
	合 計	607	100.0
年代	18～20歳代	29	4.8
	30歳代	47	7.7
	40歳代	61	10.1
	50歳代	111	18.3
	60歳代	169	27.8
	70歳代以上	179	29.5
	無回答	11	1.8
	合 計	607	100.0
居住地区	瑞穂地区	156	25.7
	山辺地区	59	9.7
	大網地区	141	23.2
	増穂地区	162	26.7
	白里地区	82	13.5
	無回答	7	1.2
	合 計	607	100.0

属性項目		件数	構成比 (%)
世帯構成	単身(あなた1人)	74	12.2
	夫婦・カップル	215	35.4
	2世代家族(子どもと)	184	30.3
	2世代家族(親と)	75	12.4
	3世代家族	28	4.6
	その他	10	1.6
	無回答	21	3.5
	合 計	607	100.0
職業	会社員・会社役員	174	28.7
	自営業・自由業	32	5.3
	パート・アルバイト	88	14.5
	公務員・教職員・団体職員	46	7.6
	農林水産業	10	1.6
	学生	13	2.1
	家事専業(主婦・主夫)	73	12.0
	無職	141	23.2
	その他	6	1.0
	無回答	24	4.0
	合 計	607	100.0



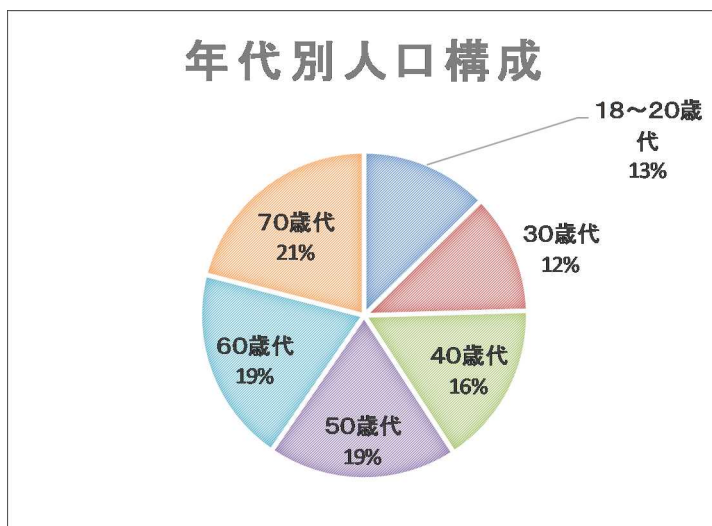




地区については、地域特性を踏まえ、下記のとおり 5 つの地区で分類している。

1 瑞穂地区	永田、小中、萱野、砂田、神房、経田、駒込、東駒込、ながた野、みずほ台、みやこ野
2 山辺地区	金谷郷、餅木、大竹、南玉、池田、季美の森南
3 大網地区	大網、仏島、みどりが丘、小西、養安寺、山口
4 増穂地区	富田、南横川、北横川、北飯塚、南飯塚、星谷、柿餅、柳橋、上貝塚、清名幸谷、木崎、柿餅上貝塚入会地、上谷新田
5 白里地区	南今泉、北今泉、細草、四天木、四天木甲、四天木乙、北吉田、桂山、九十根、長国、下ヶ傍示、二之袋、清水

※本調査は、標本調査のため、年代別人口・地区別人口の割合から抽出対象者の数を決定している。本市の年代別人口構成をみると、高齢者の割合が多いため、意識調査の回答割合も高齢者が多い傾向がある。よって意識調査の中の仕事・子育てに関わる回答は、現在現役で仕事をしている、または子育てをしている人とは異なる立場からの意見が多く含まれる可能性がある。



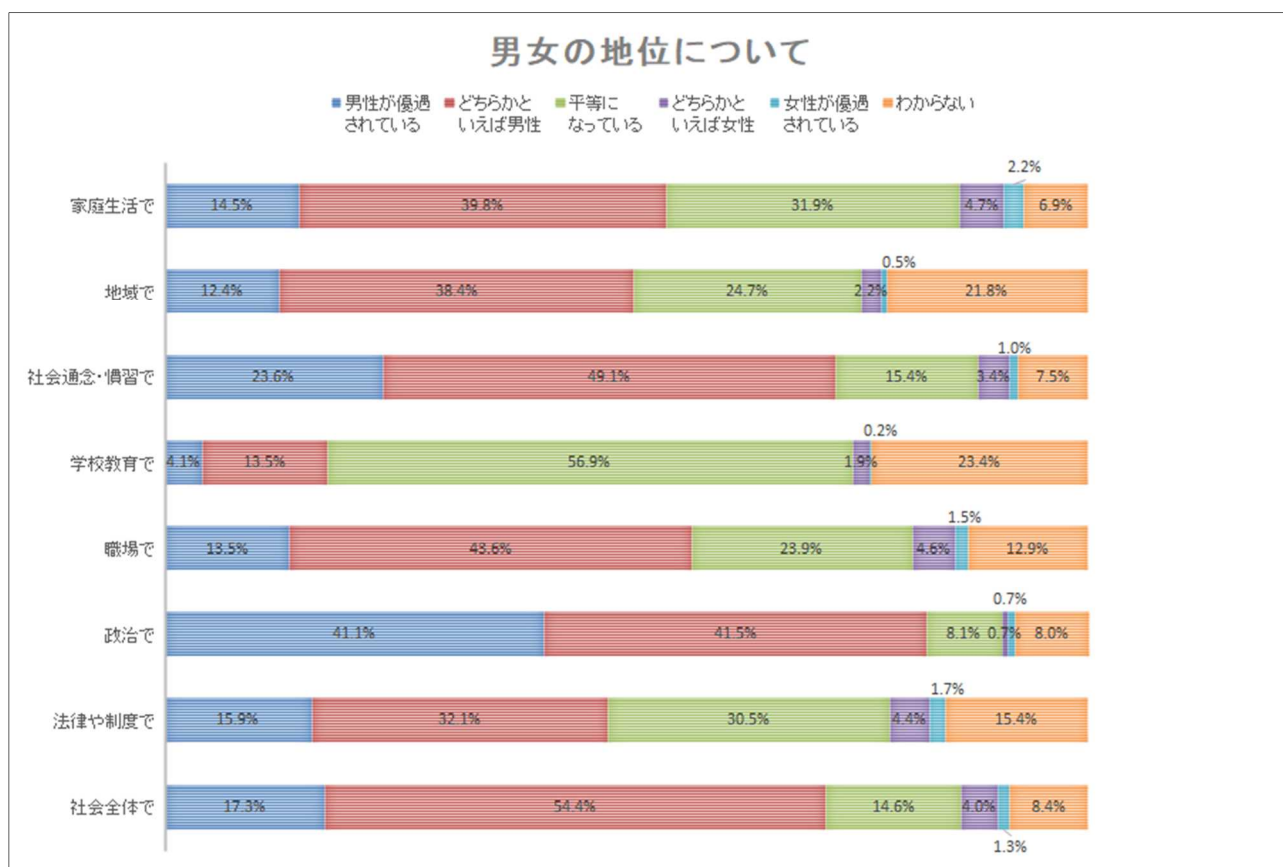
2 回答結果

【男女平等に関する意識について】

問1 現在の社会において、男女の地位はどのようなになっていると思いますか。

【全体】

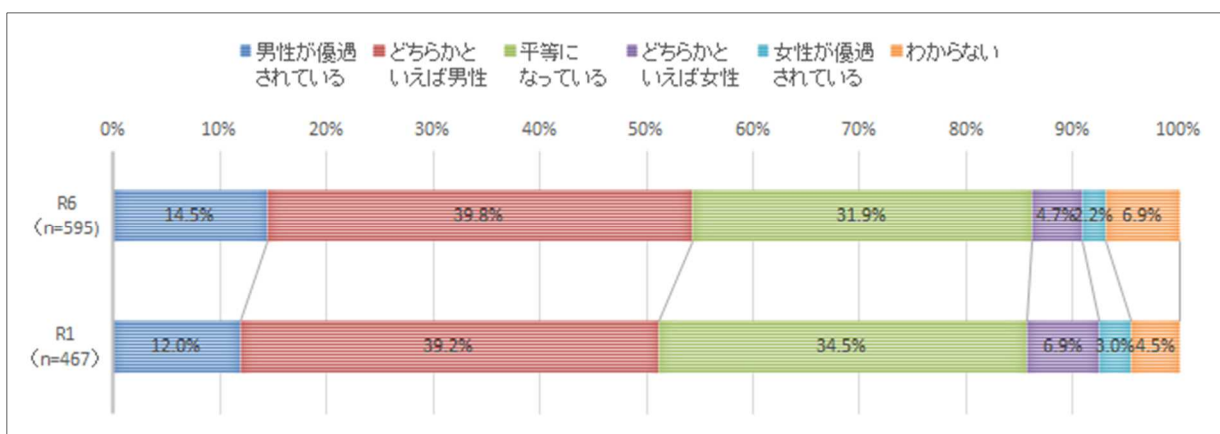
「学校教育で」の項目を除くと、全体的に「男性が優遇されている」及び「どちらかといえば男性」とする回答が過半数を超えており、この調査では未だ男性の地位が高いという意識が残っていることが窺える。



【前回との比較】

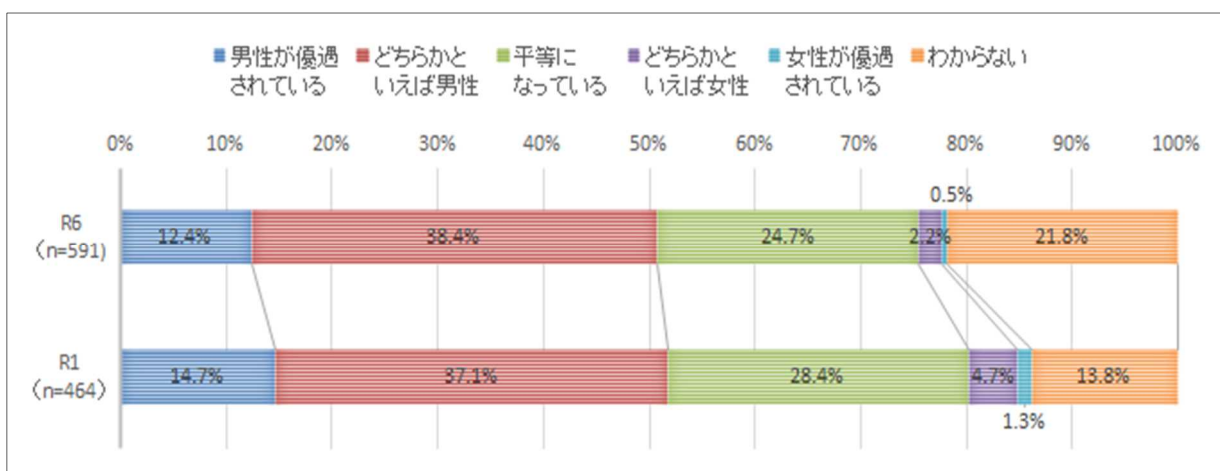
① 家庭生活で

「男性が優遇されている」が 2.5 ポイント、「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が 0.6 ポイント高くなっている。



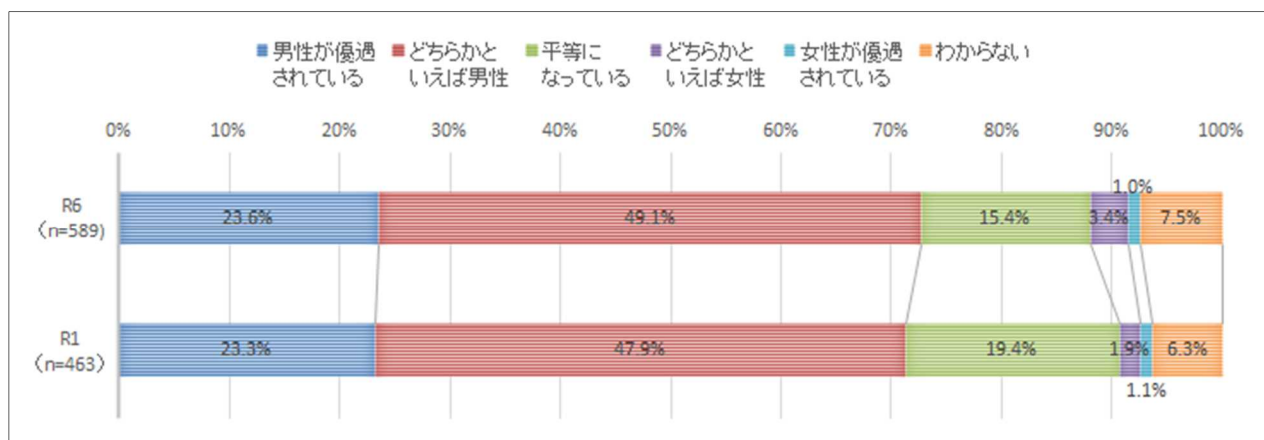
② 地域で

「男性が優遇されている」は 2.3 ポイント低下し、「どちらかといえば男性が優遇されている」は 1.3 ポイント高くなっている。「わからない」は 8.0 ポイント高くなっている。



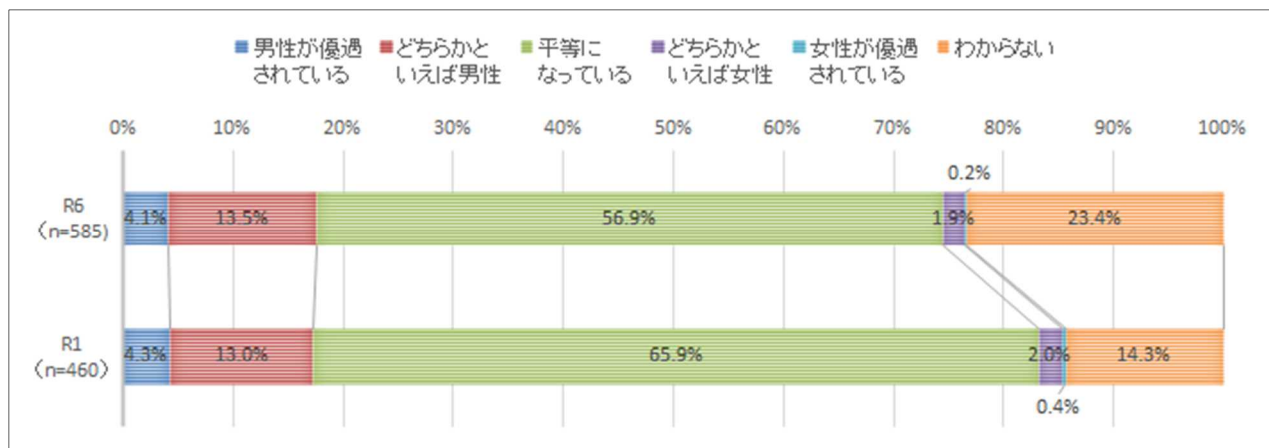
③ 社会通念・慣習で

「男性が優遇されている」の割合はほとんど変わらず、「平等になっている」の割合が4.0ポイント低くなっている。



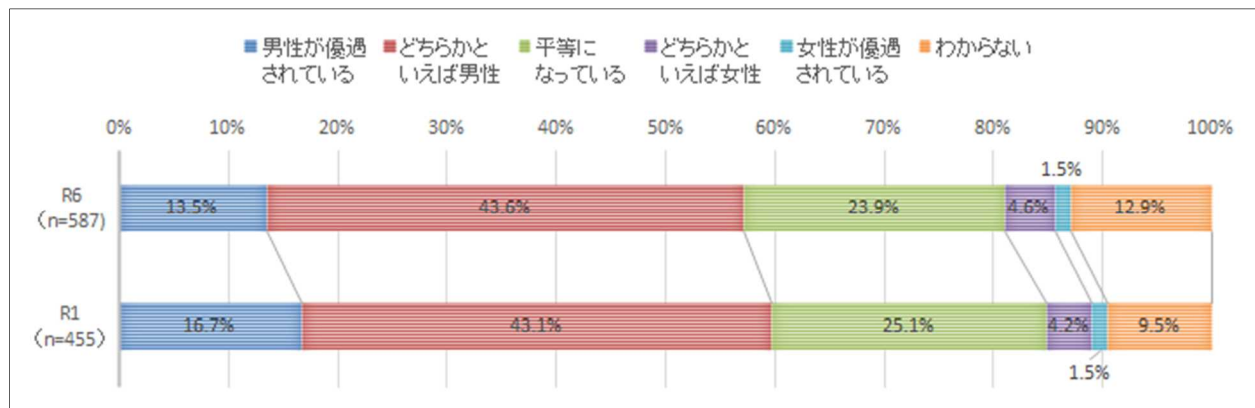
④ 学校教育で

「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」に変化はほとんどなく、「平等になっている」が9.0ポイント低下し、「わからない」が9.1ポイント高くなっている。



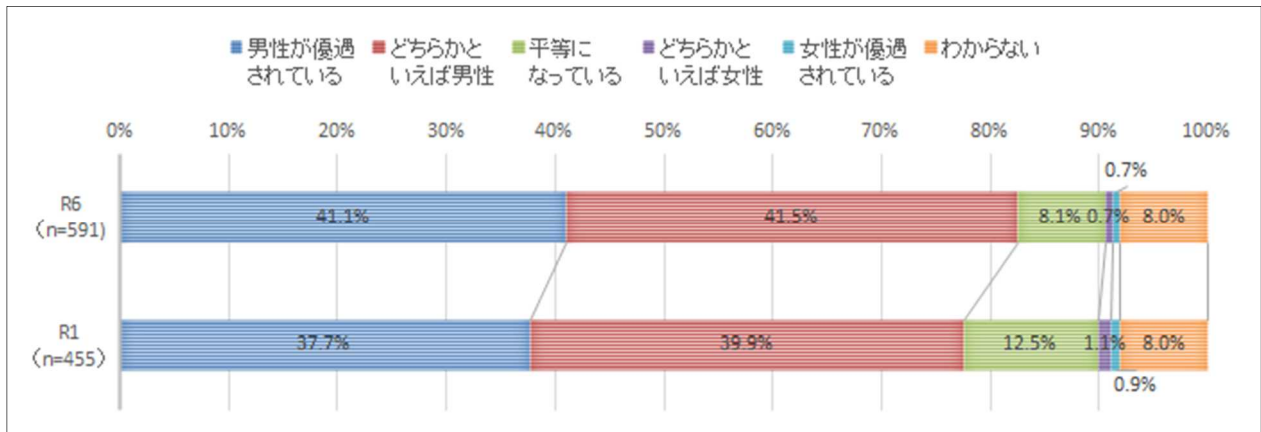
⑤ 職場で

「男性が優遇されている」が3.2ポイント減少し、「わからない」が3.4ポイント高くなっている。



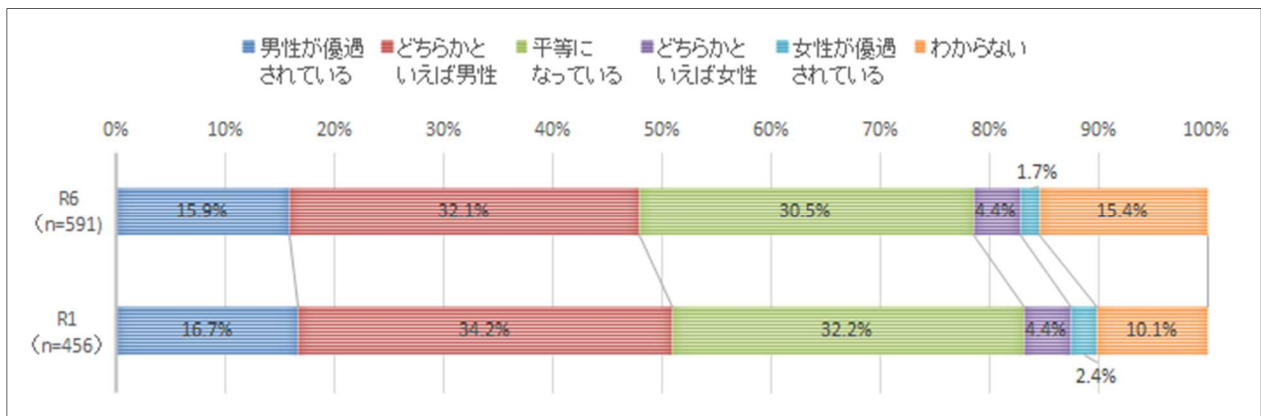
⑥政治で

「男性が優遇」が 3.4 ポイント、「どちらかといえば男性が優遇」が 1.6 ポイント高くなり、「平等である」の割合が 4.4 ポイント低下している。



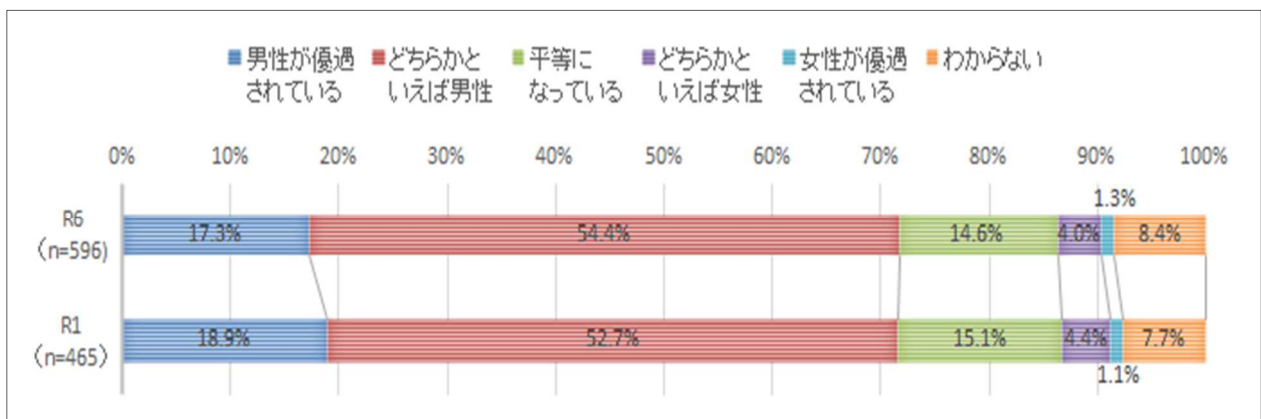
⑦法律や制度で

「男性が優遇」は 0.8 ポイント、「どちらかといえば男性が優遇」は 2.1 ポイント、「平等になっている」が 1.7 ポイント低下しているが、「わからない」が 5.3 ポイント高くなっている。



⑧社会全体で

「男性が優遇されている」割合が 1.6 ポイント低下し、「どちらかといえば男性が優遇されている」割合が 1.7 ポイント高くなっている。



男女の地位の平等感について

			男性の方が優遇 されている (小計)	男性が優遇 されている	どちらが男性と いえるか	平等に なっている	女性の方が優遇 されている (小計)	どちらが女性と いえるか	女性が優遇 されている	わからない
①家庭生活で	R6調査	n=595	54.3%	14.5%	39.8%	31.9%	6.9%	4.7%	2.2%	6.9%
	R1調査	n=467	51.2%	12.0%	39.2%	34.5%	9.9%	6.9%	3.0%	4.5%
	H27調査	n=514	53.9%	14.2%	39.7%	35.8%	9.4%	5.4%	4.0%	3.9%
②地域で	R6調査	n=591	50.8%	12.4%	38.4%	24.7%	2.7%	2.2%	0.5%	21.8%
	R1調査	n=464	51.8%	14.7%	37.1%	28.4%	6.0%	4.7%	1.3%	13.8%
	H27調査	n=507	53.6%	12.0%	41.6%	28.1%	4.5%	3.7%	0.8%	13.2%
③社会通念・慣習で	R6調査	n=589	72.7%	23.6%	49.1%	15.4%	4.4%	3.4%	1.0%	7.5%
	R1調査	n=463	71.2%	23.3%	47.9%	19.4%	3.0%	1.9%	1.1%	6.3%
	H27調査	n=512	73.3%	22.7%	50.6%	17.6%	3.7%	2.7%	1.0%	5.5%
④学校教育で	R6調査	n=585	17.6%	4.1%	13.5%	56.9%	2.1%	1.9%	0.2%	23.4%
	R1調査	n=460	17.3%	4.3%	13.0%	65.9%	2.4%	2.0%	0.4%	14.3%
	H27調査	n=503	17.3%	4.2%	13.1%	68.6%	2.4%	1.8%	0.6%	11.7%
⑤職場で	R6調査	n=587	57.1%	13.5%	43.6%	23.9%	6.1%	4.6%	1.5%	12.9%
	R1調査	n=455	59.8%	16.7%	43.1%	25.1%	5.7%	4.2%	1.5%	9.5%
	H27調査	n=500	63.2%	19.8%	43.4%	23.0%	5.0%	4.0%	1.0%	8.8%
⑥政治で	R6調査	n=591	82.6%	41.1%	41.5%	8.1%	1.4%	0.7%	0.7%	8.0%
	R1調査	n=455	77.6%	37.7%	39.9%	12.5%	2.0%	1.1%	0.9%	8.0%
	H27調査	n=506	78.7%	33.6%	45.1%	13.0%	1.2%	1.0%	0.2%	7.1%
⑦法律や制度で	R6調査	n=591	48.0%	15.9%	32.1%	30.5%	6.1%	4.4%	1.7%	15.4%
	R1調査	n=456	50.9%	16.7%	34.2%	32.2%	6.8%	4.4%	2.4%	10.1%
	H27調査	n=509	50.3%	13.6%	36.7%	34.0%	6.5%	5.7%	0.8%	9.2%
⑧社会全体で	R6調査	n=596	71.7%	17.3%	54.4%	14.6%	5.3%	4.0%	1.3%	8.4%
	R1調査	n=465	71.6%	18.9%	52.7%	15.1%	5.5%	4.4%	1.1%	7.7%
	H27調査	n=512	74.6%	16.4%	58.2%	16.0%	4.1%	3.3%	0.8%	5.3%

※男女共同参画計画策定当初からの推移をみるため、この表については第1回目の調査を含めた結果を掲載した。

【男女の役割分担について】

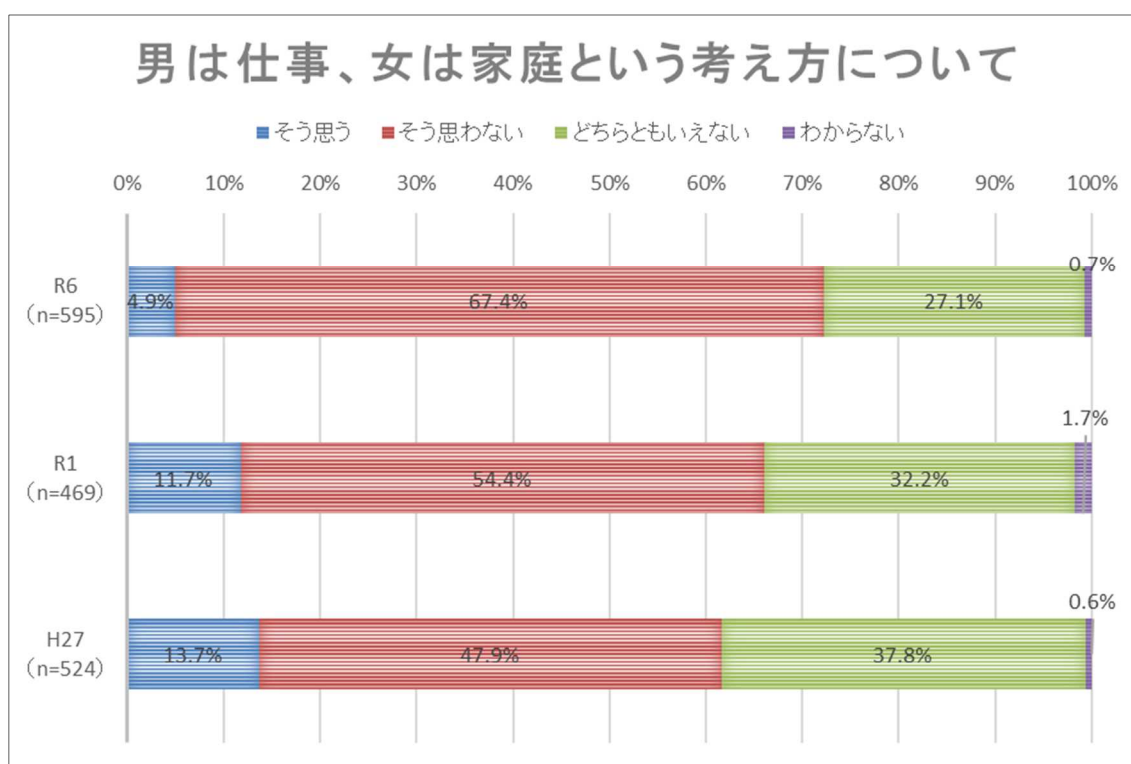
問 2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対し、「そう思わない」が 67.4%と 7 割近くになっている。一方「そう思う」は 4.9%で、「どちらともいえない」が 27.1%になっている。

【前回との比較】

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対し、「そう思う」が 6.8 ポイント低下し「そう思わない」が 13.0 ポイント高くなっていることから、性別による役割分担意識が薄れていることが窺える。



※男女共同参画計画策定当初からの推移をみるため、この表については第 1 回目の調査を含めた結果を掲載した。

【属性別】

性別でみると、「そう思う」とする回答が男性は女性より 1.2 ポイント高くなっており、逆に「そう思わない」とする回答は女性が男性より 5.4 ポイント高くなっている。

年代別でみると、「50 歳代」が「そう思う」割合が 9.0%と一番高く、次いで「70 歳以上」が 5.9%、40 歳代と 60 歳代は 3%台、「30 歳代」で 2.1%、「18 歳から 20 歳代」では 0.0%となっており世代により意識の違いが見られる。

地区別でみると、「そう思う」が高かったのは「増穂地区」(5.7%) で、低かったのは「瑞穂地区」(3.9%) となっている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

		全体	そう 思う	そう 思わ ない	ど ち ら と も い え ない	わ か ら ない
全体		595	4.9%	67.4%	27.1%	0.7%
性別	男性	256	5.5%	64.8%	28.9%	0.8%
	女性	329	4.3%	70.2%	24.9%	0.6%
	その他	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	無回答	8	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%
年代	18～20歳代	29	0.0%	79.3%	20.7%	0.0%
	30歳代	47	2.1%	68.1%	29.8%	0.0%
	40歳代	61	3.3%	73.8%	23.0%	0.0%
	50歳代	111	9.0%	63.1%	27.0%	0.9%
	60歳代	167	3.0%	71.3%	25.7%	0.0%
	70歳以上	170	5.9%	62.9%	29.4%	1.8%
	無回答	10	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%
居住 地区	瑞穂地区	155	3.9%	69.7%	25.8%	0.6%
	山辺地区	57	5.3%	71.9%	22.8%	0.0%
	大網地区	139	5.0%	64.7%	29.5%	0.7%
	増穂地区	159	5.7%	66.7%	27.0%	0.6%
	白里地区	79	5.1%	67.1%	26.6%	1.3%
	無回答	6	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%

問3 結婚（事実婚含む）されている方にお聞きします。

あなたの家庭では、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

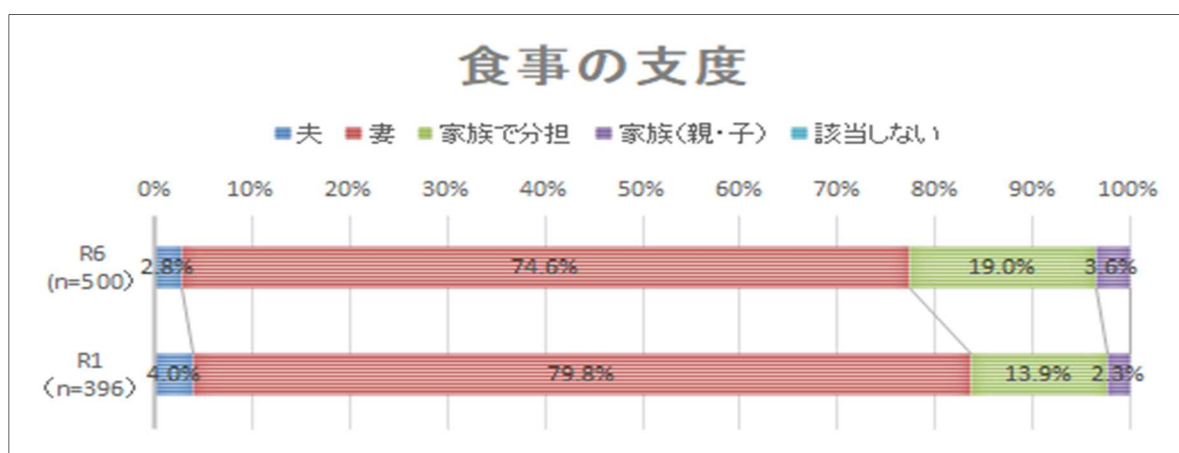
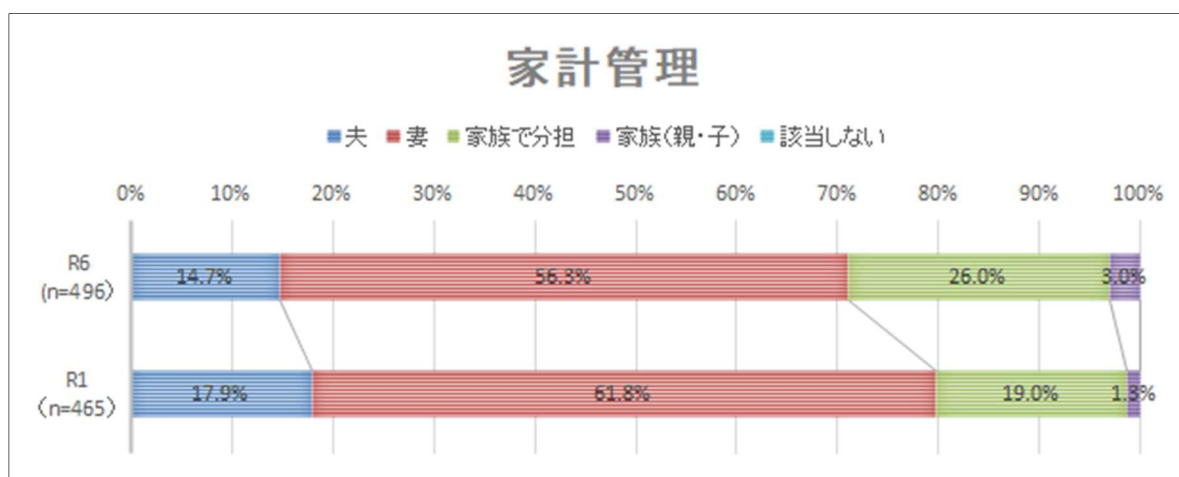
【全体】

「夫」が「妻」より割合が高い項目としては、「簡単な家の修繕（62.1%）」、「ごみ出し（39.6%）」「地域行事への参加（32.9%）」で、力を使う仕事や対外的なものとなっている。その他、家の中の細かな家事では妻が多く役割を担っていることが窺える。特に「食事の支度（74.6%）」「洗濯（69.7%）」の割合が最も高くなっている。

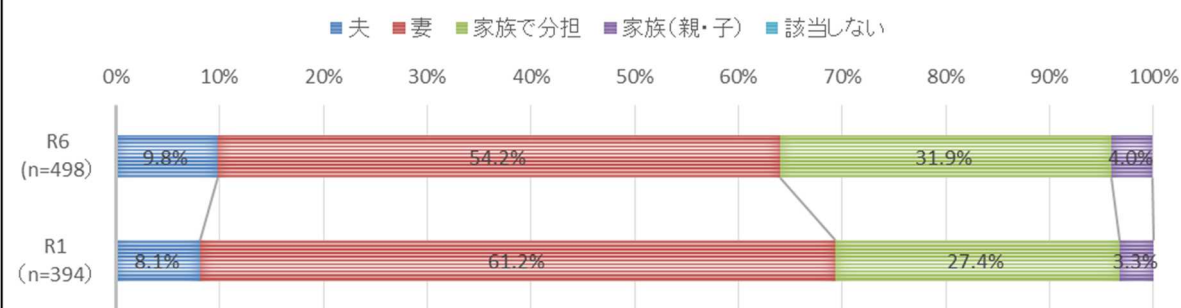
【前回との比較】

すべての項目で「家族で分担」の割合が増加しており、時代とともに家事を家族で分担するというライフスタイルに変化していることが窺える。

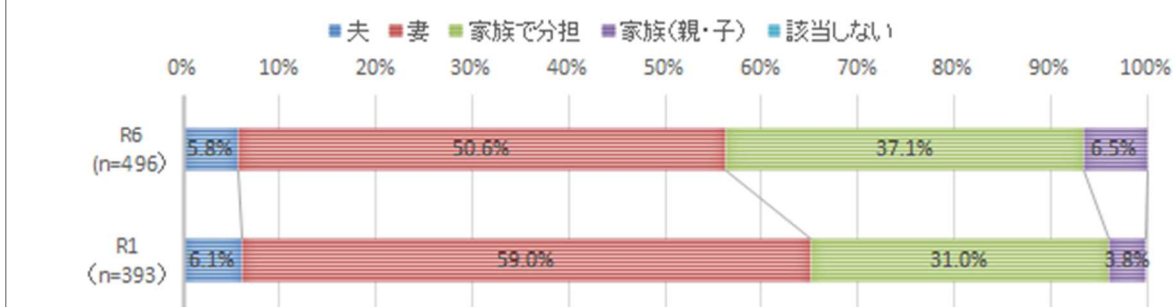
家庭における役割分担（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）



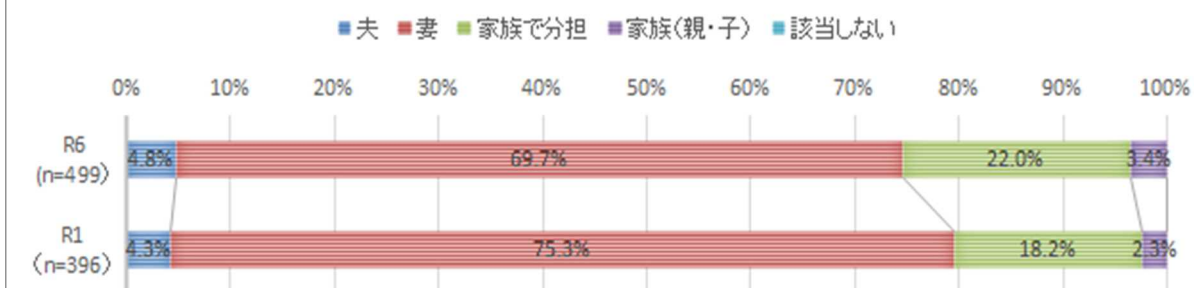
食事のあとかたづけ



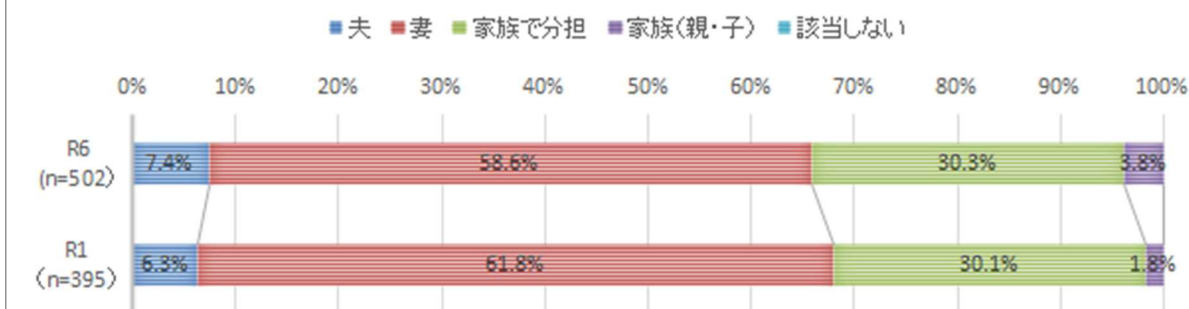
食料品・日用品の買い物



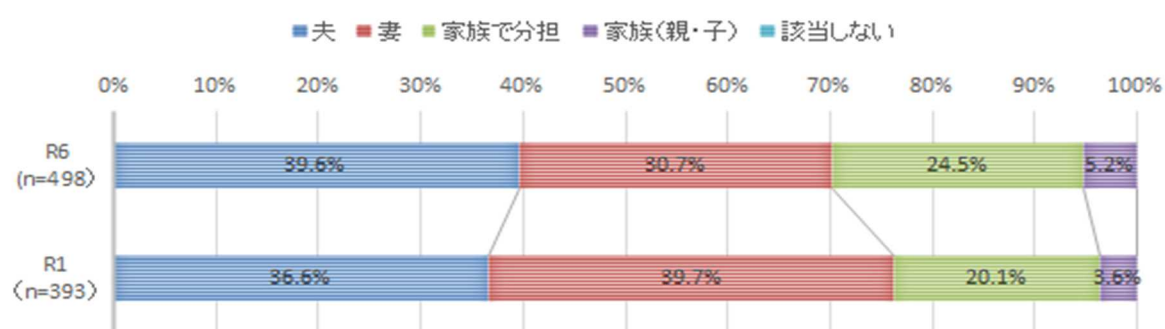
洗濯



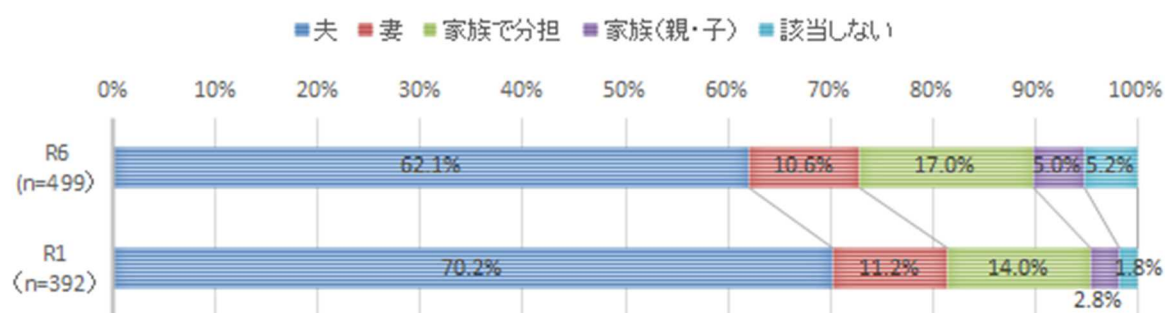
掃除



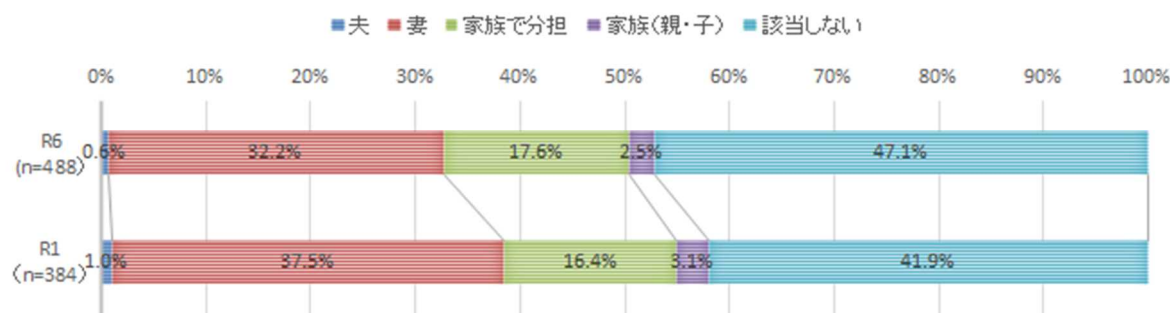
ごみ出し



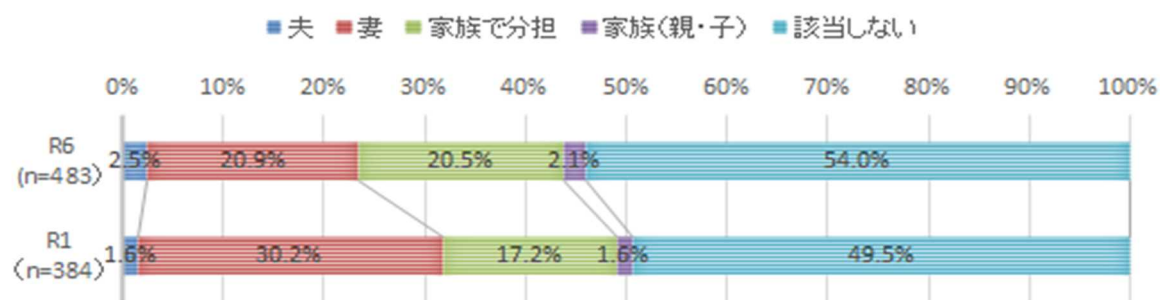
簡単な家の修繕



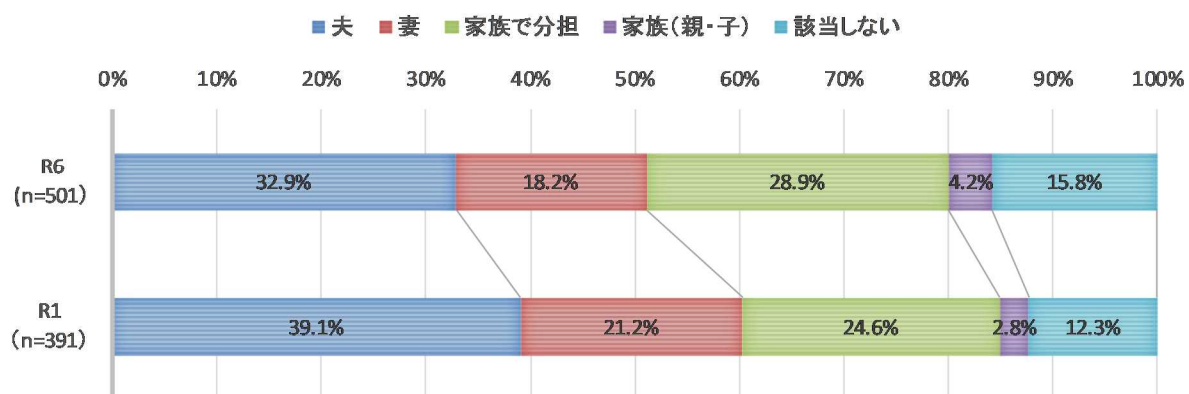
子どもの日常の世話



家族の看護・介護



地域行事への参加



【属性別】

① 家計管理

年代別でみると、若い世代の方が、「夫」と「妻」のいずれかで行うより「家族で分担」する割合が高くなっている。

地区別でみると、「増穂地区」が「夫」が行っている割合が最も高く（19.2%）、「白里地区」が最も低くなっている（10.6%）。

		全体	夫	妻	家族で分担	家族（親・子）	該当しない
全体		496	14.7%	56.3%	26.0%	3.0%	0.0%
性別	男性	209	16.3%	52.6%	29.2%	1.9%	0.0%
	女性	281	13.9%	59.1%	23.1%	3.9%	0.0%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	5	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	17	5.9%	29.4%	41.2%	23.5%	0.0%
	30歳代	34	2.9%	44.1%	44.1%	8.8%	0.0%
	40歳代	51	11.8%	51.0%	31.4%	5.9%	0.0%
	50歳代	87	20.7%	49.4%	28.7%	1.1%	0.0%
	60歳代	144	18.8%	56.3%	24.3%	0.7%	0.0%
	70歳以上	155	12.3%	67.7%	18.1%	1.9%	0.0%
	無回答	8	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	130	15.4%	50.8%	29.2%	4.6%	0.0%
	山辺地区	52	11.5%	63.5%	25.0%	0.0%	0.0%
	大網地区	115	13.0%	57.4%	27.8%	1.7%	0.0%
	増穂地区	130	19.2%	54.6%	23.1%	3.1%	0.0%
	白里地区	66	10.6%	63.6%	21.2%	4.5%	0.0%
	無回答	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

②食事の支度

属性に関わらず全体的に「夫」が行う割合が低く、「妻」は年代が上がると同時に割合も上がっている。また若い世代の方が家族で分担する傾向にある。

地区別でみると、「大網地区」が「夫」が行っている割合が最も低く（1.7%）、「山辺地区」が「妻」が行っている割合が最も高くなっている（82.7%）。

		全 体	夫	妻	家 族 で 分 担	家 族 （ 親 ・ 子 ）	該 当 し な い
全体		500	2.8%	74.6%	19.0%	3.6%	0.0%
性 別	男性	211	3.3%	68.2%	26.1%	2.4%	0.0%
	女性	282	2.5%	79.1%	13.8%	4.6%	0.0%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
年 代	18～20歳代	17	0.0%	35.3%	47.1%	17.6%	0.0%
	30歳代	34	0.0%	58.8%	26.5%	14.7%	0.0%
	40歳代	51	2.0%	64.7%	25.5%	7.8%	0.0%
	50歳代	88	5.7%	72.7%	19.3%	2.3%	0.0%
	60歳代	145	1.4%	77.2%	21.4%	0.0%	0.0%
	70歳以上	156	3.8%	83.3%	10.3%	2.6%	0.0%
	無回答	9	0.0%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%
居 住 地 区	瑞穂地区	131	3.8%	74.8%	17.6%	3.8%	0.0%
	山辺地区	52	1.9%	82.7%	13.5%	1.9%	0.0%
	大網地区	115	1.7%	73.0%	22.6%	2.6%	0.0%
	増穂地区	131	2.3%	73.3%	19.8%	4.6%	0.0%
	白里地区	67	4.5%	73.1%	17.9%	4.5%	0.0%
	無回答	4	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

③食事のあとかたづけ

年代別でみると、食事の後片付けも上の世代では「妻」の割合が高くなり、逆に「家族で分担」は若い世代の方の割合が高くなっている。「夫」については「②食事の支度」より「③食事のあとかたづけ」の方が実施している割合が高いことから、作ることよりも後片付けの方が夫にとっては取り組みやすいことが窺える。

地区別でみると、「夫」が行っている割合は「山辺地区」が最も高く（15.7%）、「白里地区」が最も低くなっている（6.0%）。

		全 体	夫	妻	家 族 で 分 担	家 族 （ 親 ・ 子 ）	該 当 し な い
全体		498	9.8%	54.2%	31.9%	4.0%	0.0%
性 別	男性	208	11.1%	42.8%	44.2%	1.9%	0.0%
	女性	283	9.2%	61.8%	23.3%	5.7%	0.0%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
年 代	18～20歳代	17	17.6%	11.8%	58.8%	11.8%	0.0%
	30歳代	34	8.8%	38.2%	41.2%	11.8%	0.0%
	40歳代	51	11.8%	47.1%	35.3%	5.9%	0.0%
	50歳代	87	5.7%	60.9%	32.2%	1.1%	0.0%
	60歳代	144	7.6%	54.9%	34.0%	3.5%	0.0%
	70歳以上	156	13.5%	58.3%	25.0%	3.2%	0.0%
	無回答	9	0.0%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%
居 住 地 区	瑞穂地区	131	12.2%	50.4%	32.8%	4.6%	0.0%
	山辺地区	51	15.7%	64.7%	17.6%	2.0%	0.0%
	大網地区	115	9.6%	53.0%	36.5%	0.9%	0.0%
	増穂地区	130	7.7%	55.4%	30.8%	6.2%	0.0%
	白里地区	67	6.0%	50.7%	37.3%	6.0%	0.0%
	無回答	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

④食料品・日用品の買物

年代別でみると、「18～20歳代」、「30歳代」では「妻」より「家族で分担」する割合が高く、「40歳代」以上では「妻」の割合が高くなっている。「夫」については「18～20歳代」と「40歳代」では0.0%という結果が出ているが、「30歳代」、「50歳代」ではおよそ9%となっており、世代により違いが見られる。

地区別でみると、「夫」が行っている割合は「瑞穂地区」が最も低い（4.7%）が、「家族で分担」している割合が「白里地区（41.8%）」や「大網地区（40.4%）」に次いで高くなっている（39.5%）。

		全体	夫	妻	家族で分担	家族（親・子）	該当しない
全体		496	5.8%	50.6%	37.1%	6.5%	0.0%
性別	男性	208	6.7%	40.9%	48.6%	3.8%	0.0%
	女性	281	5.3%	57.7%	28.5%	8.5%	0.0%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	17	0.0%	29.4%	52.9%	17.6%	0.0%
	30歳代	34	8.8%	35.3%	41.2%	14.7%	0.0%
	40歳代	50	0.0%	60.0%	32.0%	8.0%	0.0%
	50歳代	89	9.0%	50.6%	38.2%	2.2%	0.0%
	60歳代	143	5.6%	49.7%	40.6%	4.2%	0.0%
	70歳以上	154	6.5%	53.2%	32.5%	7.8%	0.0%
	無回答	9	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	129	4.7%	49.6%	39.5%	6.2%	0.0%
	山辺地区	52	7.7%	55.8%	28.8%	7.7%	0.0%
	大網地区	114	5.3%	50.0%	40.4%	4.4%	0.0%
	増穂地区	130	6.9%	54.6%	32.3%	6.2%	0.0%
	白里地区	67	6.0%	41.8%	41.8%	10.4%	0.0%
	無回答	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

⑤洗濯

年代別でみると、「18～20 歳代」と「30 歳代」では「家族で分担」が最も高くなっているが、40 歳代以上は圧倒的に「妻」の割合が高くなっている。特に「70 歳代」では、妻の割合が 80%を超える結果となった。

地区別でみると、「山辺地区」で「妻」が行っている割合が最も高く（82.7%）、「家族で分担」が最も低くなっている（11.5%）。

		全 体	夫	妻	家 族 で 分 担	家 族 （ 親 ・ 子 ）	該 当 し な い
全体		499	4.8%	69.7%	22.0%	3.4%	0.0%
性 別	男性	209	5.3%	64.6%	27.8%	2.4%	0.0%
	女性	283	4.6%	73.1%	18.0%	4.2%	0.0%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
年 代	18～20歳代	17	11.8%	11.8%	58.8%	17.6%	0.0%
	30歳代	34	5.9%	38.2%	47.1%	8.8%	0.0%
	40歳代	52	5.8%	67.3%	23.1%	3.8%	0.0%
	50歳代	88	5.7%	68.2%	20.5%	5.7%	0.0%
	60歳代	143	3.5%	73.4%	21.7%	1.4%	0.0%
	70歳以上	156	4.5%	80.8%	13.5%	1.3%	0.0%
	無回答	9	0.0%	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
居 住 地 区	瑞穂地区	132	4.5%	70.5%	22.0%	3.0%	0.0%
	山辺地区	52	3.8%	82.7%	11.5%	1.9%	0.0%
	大網地区	115	2.6%	70.4%	24.3%	2.6%	0.0%
	増穂地区	129	5.4%	66.7%	23.3%	4.7%	0.0%
	白里地区	67	9.0%	62.7%	23.9%	4.5%	0.0%
	無回答	4	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

⑥掃除

年代別でみると、「18～20 歳代」では「妻」より「家族で分担」の割合が 2 倍近く高くなっているが、30 歳代以上は「妻」の割合は 50%を超える結果となっている。

地区別でみると、「瑞穂地区」で「妻」が行っている割合が最も低くなっており（53.0%）、「家族で分担」の割合が最も高くなっている（35.6%）。

		全 体	夫	妻	家 族 で 分 担	家 族 （ 親 ・ 子 ）	該 当 し な い
全体		502	7.4%	58.6%	30.3%	3.8%	0.0%
性 別	男性	211	10.4%	43.6%	43.6%	2.4%	0.0%
	女性	284	5.3%	68.7%	21.1%	4.9%	0.0%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年 代	18～20歳代	17	0.0%	29.4%	58.8%	11.8%	0.0%
	30歳代	34	2.9%	55.9%	32.4%	8.8%	0.0%
	40歳代	51	3.9%	58.8%	33.3%	3.9%	0.0%
	50歳代	89	10.1%	57.3%	30.3%	2.2%	0.0%
	60歳代	145	7.6%	57.9%	29.7%	4.8%	0.0%
	70歳以上	157	8.9%	61.1%	28.0%	1.9%	0.0%
	無回答	9	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居 住 地 区	瑞穂地区	132	9.1%	53.0%	35.6%	2.3%	0.0%
	山辺地区	52	7.7%	57.7%	30.8%	3.8%	0.0%
	大網地区	115	6.1%	60.0%	31.3%	2.6%	0.0%
	増穂地区	131	6.9%	64.1%	23.7%	5.3%	0.0%
	白里地区	68	7.4%	54.4%	32.4%	5.9%	0.0%
	無回答	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

⑦ごみ出し

年代別でみると、「18～20歳代」で「妻」が行っている割合が低く（5.9%）、「家族で分担」が最も高い（41.2%）。「夫」と「妻」の割合を比較すると、全ての年代で「夫」の割合が高くなっており、ごみ出しが夫にとって取り組みやすい家事であることが窺える。

地区別でみると、「夫」が「増穂地区」で最も高く（45.8%）、「妻」が「山辺地区」で最も高くなっている（40.4%）。

		全体	夫	妻	家族で分担	家族（親・子）	該当しない
全体		498	39.6%	30.7%	24.5%	5.2%	0.0%
性別	男性	209	44.5%	22.0%	32.1%	1.4%	0.0%
	女性	282	35.5%	36.9%	19.5%	8.2%	0.0%
	その他	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	17	23.5%	5.9%	41.2%	29.4%	0.0%
	30歳代	34	41.2%	17.6%	26.5%	14.7%	0.0%
	40歳代	50	44.0%	24.0%	26.0%	6.0%	0.0%
	50歳代	88	35.2%	27.3%	34.1%	3.4%	0.0%
	60歳代	145	39.3%	31.0%	26.2%	3.4%	0.0%
	70歳以上	155	43.2%	40.0%	13.5%	3.2%	0.0%
	無回答	9	22.2%	33.3%	44.4%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	130	39.2%	28.5%	26.2%	6.2%	0.0%
	山辺地区	52	34.6%	40.4%	19.2%	5.8%	0.0%
	大網地区	114	35.1%	32.5%	28.9%	3.5%	0.0%
	増穂地区	131	45.8%	29.0%	19.8%	5.3%	0.0%
	白里地区	67	38.8%	26.9%	28.4%	6.0%	0.0%
	無回答	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

⑧簡単な家の修繕

年代別でみると、「40 歳代」を除くとどの年代も 50%以上と圧倒的に「夫」の割合が高くなっている。簡単な修理でも工具を使う・高所に上るなどを必要とする作業は、男性の仕事ととらえる傾向が窺える。

地区別でみると、「瑞穂地区」が「夫」の割合が最も高くなっており（65.6%）、「大網地区」で「妻」の割合が最も低くなっている（8.6%）。

		全体	夫	妻	家族で分担	家族（親・子）	該当しない
全体		499	62.1%	10.6%	17.0%	5.0%	5.2%
性別	男性	211	75.8%	3.3%	15.6%	2.8%	2.4%
	女性	281	51.6%	16.0%	18.1%	6.8%	7.5%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	17	64.7%	5.9%	0.0%	5.9%	23.5%
	30歳代	34	64.7%	0.0%	17.6%	5.9%	11.8%
	40歳代	51	47.1%	17.6%	21.6%	7.8%	5.9%
	50歳代	89	57.3%	14.6%	19.1%	2.2%	6.7%
	60歳代	145	66.9%	9.0%	17.9%	5.5%	0.7%
	70歳以上	154	64.9%	10.4%	14.3%	5.2%	5.2%
	無回答	9	55.6%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	131	65.6%	9.2%	16.0%	3.8%	5.3%
	山辺地区	51	51.0%	13.7%	25.5%	5.9%	3.9%
	大網地区	116	62.9%	8.6%	12.9%	6.0%	9.5%
	増穂地区	131	61.1%	13.0%	19.8%	3.1%	3.1%
	白里地区	66	63.6%	10.6%	13.6%	9.1%	3.0%
	無回答	4	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

⑨子どもの日常の世話

年代別でみると、全体的に「妻」の割合が高いが、「30歳代」では「家族で分担」が一番高い割合となっており、「40歳代」では「妻」の割合が一番高くなっている。子どもの成長にあわせ世話をする分担が変化していることが窺える。

地区別でみると、「増穂地区」で「妻」の割合が最も高く（36.2%）、「白里地区」で「家族で分担」の割合が高くなっている（23.1%）。

		全体	夫	妻	家族で分担	家族（親・子）	該当しない
全体		488	0.6%	32.2%	17.6%	2.5%	47.1%
性別	男性	208	1.4%	17.8%	23.6%	1.9%	55.3%
	女性	274	0.0%	42.3%	13.5%	2.9%	41.2%
	その他	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	5	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	40.0%
年代	18～20歳代	17	0.0%	23.5%	29.4%	0.0%	47.1%
	30歳代	34	0.0%	26.5%	55.9%	2.9%	14.7%
	40歳代	51	2.0%	52.9%	27.5%	2.0%	15.7%
	50歳代	88	1.1%	38.6%	14.8%	1.1%	44.3%
	60歳代	143	0.7%	29.4%	15.4%	2.8%	51.7%
	70歳以上	147	0.0%	25.2%	8.2%	3.4%	63.3%
	無回答	8	0.0%	50.0%	12.5%	0.0%	37.5%
居住地区	瑞穂地区	128	0.0%	31.3%	18.8%	3.1%	46.9%
	山辺地区	50	0.0%	30.0%	14.0%	2.0%	54.0%
	大網地区	115	0.9%	31.3%	15.7%	2.6%	49.6%
	増穂地区	127	0.8%	36.2%	17.3%	2.4%	43.3%
	白里地区	65	1.5%	27.7%	23.1%	1.5%	46.2%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

⑩家族の看護・介護

年代別でみると、「70歳代以上」では、「妻」と回答した割合が一番高くなっているが、70歳未満の全世代においては、「家族で分担」する割合が「夫」や「妻」より高く、看護や介護は一人で負担することが難しいことであることが窺える。

地区別でみると、「山辺地区」で、「妻」と「家族で分担」が同じ割合になっている(25.0%)。

		全体	夫	妻	家族で分担	家族（親・子）	該当しない
全体		483	2.5%	20.9%	20.5%	2.1%	54.0%
性別	男性	205	3.4%	11.2%	22.0%	0.5%	62.9%
	女性	272	1.8%	28.3%	19.5%	3.3%	47.1%
	その他	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	無回答	5	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%
年代	18～20歳代	17	0.0%	11.8%	17.6%	0.0%	70.6%
	30歳代	33	0.0%	15.2%	24.2%	6.1%	54.5%
	40歳代	50	0.0%	20.0%	28.0%	2.0%	50.0%
	50歳代	87	2.3%	25.3%	27.6%	0.0%	44.8%
	60歳代	139	2.2%	20.1%	22.3%	2.2%	53.2%
	70歳以上	149	4.7%	21.5%	10.1%	2.7%	61.1%
	無回答	8	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%
居住地区	瑞穂地区	124	3.2%	20.2%	18.5%	4.0%	54.0%
	山辺地区	52	3.8%	25.0%	25.0%	1.9%	44.2%
	大網地区	112	1.8%	21.4%	20.5%	0.0%	56.3%
	増穂地区	128	2.3%	21.1%	17.2%	2.3%	57.0%
	白里地区	64	1.6%	17.2%	26.6%	1.6%	53.1%
	無回答	3	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%

(結婚（事実婚を含む）している方のみ回答)

⑪地域行事への参加

年代別でみると、「40 歳代」までは「夫」と「妻」の割合に大きな差はなく、「家族で分担」の割合が高くなっているが、「50 歳代」以上は「夫」の割合が高くなっており、地域行事への参加は男性がするもの、という考え方が強いと思われる。

地区別でみると、「夫」が最も高いのは「白里地区」となっている（38.8%）。

		全 体	夫	妻	家 族 で 分 担	家 族 （ 親 ・ 子 ）	該 当 し な い
全体		501	32.9%	18.2%	28.9%	4.2%	15.8%
性 別	男性	211	42.2%	12.8%	27.0%	2.4%	15.6%
	女性	284	26.1%	22.2%	29.9%	5.6%	16.2%
	その他	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	無回答	5	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%
年 代	18～20歳代	17	5.9%	5.9%	29.4%	0.0%	58.8%
	30歳代	34	14.7%	17.6%	41.2%	2.9%	23.5%
	40歳代	51	13.7%	17.6%	39.2%	7.8%	21.6%
	50歳代	90	28.9%	18.9%	31.1%	4.4%	16.7%
	60歳代	145	39.3%	17.2%	29.7%	0.7%	13.1%
	70歳以上	156	42.3%	20.5%	20.5%	7.1%	9.6%
	無回答	8	37.5%	12.5%	37.5%	0.0%	12.5%
居 住 地 区	瑞穂地区	131	30.5%	16.0%	33.6%	5.3%	14.5%
	山辺地区	52	28.8%	28.8%	26.9%	1.9%	13.5%
	大網地区	116	37.9%	22.4%	19.0%	2.6%	18.1%
	増穂地区	132	29.5%	17.4%	34.1%	2.3%	16.7%
	白里地区	67	38.8%	7.5%	28.4%	10.4%	14.9%
	無回答	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%

（結婚（事実婚を含む）している方のみ回答）

【仕事について】

問 4 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思いますか。

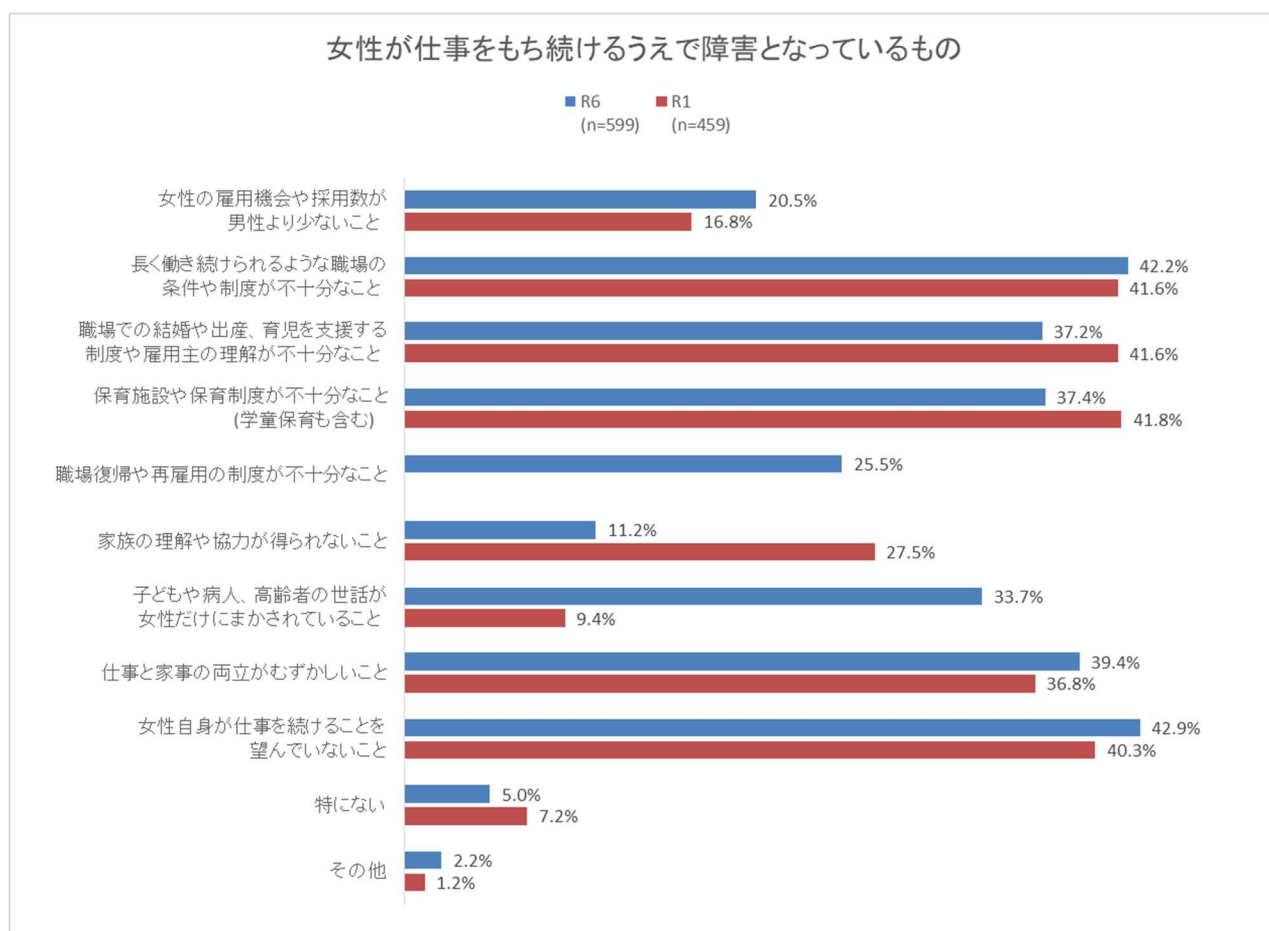
【全体】

「女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと」が 42.9%と最も高く、次に「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」が 42.2%、「保育施設や保育制度が不十分なこと」が 37.4%、「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用者の理解が不十分なこと」が 37.2%とほぼ同じ割合となっている。

【前回との比較】

「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用者の理解が不十分なこと」、「保育施設や保育制度が不十分なこと」がそれぞれ 4.4 ポイント、「家族の理解や協力が得られないこと」が 16.3 ポイントと大幅に低下している。

大幅に高くなっている項目は、「子供や病人、高齢者の世話が女性だけに任されていること」で、24.3 ポイント高くなっている。



※「職場復帰や再雇用の制度が不十分なこと」の項目は、今回の調査で追加した。

(その他意見)

- ・女性が家庭にいるというイメージを社会が持っているように思えること。
- ・女性自身の意識。女性がやれることはあるがやらないだけ。
- ・男女での賃金格差。公務員はそんなことはないが、民間企業だとまだ男性と同様に昇給するというのは多くはないと感じる。民間大手に2社ほど在籍していたが、傾向としては未だそのような形が多い。そのせいで、育児休暇の取得などでも男性が働くのと同等の収入が確保されないことから、女性が取得するパターンも多い。
- ・周囲の人の理解度による。

【属性別】

性別でみると、「男性」では「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」が最も高く（47.0%）、「女性」では「女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと」が最も高くなっている（47.6%）。

年代別でみると、「30歳代」で「女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと」が最も高く（53.2%）、「仕事と家事の両立がむずかしいこと」の割合も最も高くなっている（46.8%）。問3の家庭における役割分担の回答では、家族の看護・介護では、妻より家族で分担する割合が高い結果となっているが、女性が仕事を続けるうえでは大きな障害となっていることが分かる。

このような結果から、仕事を続けることが難しい要因の一つとして家事の負担が大きいことが読み取れる。

女性が仕事をもち続けるうえで障害となっているもの（1）

		全体	女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと	長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと	職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと	（保育施設や保育制度が不十分なこと（学童保育も含む）	職場復帰や再雇用の制度が不十分なこと	家族の理解や協力が得られないこと
全体		599	20.5%	42.2%	37.2%	37.4%	25.5%	11.2%
性別	男性	253	27.3%	47.0%	43.9%	38.3%	29.6%	7.1%
	女性	336	15.5%	39.6%	32.1%	36.9%	21.4%	14.3%
	その他	2	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	8	25.0%	12.5%	37.5%	37.5%	75.0%	12.5%
年代	18～20歳代	29	27.6%	37.9%	37.9%	44.8%	31.0%	3.4%
	30歳代	47	19.1%	29.8%	51.1%	51.1%	8.5%	8.5%
	40歳代	61	11.5%	36.1%	32.8%	47.5%	18.0%	11.5%
	50歳代	111	21.6%	35.1%	33.3%	33.3%	18.9%	11.7%
	60歳代	167	20.4%	47.9%	38.3%	44.3%	29.9%	13.8%
	70歳以上	174	22.4%	47.7%	35.6%	26.4%	31.6%	10.3%
	無回答	10	20.0%	40.0%	50.0%	10.0%	30.0%	10.0%
居住地区	瑞穂地区	154	18.2%	46.8%	40.9%	37.0%	26.6%	13.6%
	山辺地区	59	22.0%	49.2%	35.6%	35.6%	30.5%	11.9%
	大網地区	139	20.1%	44.6%	38.1%	31.7%	26.6%	6.5%
	増穂地区	160	23.1%	41.3%	35.0%	44.4%	21.3%	13.1%
	白里地区	81	18.5%	28.4%	34.6%	37.0%	24.7%	8.6%
	無回答	6	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%	50.0%	33.3%

女性が仕事をもち続けるうえで障害となっているもの（２）

		全体	子どもや病人、高齢者の世話が 女性だけにまかされていること	仕事と家事の両立がむずかしいこと	女性自身が仕事を続けることを 望んでいないこと	特 に な い	そ の 他
全体		599	33.7%	39.4%	42.9%	5.0%	2.2%
性 別	男性	253	19.0%	31.6%	36.8%	5.5%	2.8%
	女性	336	44.6%	46.1%	47.6%	4.2%	1.5%
	その他	2	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%
	無回答	8	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%
年 代	18～20歳代	29	13.8%	34.5%	41.4%	6.9%	3.4%
	30歳代	47	34.0%	46.8%	53.2%	4.3%	6.4%
	40歳代	61	41.0%	37.7%	41.0%	3.3%	0.0%
	50歳代	111	36.0%	40.5%	43.2%	7.2%	2.7%
	60歳代	167	29.9%	42.5%	45.5%	1.2%	0.6%
	70歳以上	174	36.2%	35.6%	38.5%	7.5%	2.9%
	無回答	10	40.0%	30.0%	40.0%	10.0%	0.0%
居 住 地 区	瑞穂地区	154	27.9%	41.6%	44.2%	5.2%	0.6%
	山辺地区	59	35.6%	45.8%	47.5%	3.4%	0.0%
	大網地区	139	35.3%	32.4%	37.4%	5.0%	4.3%
	増穂地区	160	33.1%	39.4%	41.9%	4.4%	1.3%
	白里地区	81	40.7%	44.4%	49.4%	6.2%	4.9%
	無回答	6	50.0%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%

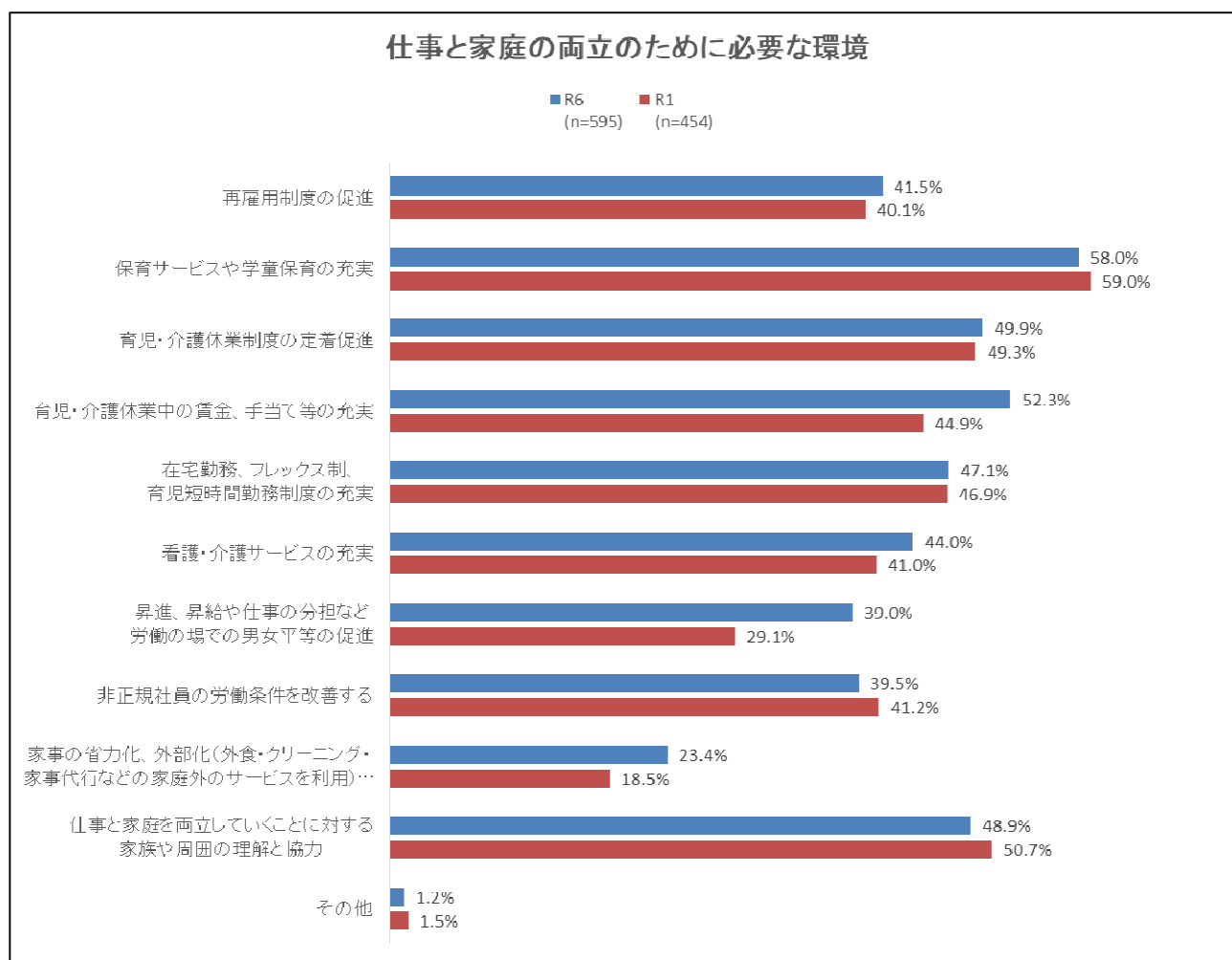
問5 男女とも仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。

【全体】

「保育サービスや学童保育の充実」の割合が最も高く（58.0%）、「家事の省力化、外部化等による家事負担の軽減」が最も低かった（23.4%）。家事は負担ではあるが外部などに頼る意識は低いということが窺える。その他の項目は、おおよそ40%から50%程度の割合であった。

【前回との比較】

全体的には回答に大きな変動は見られないが、「育児・介護休業中の賃金、手当等」の充実」「昇進、昇給や仕事の分担など労働の場での男女平等の促進」については7%から10%増加しており、仕事と家庭の両立のために必要となる環境について、勤務先等へ環境整備を求める意識が高まっていることが窺える。



(その他意見)

- ・休業者のいる職場で欠員をフォローする側への賃金手当の充実。
- ・メンタルケア、リフレッシュがとても重要。
- ・男性の給与が下がり、女性がフルで働かなければ家計を維持できなくなってしまった現在の状況はおかしいと思います。むりやり働きたくない女性も多いと思います。遺族年金を減らして女性が働かなければならない状況に追い込む政治はおかしいと思います。家庭や地域での働きも立派な労働です。

【属性別】

性別でみると、男女ともに「保育サービスや学童保育の充実」の割合が最も高い。次に高い項目が、「男性」で「育児・介護休業中の賃金・手当等の充実（12.1%）」だが、「女性」では「仕事と家庭を両立していくことに対する家族や周囲の理解と協力（12.0%）」となっており、男女では意識の違いが見られる。

地区別でみると、「白里地区」が、「看護・介護サービスの充実」の割合が高くなっている（10.5%）。

仕事と家庭の両立のために必要な環境（1）

		全体	再雇用制度の促進	保育サービスや学童保育の充実	育児・介護休業制度の定着促進	育児・介護休業中の賃金、手当等 の充実	在宅勤務、フレックス制、 育児短時間勤務 制度の充実	看護・介護サービスの充実
全体		595	41.5%	58.0%	49.9%	52.3%	47.1%	44.0%
性別	男性	255	49.4%	59.6%	48.2%	53.3%	49.0%	38.4%
	女性	331	34.7%	56.5%	50.5%	51.4%	45.0%	48.0%
	その他	2	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%
	無回答	7	71.4%	71.4%	85.7%	57.1%	57.1%	57.1%
年代	18～20歳代	29	27.6%	82.8%	55.2%	44.8%	69.0%	27.6%
	30歳代	47	21.3%	59.6%	38.3%	61.7%	66.0%	27.7%
	40歳代	61	24.6%	62.3%	44.3%	50.8%	55.7%	23.0%
	50歳代	110	43.6%	48.2%	42.7%	57.3%	42.7%	45.5%
	60歳代	167	47.9%	61.1%	57.5%	53.9%	43.1%	52.1%
	70歳以上	172	48.3%	54.7%	51.2%	45.3%	41.9%	50.0%
	無回答	9	33.3%	66.7%	55.6%	77.8%	44.4%	44.4%
居住地区	瑞穂地区	152	42.8%	62.5%	48.7%	53.3%	50.7%	42.8%
	山辺地区	59	39.0%	55.9%	49.2%	54.2%	39.0%	37.3%
	大網地区	138	42.8%	65.2%	49.3%	54.3%	52.9%	52.2%
	増穂地区	162	42.0%	50.0%	50.0%	53.1%	42.0%	39.5%
	白里地区	79	36.7%	53.2%	50.6%	41.8%	44.3%	46.8%
	無回答	5	60.0%	80.0%	100.0%	80.0%	80.0%	40.0%

仕事と家庭の両立のために必要な環境（２）

		全 体	昇 進、 昇 給 や 仕 事 の 分 担 な ど 労 働 の 場 で の 男 女 平 等 の 促 進	非 正 規 社 員 の 労 働 条 件 を 改 善 す る	家 事 の 省 力 化 、 外 部 化 （ 外 食 ・ ク リ ー ニ ン グ ・ 家 事 代 行 な ど の 家 庭 外 の サ ー ビ ス を 利 用 ） な ど に よ る 家 事 負 担 の 軽 減	仕 事 と 家 庭 を 両 立 し て い く こ と に 対 す る 家 族 や 周 圍 の 理 解 と 協 力	そ の 他
全体		595	39.0%	39.5%	23.4%	48.9%	1.2%
性 別	男性	255	40.8%	39.6%	18.8%	42.7%	1.2%
	女性	331	37.5%	39.6%	26.6%	53.5%	1.2%
	その他	2	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	無回答	7	42.9%	42.9%	28.6%	57.1%	0.0%
年 代	18～20歳代	29	37.9%	20.7%	20.7%	44.8%	0.0%
	30歳代	47	34.0%	14.9%	34.0%	53.2%	2.1%
	40歳代	61	44.3%	21.3%	24.6%	41.0%	1.6%
	50歳代	110	35.5%	31.8%	25.5%	50.0%	0.9%
	60歳代	167	40.7%	49.1%	19.2%	46.1%	1.2%
	70歳以上	172	39.5%	51.2%	22.7%	52.3%	0.6%
	無回答	9	33.3%	44.4%	33.3%	66.7%	11.1%
居 住 地 区	瑞穂地区	152	35.5%	40.1%	25.7%	52.6%	3.3%
	山辺地区	59	42.4%	33.9%	27.1%	49.2%	0.0%
	大網地区	138	44.2%	43.5%	21.0%	52.9%	0.7%
	増穂地区	162	41.4%	40.7%	23.5%	44.4%	0.6%
	白里地区	79	27.8%	32.9%	20.3%	43.0%	0.0%
	無回答	5	60.0%	40.0%	20.0%	60.0%	0.0%

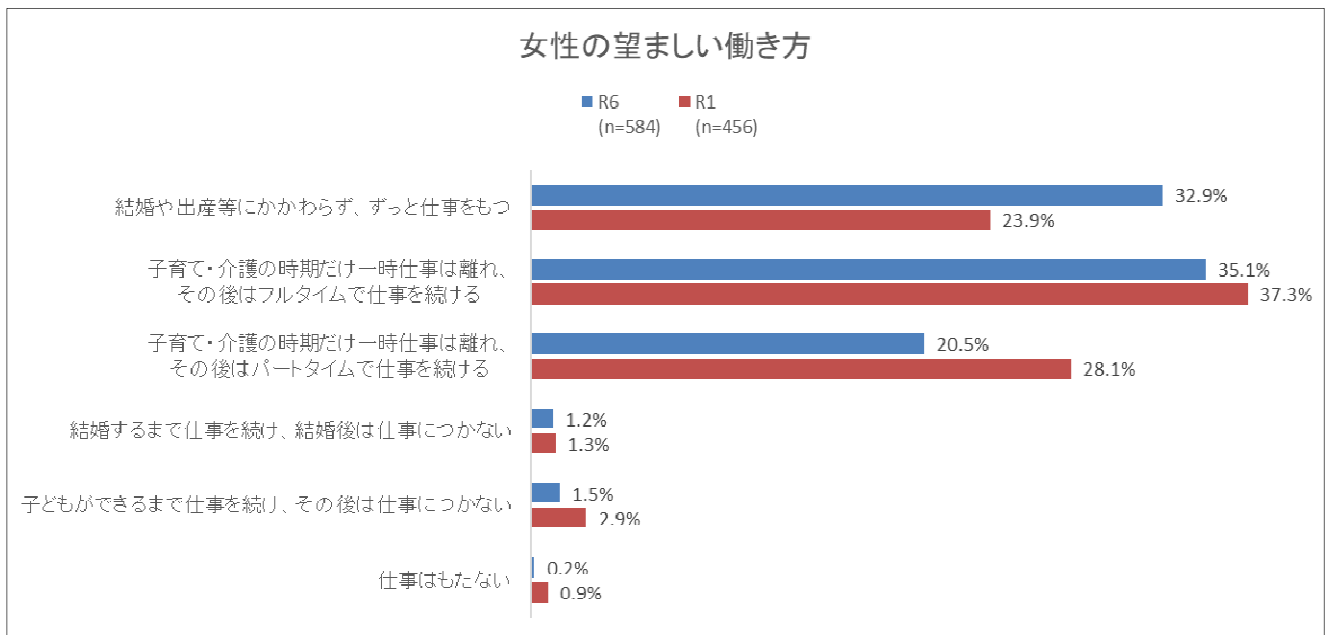
問 6 女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか。

【全体】

前回の調査と同様に「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が最も高く（35.1%）、次いで「結婚や出産等にかかわらず、ずっと仕事をもつ」となっている（32.9%）。

【前回との比較】

「結婚や出産に関わらずずっと仕事をもつ」が 9.0 ポイント増加し、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が 2.2 ポイント、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が 7.6 ポイント低下していることから、ライフスタイルが変化しても女性が働き続けるという意識が高くなっていることが窺える。



（その他意見）

- ・人それぞれ望ましいとかはない。
- ・働く意思のある人が望む働き方ができることが望ましい。
- ・子育て・介護の時期だけ一時休職し、同じ会社（仕事）に同じ地位で復帰できる。
- ・各自が納得のいく働き方であってワクにとらわれるべきではない。
- ・女性本人が望むように働ける事がいいと思う。
- ・結婚、出産の機会があれば、都度本人の希望する働き方や働かない選択ができることが望ましい。
- ・望ましい生き方は人それぞれであり、ステレオタイプを作るべきでない。
- ・その人の環境、状況によって違うので、望ましいかという質問が違うと思う。
- ・個人個人で望む形態にすればいい。

【属性別】

性別でみると、「結婚や出産に関わらずずっと仕事をもつ」の割合が「男性」（28.1％）より「女性」（37.1％）が高く、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」の割合が「女性」（32.8％）より「男性」（39.0％）が高かった。

世代別でみると、「20 歳代」で「結婚や出産に関わらずずっと仕事をもつ」の割合が最も低く（24.1％）、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が最も高かった（34.5％）。

今回の調査では、全世代で子育て・介護の時期だけ一時仕事を離れたとしても仕事を持ち続けるという意識が窺える一方で、子育て世代である「30 歳代」では「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」とした割合が他の世代と比較して顕著に低かった。

地区別でみると、「山辺地区」で「結婚や出産に関わらずずっと仕事をもつ」の割合が最も低く（26.3％）、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が最も高かった（47.4％）。

		全体	結婚や出産に関わらず、ずっと仕事をもつ	子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育て・介護の時期はパートタイムで仕事を続ける	結婚するまで仕事を続け、結婚後は仕事を続ける	子どもができるまで仕事を続け、その後はパートタイムで仕事を続ける	仕事はもたない	その他
全体		584	32.9%	35.1%	20.5%	1.2%	1.5%	0.2%	8.6%
性別	男性	249	28.1%	39.0%	20.5%	2.4%	0.8%	0.4%	8.8%
	女性	326	37.1%	32.8%	19.6%	0.3%	2.1%	0.0%	8.0%
	その他	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	無回答	7	0.0%	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
年代	18～20歳代	29	24.1%	37.9%	34.5%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%
	30歳代	47	34.0%	23.4%	19.1%	0.0%	6.4%	0.0%	17.0%
	40歳代	61	34.4%	34.4%	21.3%	0.0%	0.0%	0.0%	9.8%
	50歳代	110	32.7%	31.8%	19.1%	1.8%	1.8%	0.9%	11.8%
	60歳代	165	35.2%	36.4%	17.0%	2.4%	0.0%	0.0%	9.1%
	70歳以上	164	31.7%	39.6%	22.0%	0.6%	1.8%	0.0%	4.3%
	無回答	8	25.0%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
居住地区	瑞穂地区	152	37.5%	33.6%	18.4%	0.0%	0.7%	0.0%	9.9%
	山辺地区	57	26.3%	47.4%	17.5%	1.8%	0.0%	0.0%	7.0%
	大網地区	138	38.4%	34.1%	15.9%	1.4%	1.4%	0.0%	8.7%
	増穂地区	159	27.7%	35.8%	23.9%	2.5%	2.5%	0.6%	6.9%
	白里地区	73	30.1%	30.1%	27.4%	0.0%	2.7%	0.0%	9.6%
	無回答	5	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%

問7 あなたの職場では、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

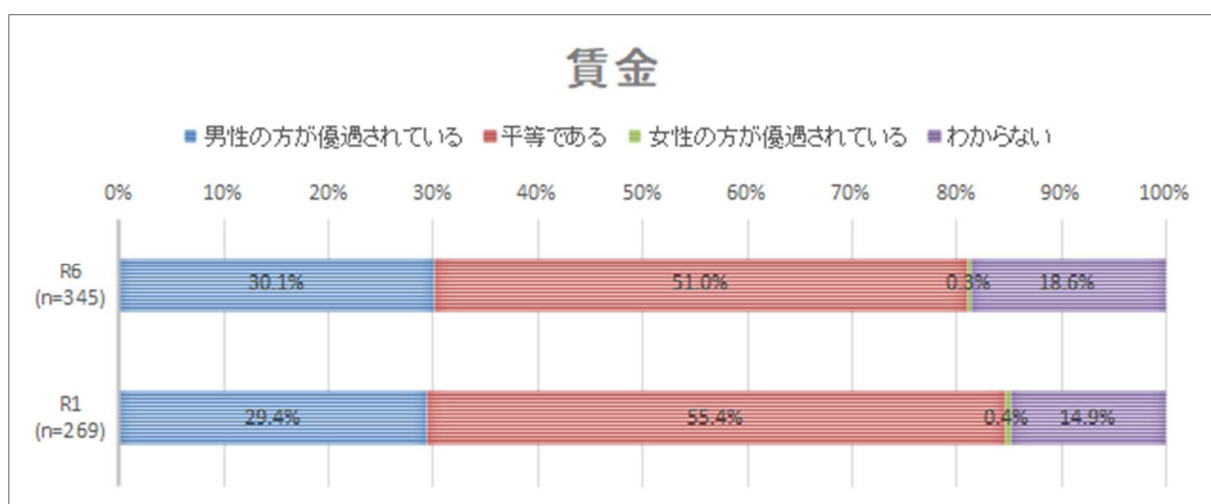
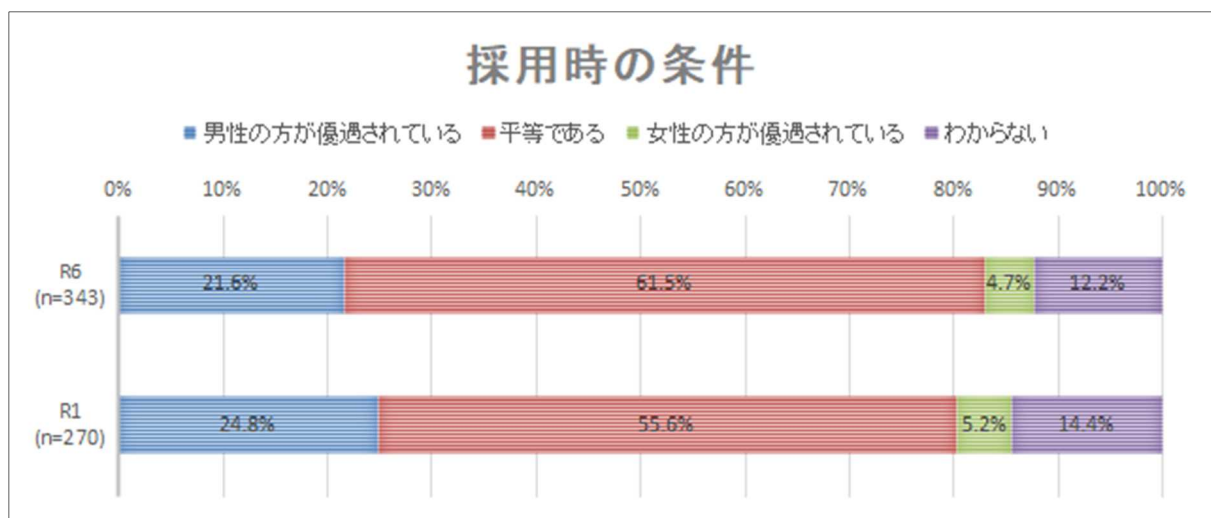
【全体】

全体的に「平等である」の割合が高くなっており、中でも「仕事の内容、研修の機会」が最も高く（65.7%）、次いで「採用時の条件」が61.5%という結果となっている。「昇級や昇格」（43.1%）や「育児・介護休業等の制度」（44.3%）は、平等であるが50%を下回り、特に「育児・介護休業等の制度」については、その他の項目に比べて「女性のほうが優遇されている」が26.2%と最も高くなっている。

【前回との比較】

「平等である」が増加した項目は、「採用時の条件（5.9ポイント）」、「仕事の内容・研修の機会（4.8ポイント）」、「能力の評価（0.8ポイント）」、「昇進や昇格（0.2ポイント）」、「育児・介護休業等の制度（6.0ポイント）」、「職場全体の意識（3.5ポイント）」であった。

また、ほとんどの項目で「男性の方が優遇されている」が減少したが、「賃金」のみ0.7ポイント増加する結果となった。



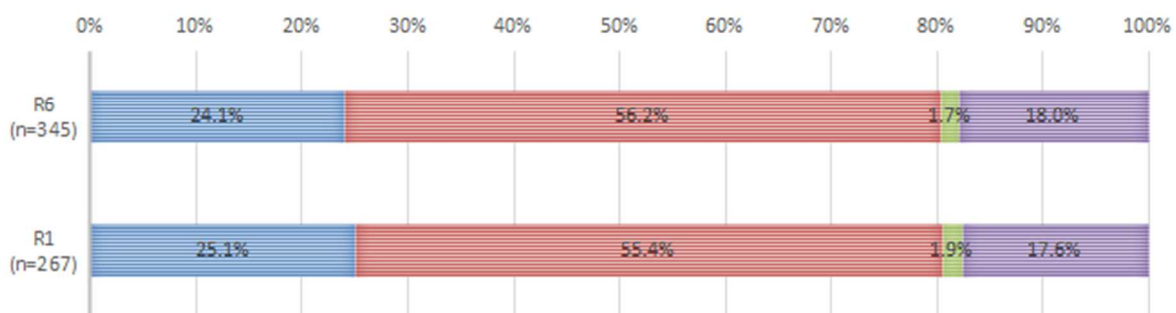
仕事の内容・研修の機会

■ 男性の方が優遇されている ■ 平等である ■ 女性の方が優遇されている ■ わからない



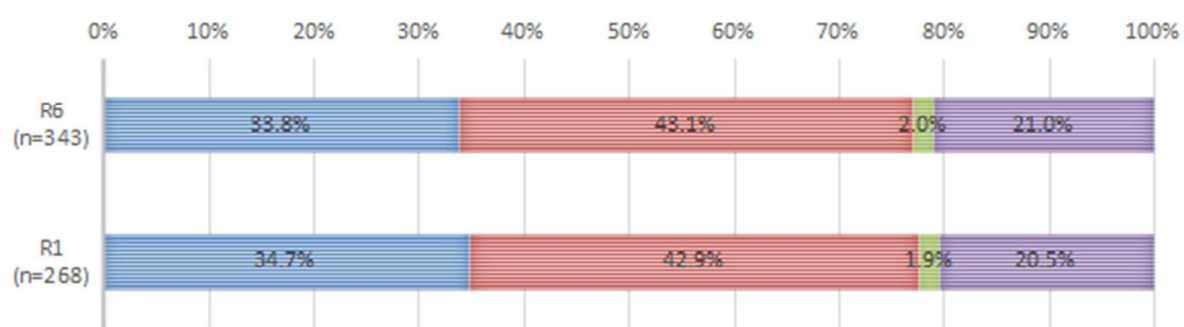
能力の評価

■ 男性の方が優遇されている ■ 平等である ■ 女性の方が優遇されている ■ わからない



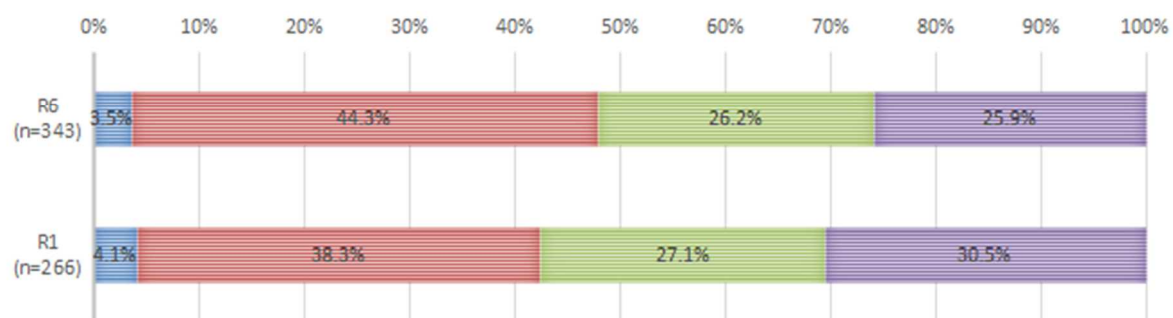
昇進や昇格

■ 男性の方が優遇されている ■ 平等である ■ 女性の方が優遇されている ■ わからない



育児・介護休業等の制度

■ 男性の方が優遇されている ■ 平等である ■ 女性の方が優遇されている ■ わからない



職場全体の意識

■ 男性の方が優遇されている ■ 平等である ■ 女性の方が優遇されている ■ わからない



【属性別】

性別でみると、どの項目も「平等である」の割合が「男性」より「女性」のほうが低くなっている。

全項目において「平等である」と回答した割合が高い年代は「18～20 歳代」で、逆に「40 歳代」「50 歳代」の割合が低い傾向にあり、世代間でも認識の違いが出ている。

① 採用時の条件

		回答合計	男性の方が優遇	平等である	女性の方が優遇	わからない
全体		343	21.6%	61.5%	4.7%	12.2%
性別	男性	170	22.4%	65.3%	4.7%	7.6%
	女性	168	21.4%	57.7%	4.8%	16.1%
	その他	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	17	23.5%	76.5%	0.0%	0.0%
	30歳代	41	26.8%	56.1%	9.8%	7.3%
	40歳代	53	28.3%	56.6%	5.7%	9.4%
	50歳代	96	17.7%	63.5%	3.1%	15.6%
	60歳代	94	18.1%	63.8%	4.3%	13.8%
	70歳以上	39	25.6%	56.4%	2.6%	15.4%
	無回答	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	93	22.6%	61.3%	1.1%	15.1%
	山辺地区	34	5.9%	73.5%	5.9%	14.7%
	大網地区	82	20.7%	63.4%	7.3%	8.5%
	増穂地区	94	25.5%	61.7%	3.2%	9.6%
	白里地区	39	25.6%	46.2%	10.3%	17.9%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

②賃金

		回答合計	男性の方が優遇 されている	平等である	女性の方が優遇 されている	わからない
全体		345	30.1%	51.0%	0.3%	18.6%
性別	男性	168	32.1%	53.6%	0.6%	13.7%
	女性	172	28.5%	48.3%	0.0%	23.3%
	その他	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
年代	18～20歳代	17	11.8%	82.4%	0.0%	5.9%
	30歳代	41	24.4%	58.5%	0.0%	17.1%
	40歳代	53	26.4%	45.3%	0.0%	28.3%
	50歳代	98	34.7%	46.9%	1.0%	17.3%
	60歳代	96	33.3%	52.1%	0.0%	14.6%
	70歳以上	37	32.4%	40.5%	0.0%	27.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	93	30.1%	53.8%	0.0%	16.1%
	山辺地区	34	14.7%	73.5%	0.0%	11.8%
	大網地区	82	30.5%	54.9%	0.0%	14.6%
	増穂地区	95	32.6%	43.2%	1.1%	23.2%
	白里地区	40	37.5%	35.0%	0.0%	27.5%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

② 仕事の内容、研修の機会

		回答合計	男性の方が優遇 されている	平等である	女性の方が優遇 されている	わからない
全体		344	19.5%	65.7%	3.5%	11.3%
性別	男性	168	19.0%	70.8%	3.6%	6.5%
	女性	171	20.5%	60.8%	2.9%	15.8%
	その他	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	無回答	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%
年代	18～20歳代	17	5.9%	82.4%	11.8%	0.0%
	30歳代	41	17.1%	65.9%	2.4%	14.6%
	40歳代	53	22.6%	62.3%	3.8%	11.3%
	50歳代	99	21.2%	61.6%	5.1%	12.1%
	60歳代	95	23.2%	68.4%	1.1%	7.4%
	70歳以上	37	10.8%	64.9%	2.7%	21.6%
	無回答	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	94	17.0%	69.1%	1.1%	12.8%
	山辺地区	34	14.7%	67.6%	8.8%	8.8%
	大網地区	81	17.3%	70.4%	3.7%	8.6%
	増穂地区	94	17.0%	66.0%	3.2%	13.8%
	白里地区	40	40.0%	45.0%	5.0%	10.0%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

④ 能力の評価

		回答合計	男性の方が優遇	平等である	女性の方が優遇	わからない
全体		345	24.1%	56.2%	1.7%	18.0%
性別	男性	169	20.7%	62.7%	2.4%	14.2%
	女性	171	28.1%	49.7%	1.2%	21.1%
	その他	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
年代	18～20歳代	17	17.6%	58.8%	5.9%	17.6%
	30歳代	41	19.5%	61.0%	2.4%	17.1%
	40歳代	53	20.8%	49.1%	3.8%	26.4%
	50歳代	99	27.3%	53.5%	2.0%	17.2%
	60歳代	95	27.4%	57.9%	0.0%	14.7%
	70歳以上	37	21.6%	62.2%	0.0%	16.2%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
居住地区	瑞穂地区	94	21.3%	58.5%	2.1%	18.1%
	山辺地区	34	17.6%	61.8%	2.9%	17.6%
	大網地区	83	27.7%	57.8%	1.2%	13.3%
	増穂地区	94	22.3%	54.3%	0.0%	23.4%
	白里地区	39	33.3%	46.2%	5.1%	15.4%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

⑤昇進や昇格

		回答合計	男性の方が優遇	平等である	女性の方が優遇	わからない
全体		343	33.8%	43.1%	2.0%	21.0%
性別	男性	169	30.8%	49.1%	3.0%	17.2%
	女性	169	37.9%	36.7%	1.2%	24.3%
	その他	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
年代	18～20歳代	17	23.5%	64.7%	0.0%	11.8%
	30歳代	41	39.0%	51.2%	2.4%	7.3%
	40歳代	53	35.8%	35.8%	1.9%	26.4%
	50歳代	97	30.9%	41.2%	3.1%	24.7%
	60歳代	95	40.0%	41.1%	1.1%	17.9%
	70歳以上	38	23.7%	44.7%	0.0%	31.6%
	無回答	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	無回答	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	94	30.9%	42.6%	2.1%	24.5%
	山辺地区	34	32.4%	50.0%	2.9%	14.7%
	大網地区	82	32.9%	46.3%	0.0%	20.7%
	増穂地区	92	32.6%	44.6%	1.1%	21.7%
	白里地区	40	47.5%	27.5%	7.5%	17.5%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

⑥育児・介護休暇等の制度

		回答合計	男性の方が優遇	平等である	女性の方が優遇	わからない
全体		343	3.5%	44.3%	26.2%	25.9%
性別	男性	168	4.8%	49.4%	28.0%	17.9%
	女性	170	2.4%	38.8%	24.7%	34.1%
	その他	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
年代	18～20歳代	17	0.0%	64.7%	29.4%	5.9%
	30歳代	41	0.0%	39.0%	34.1%	26.8%
	40歳代	53	0.0%	49.1%	28.3%	22.6%
	50歳代	98	6.1%	37.8%	28.6%	27.6%
	60歳代	95	2.1%	51.6%	22.1%	24.2%
	70歳以上	37	10.8%	32.4%	16.2%	40.5%
	無回答	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	94	2.1%	50.0%	23.4%	24.5%
	山辺地区	34	2.9%	38.2%	38.2%	20.6%
	大網地区	81	3.7%	56.8%	14.8%	24.7%
	増穂地区	93	3.2%	37.6%	33.3%	25.8%
	白里地区	40	7.5%	25.0%	30.0%	37.5%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

⑦職場全体の意識

		回答合計	男性の方が優遇	平等である	女性の方が優遇	わからない
全体		342	23.1%	52.0%	6.1%	18.7%
性別	男性	167	24.0%	54.5%	9.0%	12.6%
	女性	170	22.9%	49.4%	3.5%	24.1%
	その他	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
年代	18～20歳代	17	11.8%	52.9%	5.9%	29.4%
	30歳代	41	24.4%	58.5%	9.8%	7.3%
	40歳代	53	32.1%	45.3%	5.7%	17.0%
	50歳代	97	20.6%	46.4%	8.2%	24.7%
	60歳代	95	22.1%	57.9%	4.2%	15.8%
	70歳以上	37	24.3%	51.4%	2.7%	21.6%
	無回答	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	93	23.7%	47.3%	7.5%	21.5%
	山辺地区	34	14.7%	55.9%	8.8%	20.6%
	大網地区	82	22.0%	56.1%	4.9%	17.1%
	増穂地区	93	23.7%	53.8%	5.4%	17.2%
	白里地区	39	30.8%	46.2%	5.1%	17.9%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

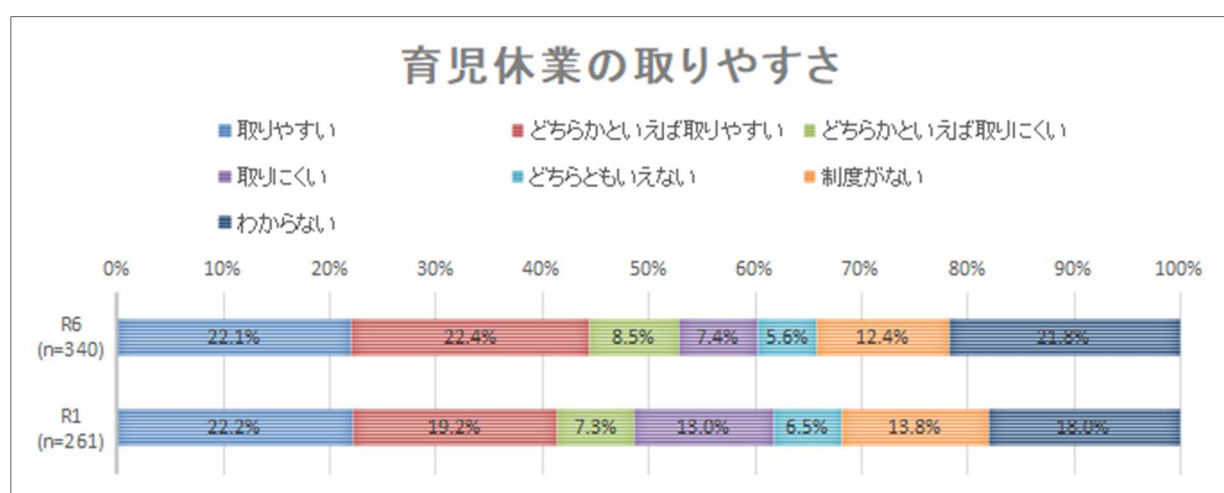
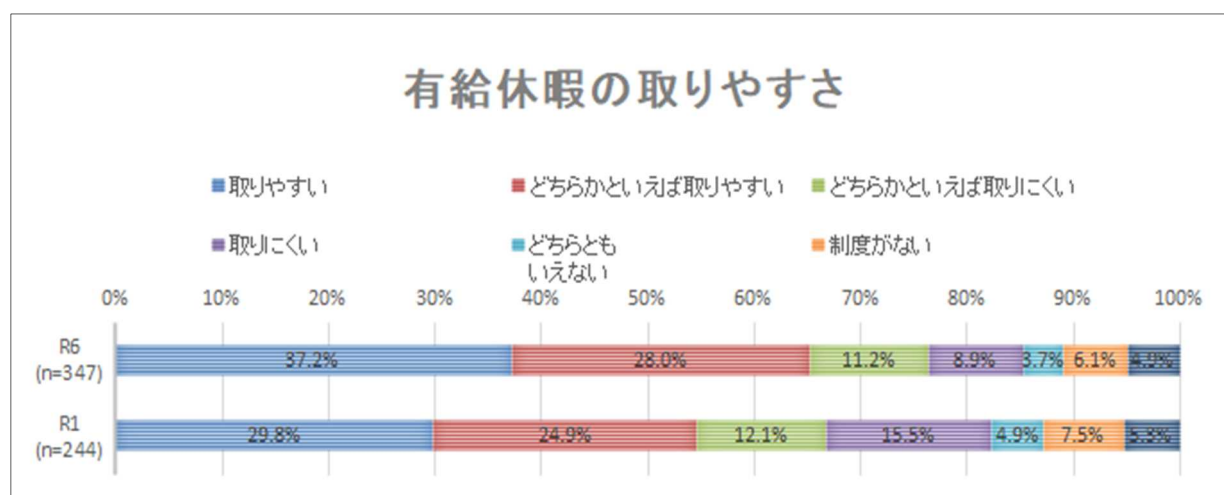
問8 あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。

【全体】

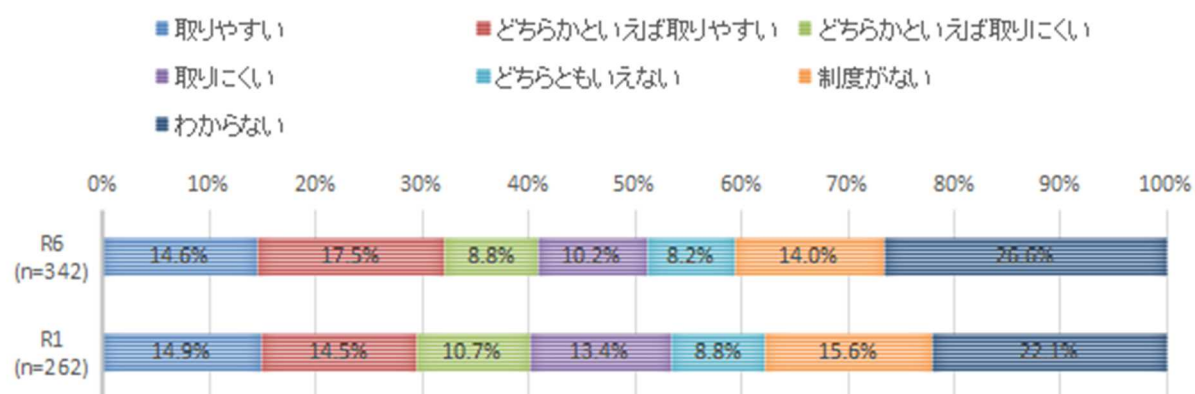
「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計割合が、「有給休暇」は65.2%と半数以上となっている。一方「育児休業」は44.5%、「介護休暇」は32.1%と半数以下になっている。

【前回との比較】

全ての項目で、「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計割合がわずかではあるが増加傾向となっており取得しやすい環境に改善されてきていることが窺える。また、「育児休業」、「介護休暇」において、「制度がない」と回答した割合が微減しており、制度が整備されてきていることが窺える。



介護休暇の取りやすさ



【属性別】

① 有給休暇

性別でみると、「女性」が「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」と回答した割合が「男性」より 5.0 ポイント低くなっている。

年代別でみると、「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」と回答した割合が最も高いのは「60 歳代」、次いで「50 歳代」、一方で「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」と回答した割合が最も高いのは「18～20 歳代」、次いで「30 歳代」という結果が出ている。

地区別でみると、「山辺地区」では「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」と回答した割合が 73.6%と最も高く、「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」が最も高いのは「増穂地区」の 24.5%となっている。

有給休暇の取りやすさ

		全体	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
全体		347	37.2%	28.0%	11.2%	8.9%	3.7%	6.1%	4.9%
性別	男性	169	40.8%	26.6%	12.4%	8.3%	2.4%	4.7%	4.7%
	女性	173	32.9%	29.5%	10.4%	9.8%	5.2%	6.9%	5.2%
	その他	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	3	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
年代	18～20歳代	17	29.4%	29.4%	11.8%	17.6%	5.9%	0.0%	5.9%
	30歳代	41	43.9%	19.5%	14.6%	12.2%	4.9%	0.0%	4.9%
	40歳代	53	34.0%	20.8%	18.9%	5.7%	5.7%	11.3%	3.8%
	50歳代	99	30.3%	35.4%	8.1%	10.1%	4.0%	8.1%	4.0%
	60歳代	97	45.4%	29.9%	10.3%	7.2%	2.1%	3.1%	2.1%
	70歳以上	37	29.7%	24.3%	8.1%	8.1%	2.7%	10.8%	16.2%
	無回答	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	94	38.3%	30.9%	11.7%	9.6%	1.1%	7.4%	1.1%
	山辺地区	34	47.1%	26.5%	0.0%	11.8%	5.9%	5.9%	2.9%
	大網地区	82	36.6%	24.4%	11.0%	8.5%	6.1%	4.9%	8.5%
	増穂地区	94	35.1%	29.8%	16.0%	8.5%	3.2%	3.2%	4.3%
	白里地区	42	31.0%	26.2%	9.5%	7.1%	4.8%	11.9%	9.5%
	無回答	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

② 育児休業

性別でみると、「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計割合が「男性」が42.8%、「女性」は45.8%でその差が3.0ポイントと男女の差がなくなっており男性の育児休業制度が整備されていることが窺える。

年代別でみると、「30歳代」で「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計割合が61.0%と最も高くなっているがそれ以外の年代は40%台でほぼ横並びになっている。「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」の合計割合は、「70歳代」を除いた年代別では16%前後と大きな開きがない結果となった。

地区別にみると、「山辺地区」で「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計割合が最も高くなっている（50.0%）。また、「増穂地区」で「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」が最も高くなっている（20.4%）。

育児休業の取りやすさ

		全体	取りやすい	どちらかといえば	どちらかといえば	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
全体		340	22.1%	22.4%	8.5%	7.4%	5.6%	12.4%	21.8%
性別	男性	166	19.9%	22.9%	12.7%	9.0%	7.8%	10.8%	16.9%
	女性	168	23.2%	22.6%	4.8%	6.0%	3.6%	12.5%	27.4%
	その他	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	4	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%
年代	18～20歳代	17	17.6%	23.5%	5.9%	11.8%	11.8%	0.0%	29.4%
	30歳代	41	31.7%	29.3%	4.9%	12.2%	4.9%	4.9%	12.2%
	40歳代	53	26.4%	13.2%	7.5%	7.5%	3.8%	18.9%	22.6%
	50歳代	98	20.4%	24.5%	8.2%	8.2%	6.1%	12.2%	20.4%
	60歳代	92	20.7%	23.9%	13.0%	3.3%	5.4%	10.9%	22.8%
	70歳以上	36	13.9%	19.4%	5.6%	8.3%	5.6%	19.4%	27.8%
	無回答	3	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%
居住地区	瑞穂地区	92	20.7%	25.0%	9.8%	4.3%	4.3%	15.2%	20.7%
	山辺地区	32	25.0%	25.0%	0.0%	9.4%	15.6%	12.5%	12.5%
	大網地区	81	22.2%	27.2%	3.7%	9.9%	4.9%	12.3%	19.8%
	増穂地区	93	24.7%	17.2%	12.9%	7.5%	5.4%	7.5%	24.7%
	白里地区	40	15.0%	17.5%	12.5%	7.5%	2.5%	15.0%	30.0%
	無回答	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%

③ 介護休業

性別でみると「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計割合が「男性」は36.2%で「女性」は28.2%と男性が8.0ポイント高い結果が出ている。

年代別でみると「18～20歳代」では「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」の合計割合が29.4%で「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計割合の11.8%を上回っているが、「30歳代」、「50歳代」、「60歳代」では「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」より「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の割合が上回っている。

地区別で見ると、「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の割合が大網地区で最も高く（37.1%）、「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」が「山辺地区」で最も低くなっている（12.2%）。

介護休業の取りやすさ

		全体	取りやすい	どちらかといえば	どちらかといえば	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
全体		342	14.6%	17.5%	8.8%	10.2%	8.2%	14.0%	26.6%
性別	男性	166	15.7%	20.5%	10.8%	11.4%	9.6%	12.0%	19.9%
	女性	170	12.9%	15.3%	7.1%	9.4%	7.1%	14.7%	33.5%
	その他	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%
年代	18～20歳代	17	5.9%	5.9%	17.6%	11.8%	17.6%	5.9%	35.3%
	30歳代	41	24.4%	12.2%	9.8%	17.1%	4.9%	2.4%	29.3%
	40歳代	53	13.2%	13.2%	7.5%	11.3%	7.5%	17.0%	30.2%
	50歳代	99	14.1%	21.2%	8.1%	11.1%	8.1%	14.1%	23.2%
	60歳代	93	15.1%	20.4%	10.8%	5.4%	8.6%	15.1%	24.7%
	70歳以上	36	11.1%	19.4%	2.8%	11.1%	8.3%	22.2%	25.0%
	無回答	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
居住地区	瑞穂地区	92	14.1%	19.6%	7.6%	9.8%	6.5%	16.3%	26.1%
	山辺地区	33	15.2%	15.2%	6.1%	6.1%	15.2%	18.2%	24.2%
	大網地区	81	17.3%	19.8%	4.9%	11.1%	8.6%	13.6%	24.7%
	増穂地区	94	14.9%	17.0%	12.8%	11.7%	8.5%	9.6%	25.5%
	白里地区	40	10.0%	12.5%	12.5%	10.0%	5.0%	15.0%	35.0%
	無回答	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%

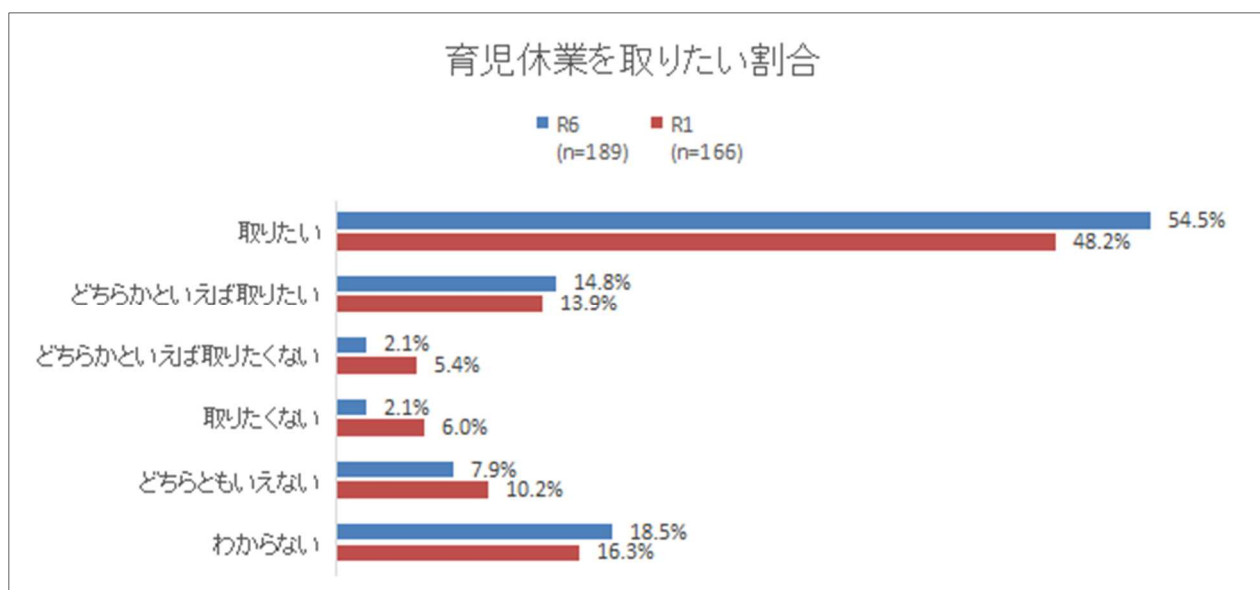
問9 あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。

【全体】

「取りたい」、「どちらかといえば取りたい」が69.3%と、7割近い数字となっている。また、「取りたくない」「どちらかといえば取りたくない」の割合は4.2%と低い割合となっている。

【前回との比較】

「取りたい」、「どちらかといえば取りたい」が前回より7.2ポイント増加し、「どちらかといえば取りたくない」、「取りたくない」は7.2ポイント減少している。



【属性別】

性別でみると、「取りたい」、「どちらかといえば取りたい」の合計が「女性」で80.7%、「男性」では59.1%となっている。

年代別にみると、子育て世代の「18～20歳代」、「30歳代」で「取りたい」が7割を超え高くなっている。「どちらかといえば取りたい」を含めると50歳代以下の世代では、7割を超える結果となっている。

地区別にみると、「取りたい」、「どちらかといえば取りたい」の合計が「大網地区」で最も高く（75.0%）「山辺地区」で最も低くなっている（61.9%）

育児休業を取りたい割合

		全体	取りたい	どちらかといえば取りたい	どちらかといえば取りたくない	取りたくない	どちらともいえない	わからない
全体		189	54.5%	14.8%	2.1%	2.1%	7.9%	18.5%
性別	男性	98	41.8%	17.3%	3.1%	3.1%	12.2%	22.4%
	女性	88	68.2%	12.5%	1.1%	1.1%	3.4%	13.6%
	その他	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年代	18～20歳代	12	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%
	30歳代	34	76.5%	11.8%	2.9%	0.0%	2.9%	5.9%
	40歳代	31	58.1%	16.1%	3.2%	3.2%	6.5%	12.9%
	50歳代	52	53.8%	17.3%	0.0%	1.9%	7.7%	19.2%
	60歳代	49	34.7%	18.4%	4.1%	4.1%	10.2%	28.6%
	70歳以上	10	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
	無回答	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
居住地区	瑞穂地区	50	50.0%	16.0%	0.0%	4.0%	12.0%	18.0%
	山辺地区	21	57.1%	4.8%	0.0%	4.8%	14.3%	19.0%
	大網地区	44	59.1%	15.9%	2.3%	0.0%	4.5%	18.2%
	増穂地区	54	59.3%	13.0%	3.7%	1.9%	5.6%	16.7%
	白里地区	19	42.1%	26.3%	5.3%	0.0%	5.3%	21.1%
	無回答	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

【女性の社会参加について】

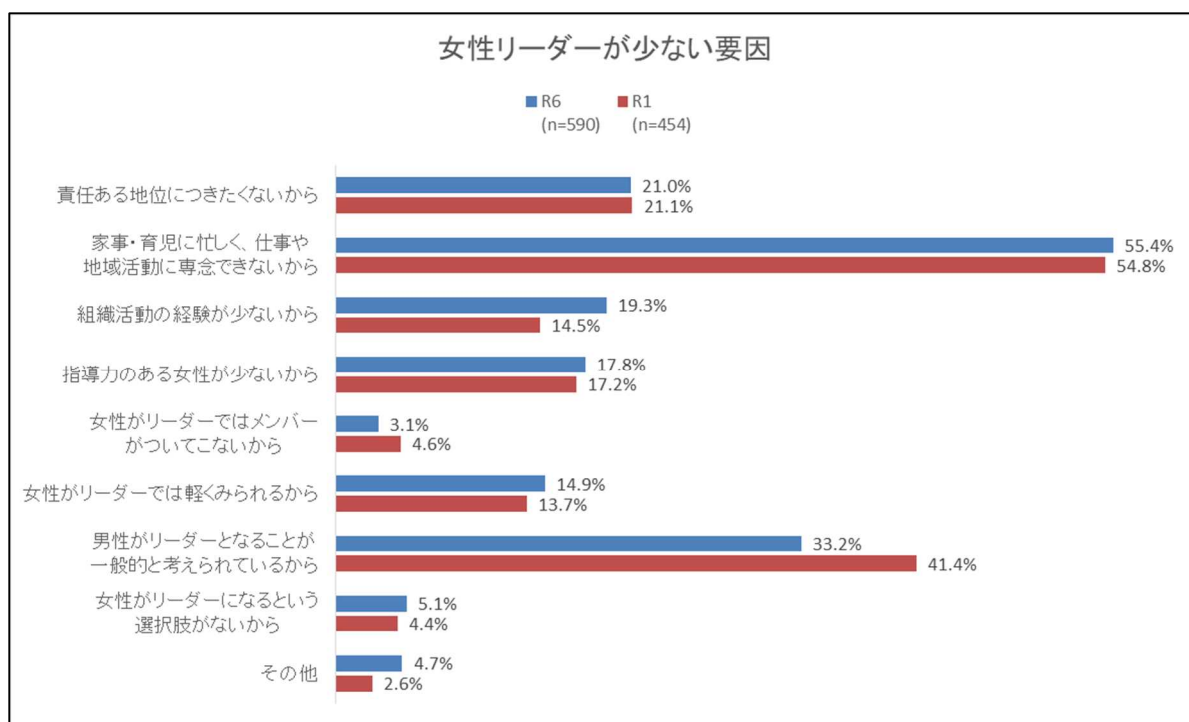
問 10 職場や地域活動で、女性のリーダーが少ないように見受けられますが、その要因は何だと思いますか。

【全体】

「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」が最も高く(55.4%)、次いで「男性がリーダーになることが一般的と考えられているから」が高くなっている(33.2%)。

【前回との比較】

最も回答率の高い「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」については、前回と比較し 0.6 ポイントの増加であり変化がないものの、「男性がリーダーになることが一般的と考えられているから」の割合が 8.2 ポイント減少している。



(その他意見)

- ・女性が活躍できる、環境づくりがされていない。
- ・地域活動で言えば絶対的な地位を持つ男性が参加しているため。
- ・家庭優先の意識があり、職場での責任的な任務に付くことを嫌がる。
- ・絶対的に職場や地域活動で正規のメンバーとして人員が少ないから。
- ・女性リーダーの方が多くいる業界にいる。設問がすでに偏見に満ちている。
- ・選挙権がある女性が、女性に投票しないから。
- ・リーダーになるメリットが無いから。
- ・みんなの意識がそれで良いとなっている。できる人は、している。
- ・始めから女性がいないと難しいことが多い。
- ・女性の方が論理的思考が苦手だから。

【属性別】

性別でみると、「責任ある地位につきたくないから」の割合が「男性」より「女性」が13.5ポイント低く、男性が思うより女性が責任ある地位につくことに対する忌避感はないことが窺える。また、「女性がリーダーでは軽く見られるから」の割合が「男性」より「女性」が14.3ポイント高くなっている。

また、「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」の割合が「男性」は51.2%、「女性」は58.4%といずれも半数を上回っていることから男女ともに女性が家事等に忙しいと感じていることが窺える。

年代別でみると、「男性がリーダーとなることが一般的と考えられているから」で最も高い48.3%となっている年代が「18～20歳代」の若い世代となっている。

地区別で見ると、年代別と同様「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」の割合が他の項目より高い回答率となっている。

女性リーダーが少ない要因

		全体	責任ある地位につきたくないから	家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから	組織活動の経験が少ないから	指導力のある女性が少ないから	女性がリーダーではメンバーがついてこないから	女性がリーダーでは軽くみられるから	男性がリーダーとなることが一般的と考えられているから	女性がリーダーになるという選択肢がないから	その他
全体		590	21.0%	55.4%	19.3%	17.8%	3.1%	14.9%	33.2%	5.1%	4.7%
性別	男性	248	28.6%	51.2%	19.4%	19.0%	2.4%	6.5%	33.5%	4.8%	7.3%
	女性	332	15.1%	58.4%	19.3%	16.9%	3.6%	20.8%	33.4%	5.4%	2.7%
	その他	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	無回答	8	25.0%	62.5%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	29	24.1%	58.6%	10.3%	17.2%	0.0%	17.2%	48.3%	0.0%	6.9%
	30歳代	47	21.3%	55.3%	14.9%	27.7%	0.0%	17.0%	27.7%	10.6%	8.5%
	40歳代	61	24.6%	60.7%	14.8%	13.1%	1.6%	13.1%	32.8%	4.9%	3.3%
	50歳代	110	20.9%	46.4%	10.9%	20.0%	4.5%	20.9%	27.3%	6.4%	8.2%
	60歳代	166	20.5%	58.4%	16.3%	18.1%	4.8%	12.7%	36.1%	4.8%	3.0%
	70歳以上	168	18.5%	54.2%	33.3%	16.1%	2.4%	12.5%	34.5%	4.2%	3.0%
	無回答	9	44.4%	88.9%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%
居住地区	瑞穂地区	154	28.6%	60.4%	22.1%	13.6%	1.9%	12.3%	31.8%	3.2%	3.2%
	山辺地区	59	11.9%	55.9%	23.7%	20.3%	3.4%	18.6%	25.4%	6.8%	5.1%
	大網地区	136	19.9%	54.4%	15.4%	16.2%	4.4%	17.6%	34.6%	5.1%	7.4%
	増穂地区	156	17.3%	52.6%	19.9%	19.9%	3.8%	14.7%	36.5%	5.1%	3.8%
	白里地区	79	21.5%	51.9%	16.5%	24.1%	1.3%	11.4%	31.6%	7.6%	5.1%
	無回答	6	33.3%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%

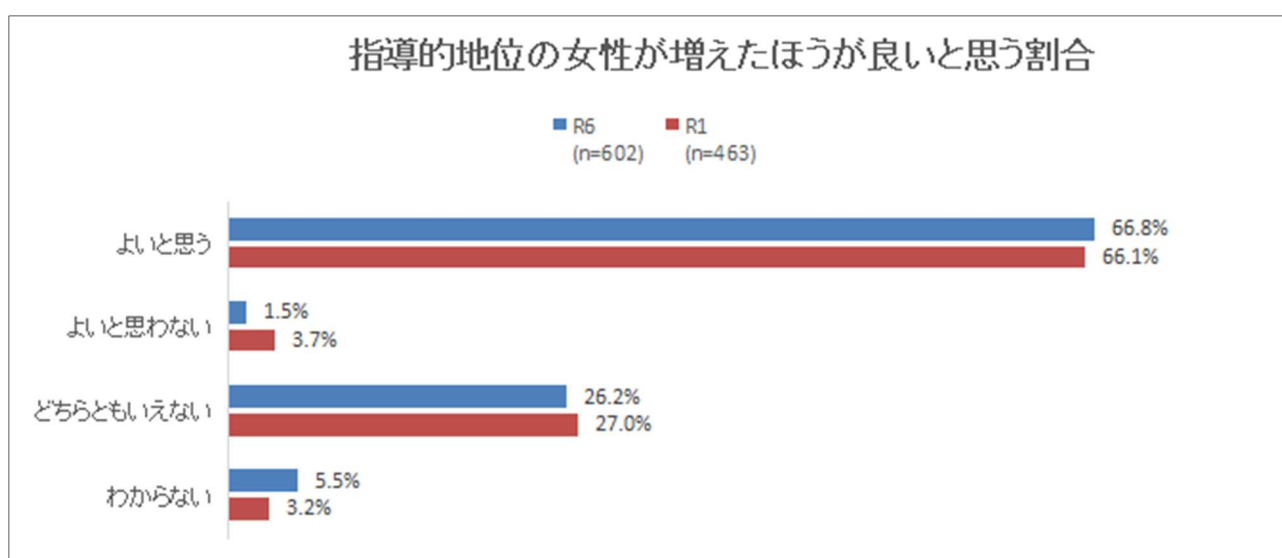
問 11 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で、女性が指導的地位に占める割合が増える方が良いと思いますか。

【全体】

「よいと思う」が最も高くなっており（66.8%）、次に「どちらともいえない」が高くなっている（26.2%）。

【前回との比較】

大きな変化は見られないが、「よいと思わない」が 2.2 ポイント減少している。



【属性別】

性別でみると、「よいと思う」は、「男性」より「女性」の方が5.8ポイント低く、「どちらともいえない」が「男性」より「女性」の方が7.4ポイント高くなっている。

年代別でみると「よいと思う」は、「30歳代」を除き50%以上と高い割合になっている。一方で「どちらともいえない」は「30歳代」が42.6%と高い割合となっている。

地区別で見ると、「よいと思う」が「山辺地区」で最も高くなっている（74.6%）。

指導的地位の女性が増えたほうが良いと思う割合

		回答合計	よいと思う	よいと思わない	どちらともいえない	わからない
全体		602	66.8%	1.5%	26.2%	5.5%
性別	男性	255	70.2%	2.0%	22.0%	5.9%
	女性	337	64.4%	1.2%	29.4%	5.0%
	その他	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	8	50.0%	0.0%	37.5%	12.5%
年代	18～20歳代	29	55.2%	0.0%	37.9%	6.9%
	30歳代	47	48.9%	0.0%	42.6%	8.5%
	40歳代	61	50.8%	3.3%	37.7%	8.2%
	50歳代	111	57.7%	2.7%	33.3%	6.3%
	60歳代	168	75.6%	0.6%	20.8%	3.0%
	70歳以上	176	76.1%	1.7%	16.5%	5.7%
	無回答	10	70.0%	0.0%	30.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	154	71.4%	3.2%	21.4%	3.9%
	山辺地区	59	74.6%	0.0%	20.3%	5.1%
	大網地区	141	64.5%	1.4%	27.7%	6.4%
	増穂地区	161	63.4%	1.2%	29.8%	5.6%
	白里地区	81	63.0%	0.0%	29.6%	7.4%
	無回答	6	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%

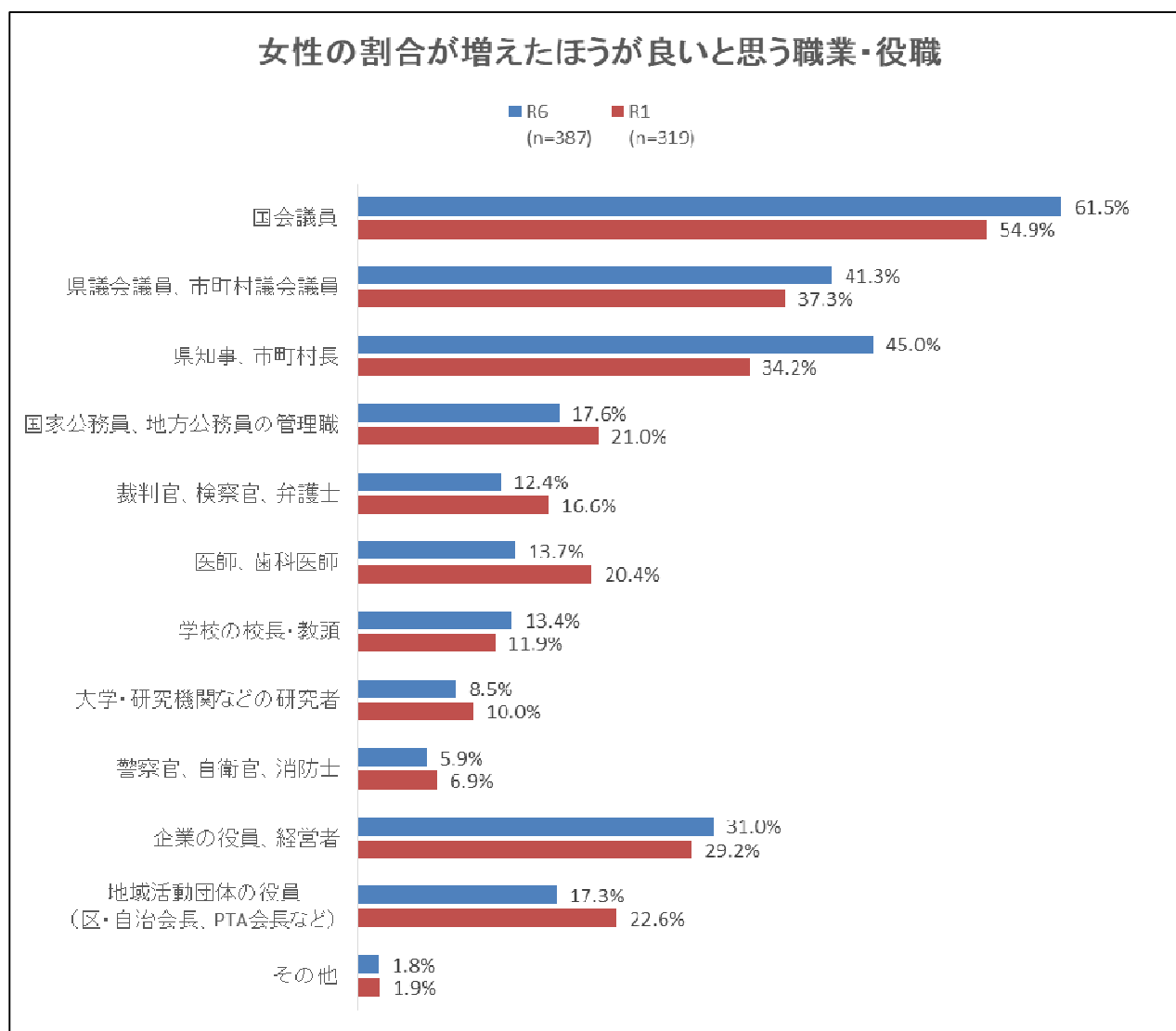
問 12 次の職業や役職において、今後、女性の役割がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。

【全体】

「国会議員」が最も高く（61.5%）、次いで「県知事、市町村長」が高くなっている（45.0%）。

【前回との比較】

最も高い項目は「国会議員」で変わらないが、次に高い項目が「県知事、市町村長」で、10.8 ポイント高くなっている。



【属性別】

性別でみると、全体的に大きな差異はないが、「企業の役員、経営者」と「地域活動団体の役員」が「女性」より「男性」の方が約 4.0 ポイント高くなっている。

年代別でみると、「県議会議員・市町村議会議員」は、「18～20 歳代」の回答割合が他の世代に比べ極端に低く、一方で「医師・歯科医師」では「18～20 歳代」の回答割合が他の世代に比べ高くなっている。また「学校の校長・教頭」は、「40 歳代」が高くなっている。

地区別で見ると、「山辺地区」で「県知事、市町村長」の割合が最も高くなっている（20.2%）。

女性の割合が増えたほうが良いと思う職業・役職（1）

		全体	国会議員	県議会議員、市町村議会議員	県知事、市町村長	国家公務員、地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	医師、歯科医師
全体		387	61.5%	41.3%	45.0%	17.6%	12.4%	13.7%
性別	男性	174	63.8%	42.0%	44.8%	17.2%	11.5%	8.6%
	女性	209	59.8%	41.6%	45.9%	18.2%	12.4%	17.2%
	その他	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	無回答	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
年代	18～20歳代	16	75.0%	25.0%	62.5%	31.3%	25.0%	37.5%
	30歳代	23	69.6%	52.2%	56.5%	8.7%	4.3%	13.0%
	40歳代	31	64.5%	45.2%	45.2%	22.6%	6.5%	19.4%
	50歳代	62	54.8%	33.9%	45.2%	12.9%	19.4%	14.5%
	60歳代	124	61.3%	41.1%	49.2%	20.2%	8.9%	8.9%
	70歳以上	127	61.4%	44.9%	36.2%	16.5%	12.6%	12.6%
	無回答	4	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%
居住地区	瑞穂地区	107	61.7%	38.3%	43.0%	23.4%	9.3%	12.1%
	山辺地区	41	63.4%	51.2%	56.1%	14.6%	12.2%	14.6%
	大網地区	90	68.9%	40.0%	44.4%	18.9%	17.8%	15.6%
	増穂地区	100	59.0%	44.0%	47.0%	14.0%	13.0%	13.0%
	白里地区	47	51.1%	38.3%	38.3%	12.8%	8.5%	12.8%
	無回答	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

女性の割合が増えたほうが良いと思う職業・役職（２）

		全体	学校の校長・教頭	大学・研究機関などの研究者	警察官、自衛官、消防士	企業の役員、経営者	地域活動団体の役員（区・自治会長、PTA会長など）	その他
全体		387	13.4%	8.5%	5.9%	31.0%	17.3%	1.8%
性別	男性	174	12.1%	8.0%	5.7%	39.1%	24.1%	0.6%
	女性	209	13.9%	9.1%	5.7%	24.9%	11.5%	2.4%
	その他	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	無回答	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	16	18.8%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%	0.0%
	30歳代	23	8.7%	13.0%	8.7%	17.4%	17.4%	4.3%
	40歳代	31	29.0%	3.2%	6.5%	38.7%	9.7%	0.0%
	50歳代	62	12.9%	9.7%	8.1%	30.6%	12.9%	3.2%
	60歳代	124	11.3%	7.3%	4.8%	36.3%	14.5%	1.6%
	70歳以上	127	11.8%	11.0%	6.3%	29.1%	26.0%	1.6%
	無回答	4	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	107	8.4%	10.3%	4.7%	35.5%	15.9%	2.8%
	山辺地区	41	14.6%	7.3%	2.4%	24.4%	17.1%	0.0%
	大網地区	90	13.3%	7.8%	2.2%	32.2%	16.7%	1.1%
	増穂地区	100	18.0%	8.0%	11.0%	27.0%	19.0%	0.0%
	白里地区	47	12.8%	8.5%	8.5%	34.0%	19.1%	4.3%
	無回答	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

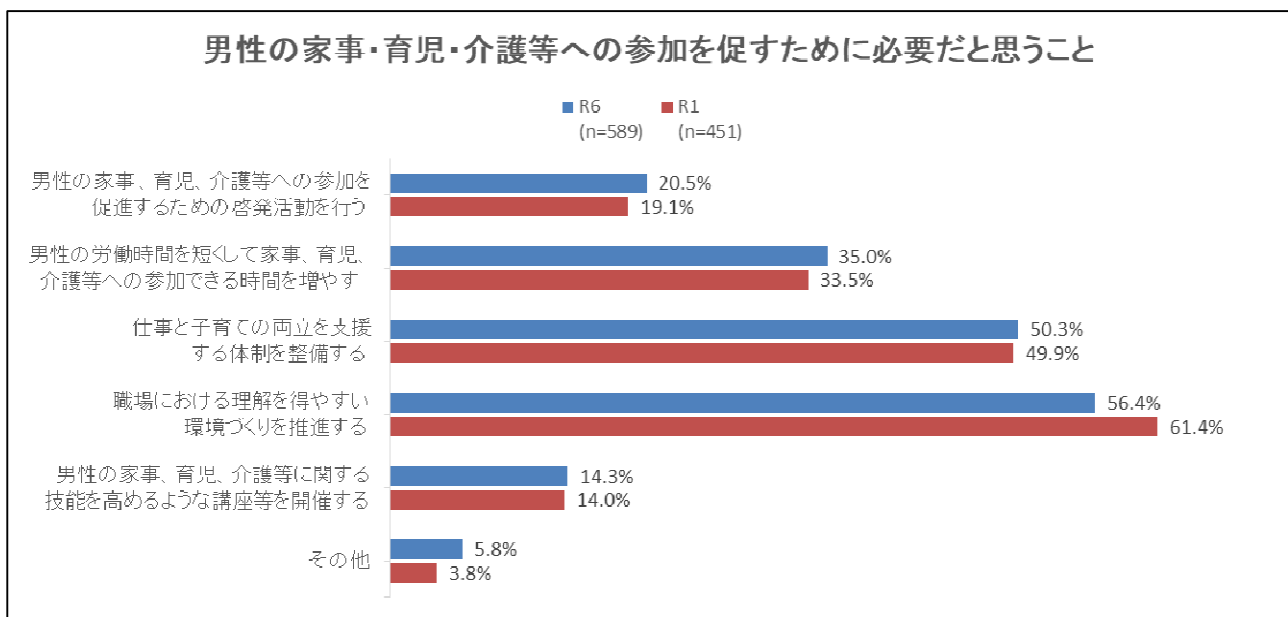
問 13 男性の家事、育児、介護等への参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【全体】

「職場における理解を得やすい環境づくりを整備する」が最も高く（56.4%）、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」が高くなっている（50.3%）。

【前回との比較】

前回と比較し大きな変化はみられなかった。



- ・何はともあれお金が無いから働かないといけない。働かないといけないから、家事、育児ができない。
- ・同じ家庭科の授業等を受けたのに活かしていないのはそもそもおかしい。家事などは生きていく為の必須事項なのだから、出来ないことは恥ずかしいという意識を全ての年代で持てるように、地域で上の立場と言われる方から率先して自分のことは自分でする姿を見せてもらいたい。
- ・男女共に、子供の頃から家事を体験させること。
- ・男性の家事に対する意識を変える。仕事をしているから家事をしなくてもよいという意識を変える。

【属性別】

性別でみると、「男性」では「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」が最も高く（56.0%）、次いで「職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が高くなっている（51.6%）。「女性」では「職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が最も高く（59.6%）、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」が高くなっている（46.4%）。

年代別でみると、「18～20歳代」と「30歳代」では「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」が最も高く、それ以外の年代は「職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が最も高くなっている。

地区別でみると、大網地区において、「職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が他地区より高くなっている（64.0%）。

		全体	男性の家事、育児、介護等への参加を促進するため、育児、介護等を行う	男性の労働参加を短くして家事、育児、介護等への参加を増やす	仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する	職場における理解を得やすい環境づくりを推進する	男性の家事、育児、介護等に関する講座等を開催する	その他
全体		589	20.5%	35.0%	50.3%	56.4%	14.3%	5.8%
性別	男性	248	20.6%	38.7%	56.0%	51.6%	12.5%	5.6%
	女性	332	20.8%	32.2%	46.4%	59.6%	15.4%	5.4%
	その他	2	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	無回答	7	14.3%	28.6%	28.6%	71.4%	28.6%	14.3%
年代	18～20歳代	29	10.3%	37.9%	62.1%	51.7%	20.7%	6.9%
	30歳代	47	17.0%	36.2%	55.3%	53.2%	17.0%	6.4%
	40歳代	61	23.0%	45.9%	44.3%	54.1%	9.8%	3.3%
	50歳代	110	21.8%	31.8%	45.5%	60.9%	9.1%	9.1%
	60歳代	166	16.3%	38.6%	54.8%	56.0%	13.3%	4.8%
	70歳以上	167	26.9%	28.1%	47.9%	56.3%	17.4%	5.4%
	無回答	9	0.0%	44.4%	44.4%	55.6%	33.3%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	153	17.0%	39.2%	48.4%	56.9%	17.0%	5.2%
	山辺地区	58	25.9%	24.1%	55.2%	51.7%	8.6%	8.6%
	大網地区	136	20.6%	29.4%	50.7%	64.0%	12.5%	5.9%
	増穂地区	158	20.9%	38.0%	50.6%	52.5%	15.2%	5.7%
	白里地区	79	22.8%	39.2%	50.6%	51.9%	11.4%	5.1%
	無回答	5	20.0%	20.0%	20.0%	80.0%	60.0%	0.0%

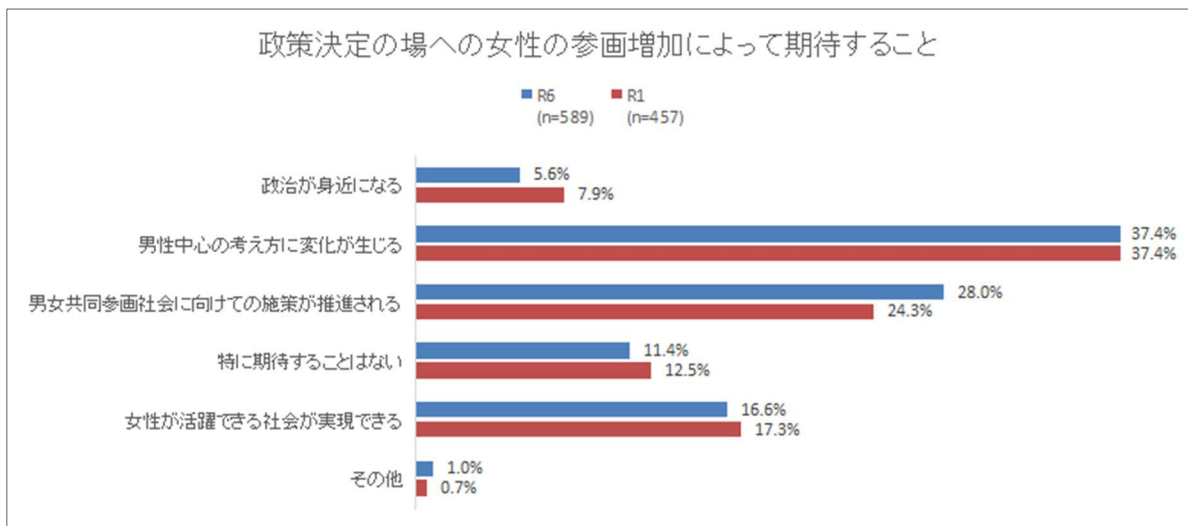
問 14 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどのように変化することに期待しますか。

【全体】

「男性中心の考え方に変化が生じる」が最も高くなっており（37.4%）次いで「男女共同参画に向けての施策が推進される」が高くなっている（28.0%）。

【前回との比較】

前回と同様の順位となっているが、「男女共同参画に向けての施策が推進される」が 3.7 ポイント増加している。



（その他意見）

- ・子どもを産みやすい育てやすい社会の実現。
- ・様々な点に置いて視野が広がるとは思います。

【属性別】

性別でみると、男女の差が大きいものとして「女性が活躍できる社会が実現できる」の割合が「男性」より「女性」の方が6.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、「40歳代」で「男性中心の考え方に変化が生じる」割合が最も高い結果となっている（47.5%）。

地区別でみると、「瑞穂地区」で「男性中心の考え方に変化が生じる」割合が最も高くなっている（39.9%）。

政策決定の場への女性の参画増加によって期待すること

		全 体	政 治 が 身 近 に な る	男 性 中 心 の 考 え 方 に 変 化 が 生 じ る	男 女 共 同 参 画 社 会 に 向 け て の 施 策 が 推 進 さ れ る	特 に 期 待 す る こ と は な い	女 性 が 活 躍 で き る 社 会 が 実 現 で き る	そ の 他
全体		589	5.6%	37.4%	28.0%	11.4%	16.6%	1.0%
性 別	男性	248	4.8%	38.7%	30.2%	12.1%	13.3%	0.8%
	女性	332	6.3%	37.0%	26.2%	10.5%	19.3%	0.6%
	その他	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	無回答	7	0.0%	14.3%	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%
年 代	18～20歳代	29	3.4%	27.6%	31.0%	17.2%	20.7%	0.0%
	30歳代	47	10.6%	25.5%	17.0%	25.5%	17.0%	4.3%
	40歳代	61	3.3%	47.5%	19.7%	9.8%	19.7%	0.0%
	50歳代	110	6.4%	33.6%	24.5%	16.4%	16.4%	2.7%
	60歳代	166	4.2%	40.4%	31.9%	10.2%	13.3%	0.0%
	70歳以上	167	6.6%	37.1%	32.9%	4.8%	18.6%	0.0%
	無回答	9	0.0%	55.6%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%
居 住 地 区	瑞穂地区	153	5.9%	39.9%	29.4%	9.2%	15.7%	0.0%
	山辺地区	59	1.7%	33.9%	33.9%	6.8%	20.3%	3.4%
	大網地区	135	4.4%	36.3%	29.6%	12.6%	17.0%	0.0%
	増穂地区	160	7.5%	37.5%	25.0%	14.4%	15.6%	0.0%
	白里地区	77	6.5%	37.7%	23.4%	10.4%	18.2%	3.9%
	無回答	5	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%

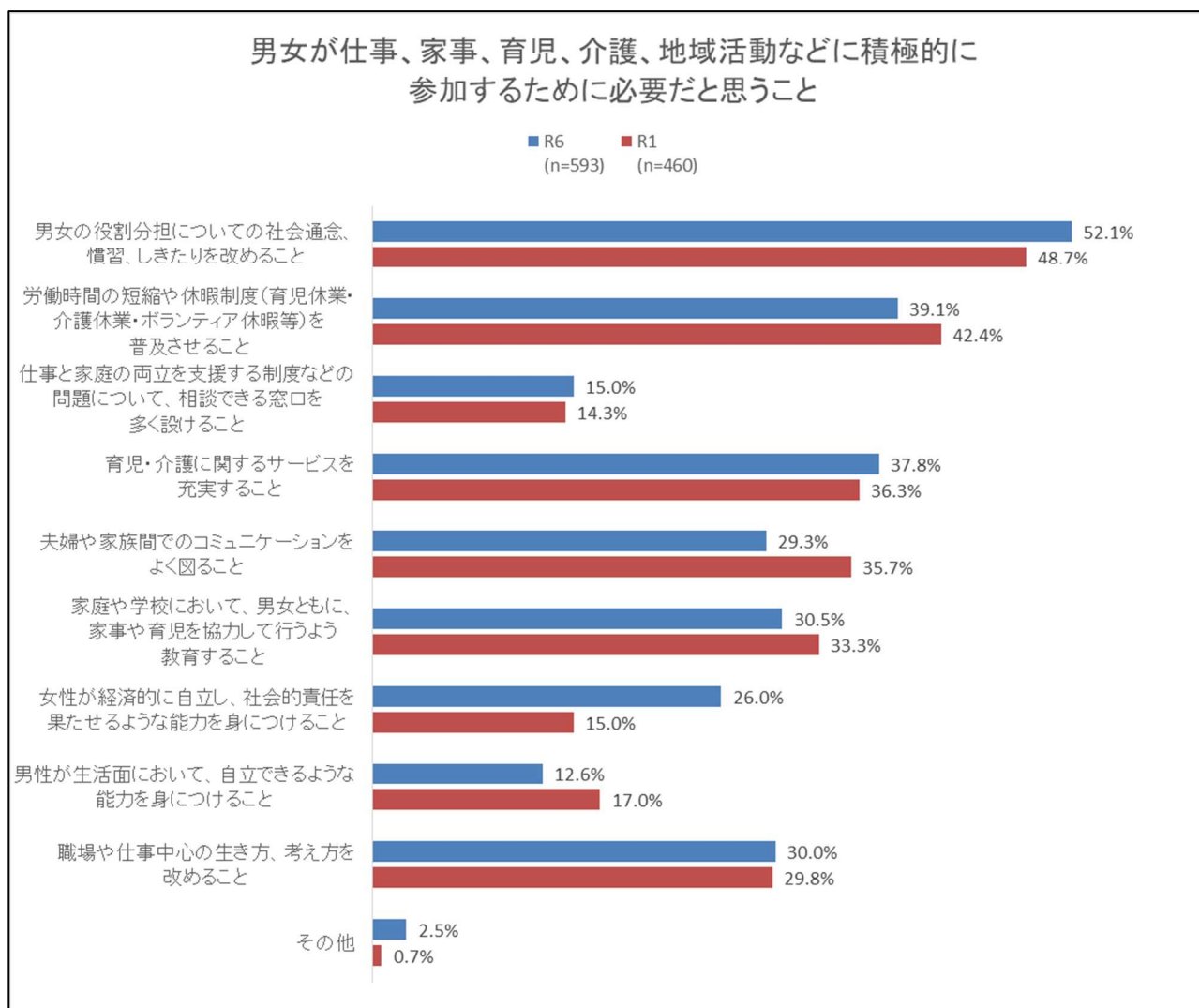
問 15 男女がともにさまざまな場面（仕事、家事、育児、介護、地域活動など）で積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

【全体】

「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高く（52.1%）、次いで「労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休業・ボランティア休暇等）を普及させること」（39.1%）、「育児・介護に関するサービスを充実すること」（37.8%）となっている。

【前回との比較】

「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高いことは変わらないが、「女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること」が 9.0 ポイント増加している。



(その他意見)

- ・補助金や手当、基本賃金上げ等の金銭面の補助。
- ・社会全体の意識の改革。
- ・労働に見合った収入と充実、経済的ゆとり（30年前の収入より低い賃金が現実）。

【属性別】

性別でみると、「家庭や学校において、男女ともに、家事や育児を協力して行うよう教育すること」が、「男性」より「女性」の方が13.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が「18～20歳代」「30歳代」で高い傾向がある。

地区別でみると、地区による大きな差異はない。

男女が仕事、家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加するために必要だと思うこと（1）

		全体	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休業・ボランティア等）を普及させること	仕事と家庭の両立を支援する制度などの問題について、相談できる窓口を多く設けること	育児・介護に関するサービスを充実すること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
全体		593	52.1%	39.1%	15.0%	37.8%	29.3%
性別	男性	252	59.9%	42.9%	17.9%	34.5%	28.6%
	女性	332	46.4%	36.4%	13.3%	40.4%	30.1%
	その他	2	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	無回答	7	28.6%	42.9%	0.0%	28.6%	28.6%
年代	18～20歳代	29	51.7%	41.4%	10.3%	31.0%	44.8%
	30歳代	47	40.4%	40.4%	17.0%	27.7%	36.2%
	40歳代	61	41.0%	41.0%	18.0%	36.1%	29.5%
	50歳代	111	52.3%	36.0%	11.7%	45.9%	25.2%
	60歳代	166	56.0%	43.4%	13.3%	42.2%	26.5%
	70歳以上	170	55.3%	36.5%	18.2%	32.9%	28.8%
	無回答	9	55.6%	22.2%	11.1%	33.3%	55.6%
居住地区	瑞穂地区	153	51.0%	37.9%	13.1%	38.6%	32.7%
	山辺地区	59	54.2%	33.9%	13.6%	45.8%	32.2%
	大網地区	137	57.7%	38.7%	14.6%	35.8%	28.5%
	増穂地区	159	48.4%	40.9%	18.9%	37.7%	22.0%
	白里地区	80	51.3%	42.5%	13.8%	35.0%	37.5%
	無回答	5	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%

男女が仕事、家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加するために必要だと思うこと（２）

		全体	家庭や学校において、男女ともに、家事や育児を協力して行うよう教育すること	女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること	男性が生活面において、自立できるような能力を身につけること	職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること	その他
全体		593	30.5%	26.0%	12.6%	30.0%	2.5%
性別	男性	252	23.0%	21.4%	10.3%	34.5%	3.2%
	女性	332	36.1%	29.2%	14.5%	25.9%	1.8%
	その他	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	無回答	7	28.6%	28.6%	14.3%	71.4%	0.0%
年代	18～20歳代	29	34.5%	24.1%	10.3%	17.2%	0.0%
	30歳代	47	21.3%	40.4%	25.5%	25.5%	10.6%
	40歳代	61	29.5%	31.1%	18.0%	36.1%	4.9%
	50歳代	111	29.7%	18.9%	6.3%	32.4%	3.6%
	60歳代	166	28.9%	22.3%	11.4%	34.3%	0.0%
	70歳以上	170	34.7%	28.2%	12.4%	25.9%	1.8%
	無回答	9	33.3%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	153	28.1%	26.8%	13.7%	32.0%	3.3%
	山辺地区	59	33.9%	22.0%	6.8%	25.4%	3.4%
	大網地区	137	32.1%	21.9%	10.9%	28.5%	2.9%
	増穂地区	159	30.8%	31.4%	13.2%	30.8%	1.3%
	白里地区	80	28.8%	21.3%	15.0%	28.8%	2.5%
	無回答	5	40.0%	60.0%	40.0%	60.0%	0.0%

【男女共同参画用語について】

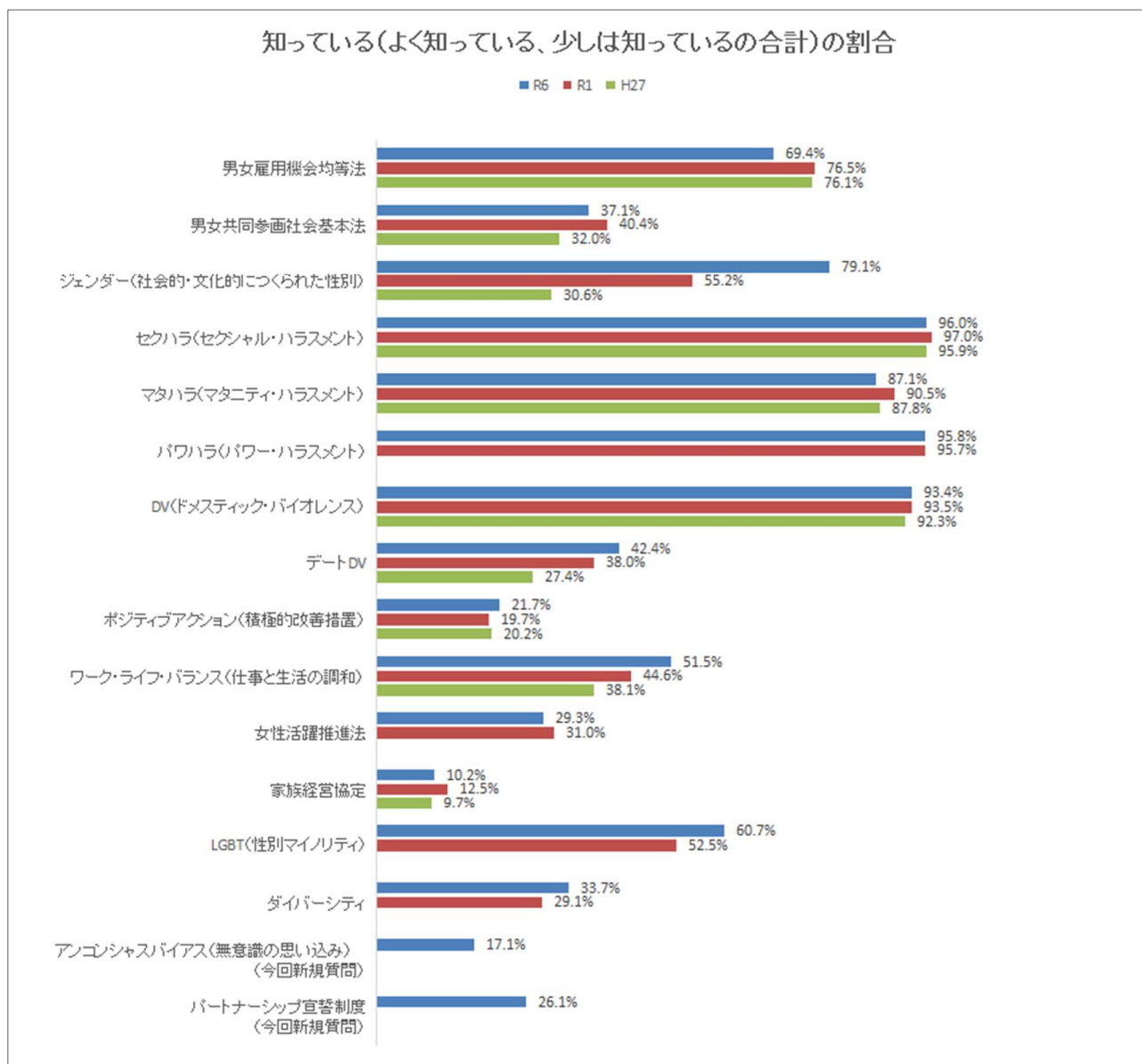
問 16 あなたは、次の言葉を知っていますか。

【全体】

「よく知っている」「少しは知っている」の割合が高い項目は「セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）」「マタハラ（マタニティ・ハラスメント）」「パワハラ（パワー・ハラスメント）」「DV（ドメスティック・バイオレンス）」となっている。今回初めて調査した項目である「アンコンシャスバイアス」については「よく知っている」「少しは知っている」「聞いたことがある」を加えても割合は低い、「パートナーシップ宣誓制度」については「よく知っている」（8.5%）、「少しは知っている」（17.7%）、「聞いたことがある」（34.8%）を合計すると 61.0%と高くなっている。

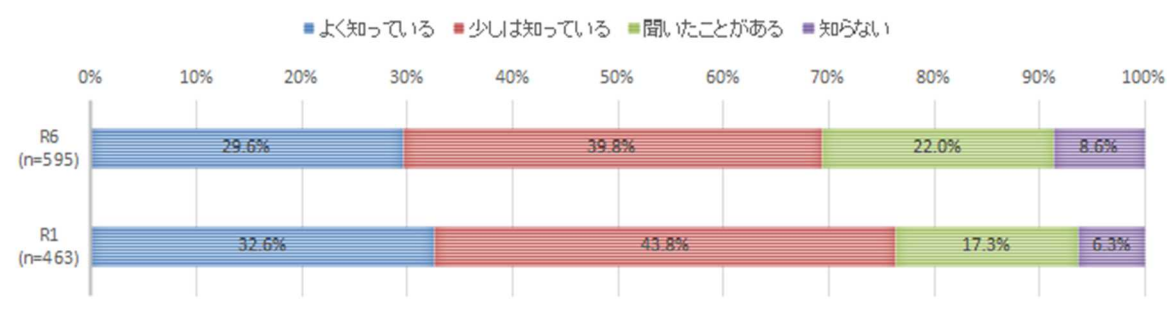
【前回との比較】

ほとんどの項目において割合に大きな変化はなかったが、「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」については「よく知っている」「少しは知っている」の合計の割合が 23.9 ポイントと大幅に増加している。

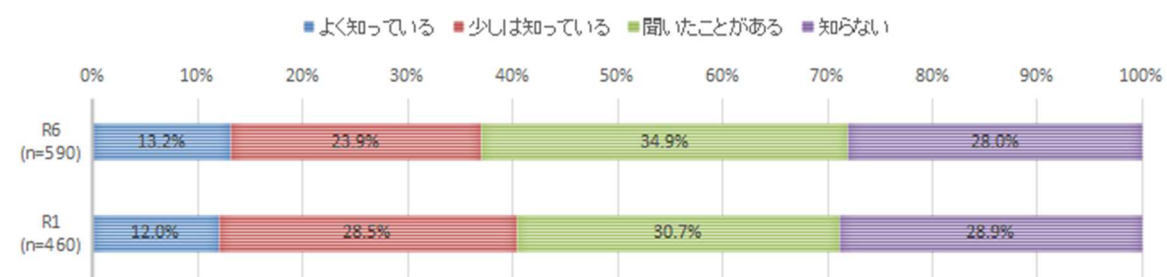


※男女共同参画計画策定当初からの推移をみるため、この表については第1回目の調査を含めた結果を掲載した。

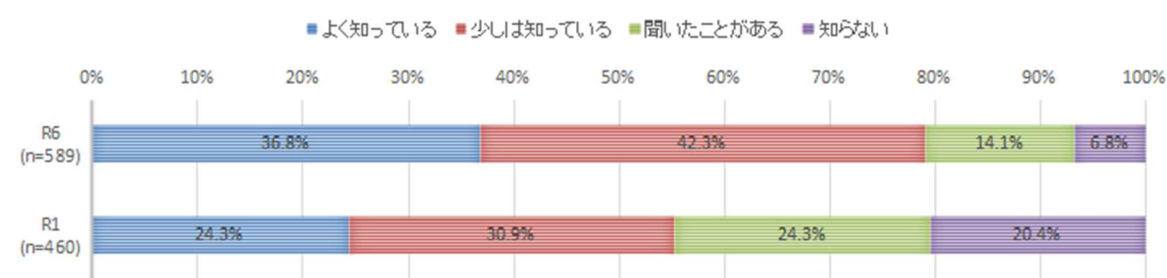
男女雇用機会均等法



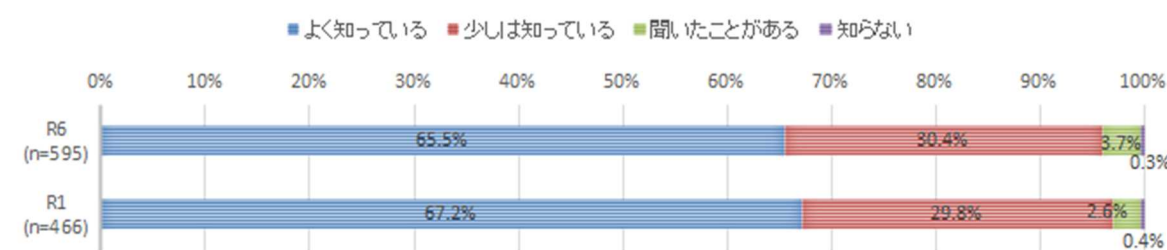
男女共同参画社会基本法



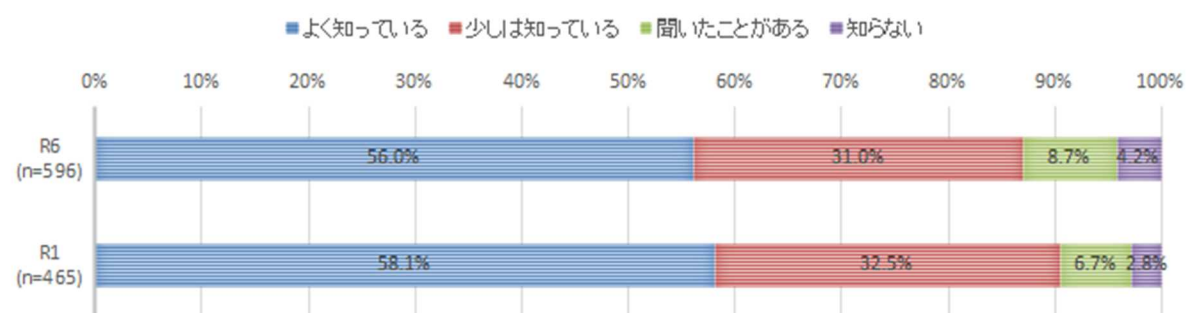
ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)



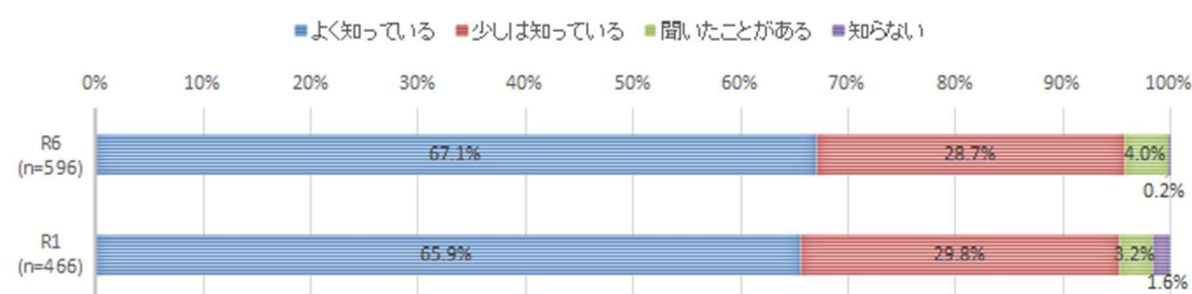
セクハラ(セクシャル・ハラスメント)



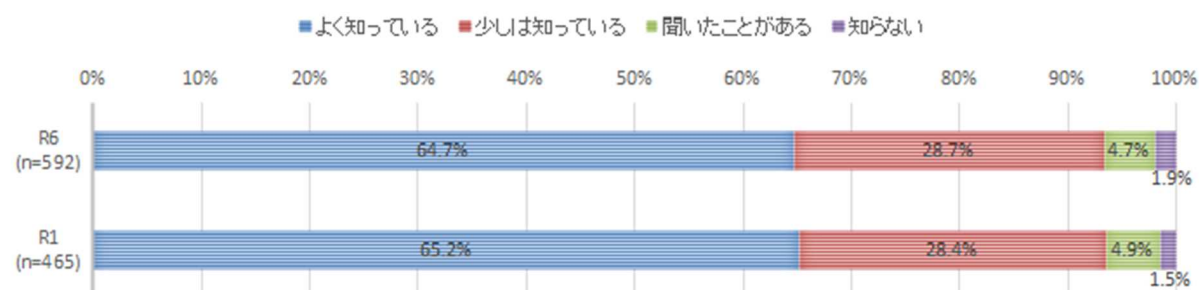
マタハラ(マタニティ・ハラスメント)



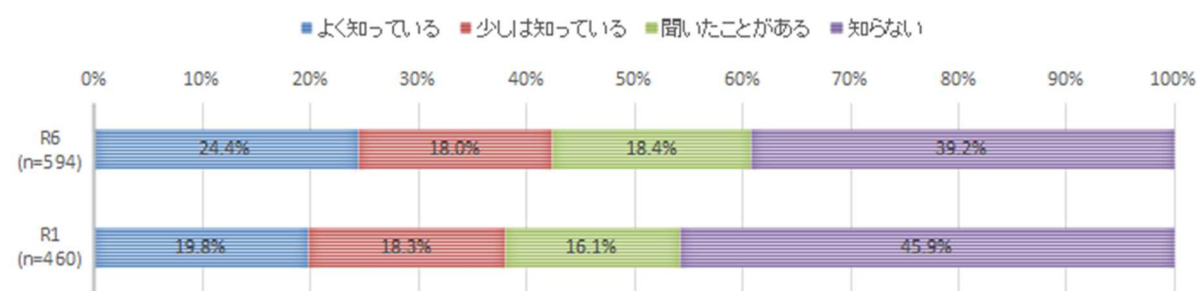
パワハラ(パワー・ハラスメント)



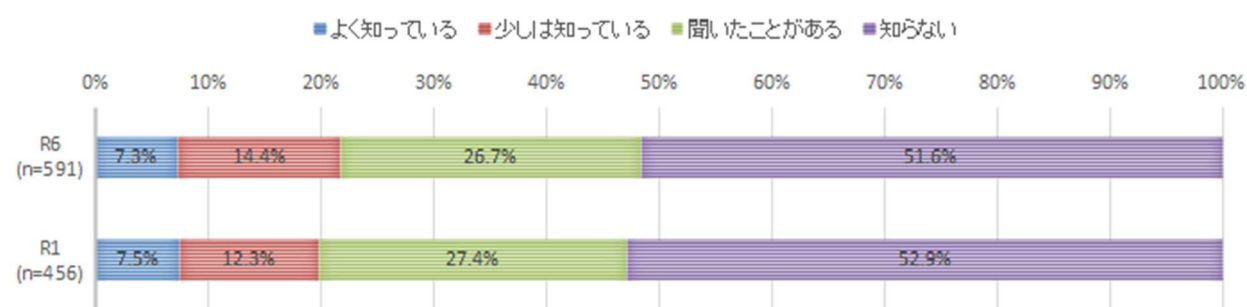
DV(ドメスティック・バイオレンス)



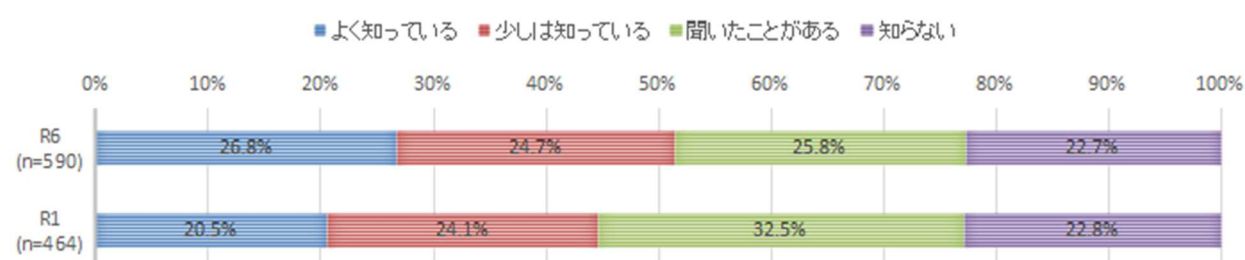
デートDV



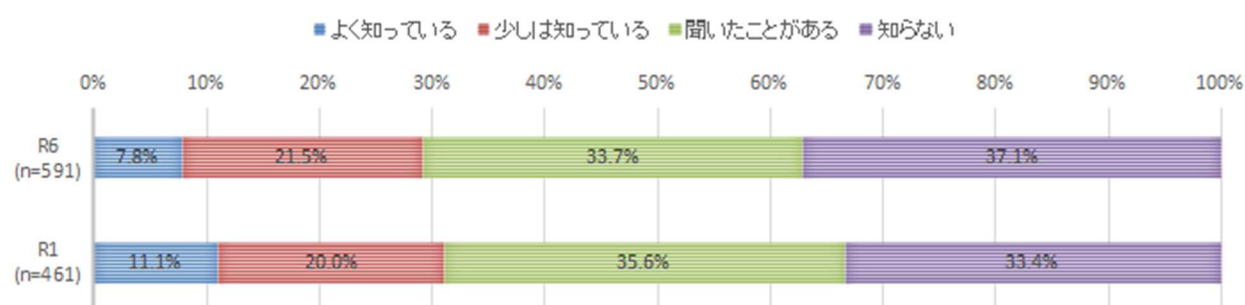
ポジティブアクション(積極的改善措置)



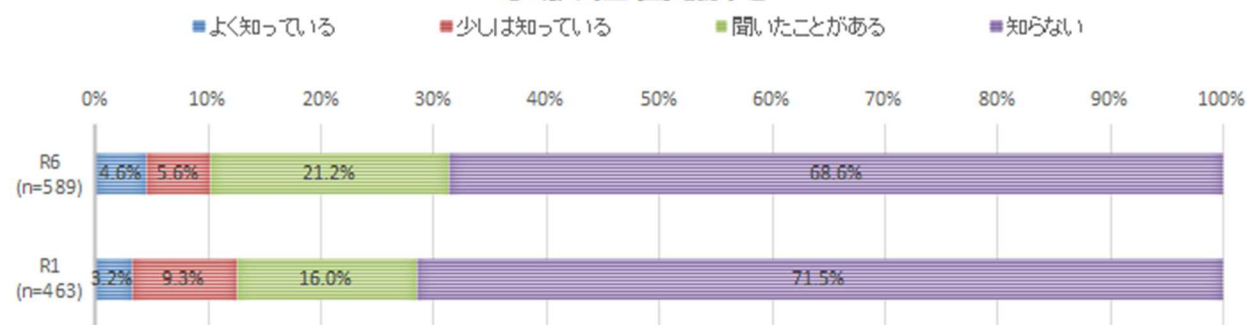
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



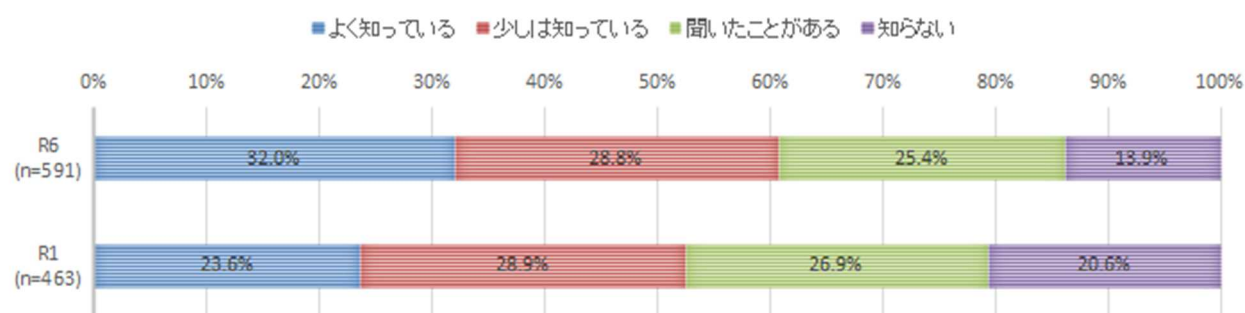
女性活躍推進法



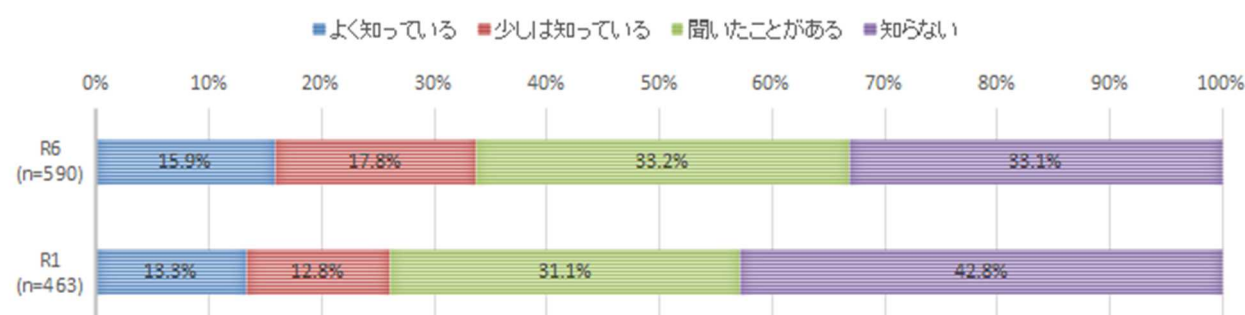
家族経営協定



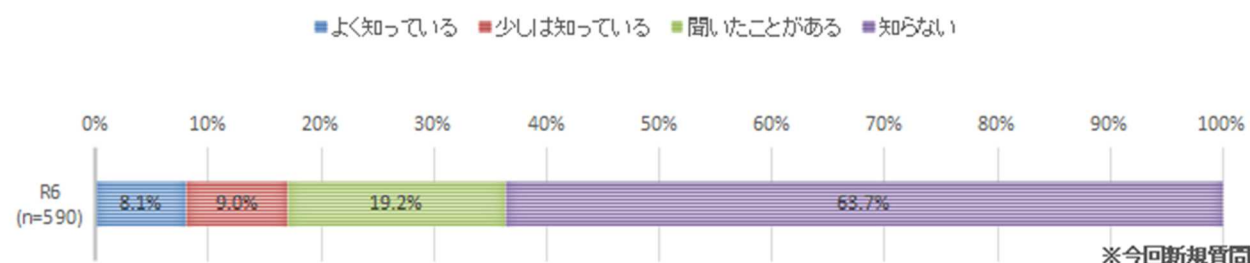
LGBT（性別マイノリティ）



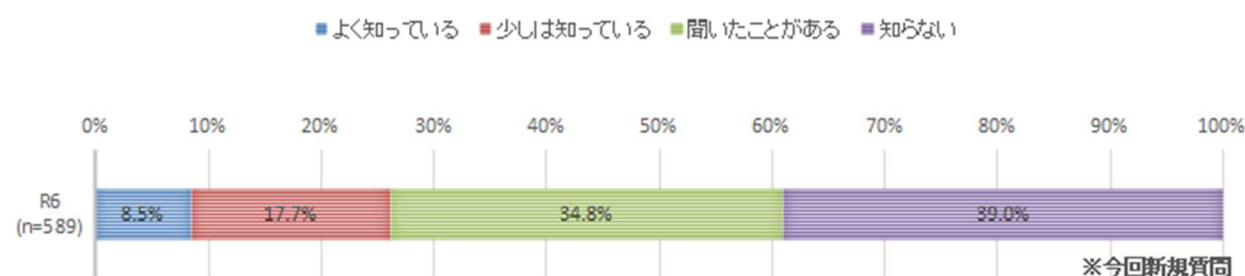
ダイバーシティ



アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）



パートナーシップ宣誓制度



【ドメスティック・バイオレンス（DV）について】

問 17 次のような行為はいずれも DV にあたると見なされる行為です。あなたは、配偶者やパートナーから次のような行為をされたことがありますか。

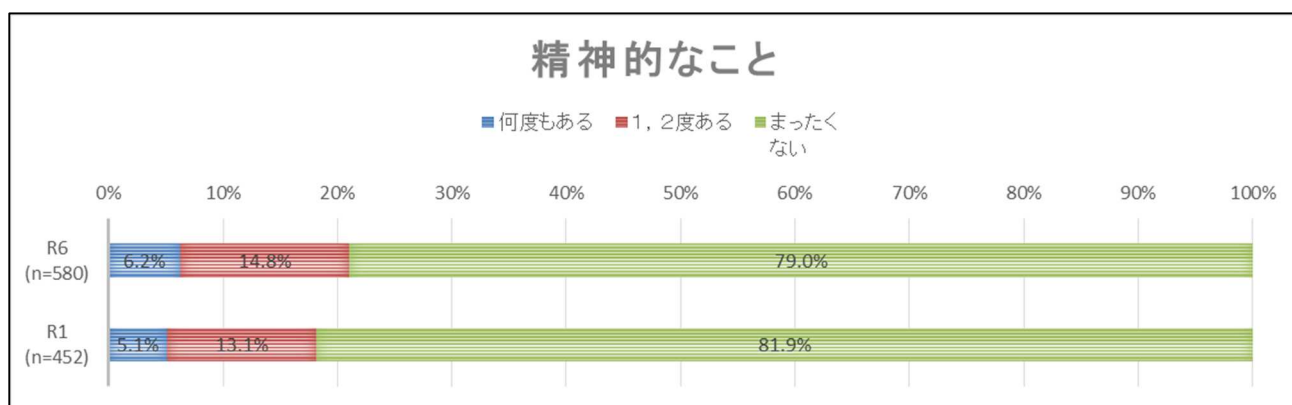
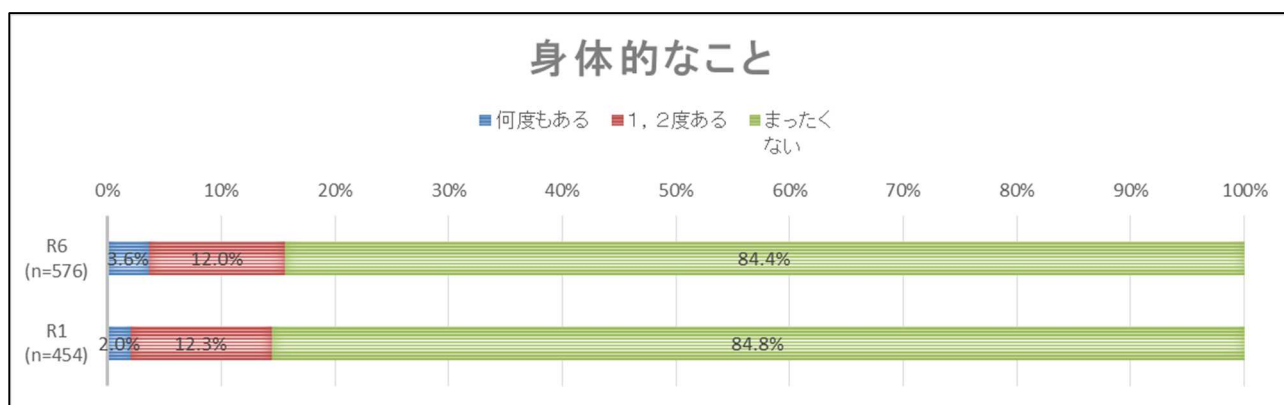
【全体】

全体的にみると低い割合ではあるが、ドメスティック・バイオレンス（DV）を受けたことがあると回答がある。

【前回との比較】

全体的にドメスティック・バイオレンス（DV）を受けたことがある割合が前回より増加している。ドメスティック・バイオレンス（DV）の概念が浸透してきたことも要因の一つとして考えられる。

DV を受けたことがある割合



経済的なこと

■ 何度もある ■ 1, 2度ある ■ まったく
ない



性的なこと

■ 何度もある ■ 1, 2度ある ■ まったく
ない



① 身体的なこと

性別でみると「何度もある」「1、2度ある」の割合が、ともに「女性」が「男性」の2倍を超えている。

年代別でみると、「18～20歳代」で「何度もある」の項目が最も高くなっている(13.8%)。

		全体	何 度 も あ る	1 、 2 度 あ る	ま っ た く な い
全体		576	3.6%	12.0%	84.4%
性 別	男性	243	2.1%	7.4%	90.5%
	女性	324	4.3%	15.4%	80.2%
	その他	2	50.0%	50.0%	0.0%
	無回答	7	14.3%	0.0%	85.7%
年 代	18～20歳代	29	13.8%	3.4%	82.8%
	30歳代	47	6.4%	14.9%	78.7%
	40歳代	61	9.8%	23.0%	67.2%
	50歳代	104	1.0%	14.4%	84.6%
	60歳代	162	1.2%	8.6%	90.1%
	70歳以上	163	3.1%	11.0%	85.9%
	無回答	10	0.0%	0.0%	100.0%
居 住 地 区	瑞穂地区	150	2.0%	6.7%	91.3%
	山辺地区	56	5.4%	16.1%	78.6%
	大網地区	136	3.7%	11.8%	84.6%
	増穂地区	153	3.3%	18.3%	78.4%
	白里地区	76	6.6%	7.9%	85.5%
	無回答	5	0.0%	0.0%	100.0%

② 精神的なこと

性別でみると「何度もある」の割合は、「女性」が「男性」より 6.7 ポイント高くなっている。また、「1、2度ある」の割合は、「男性」も「女性」もほぼ同じ割合となっている。

年代別でみると、「何度もある」の割合が最も高い年代は「18～20 歳代」で 13.8%、「1、2度ある」の割合が最も高い年代は「40 歳代」で 26.2%となっている。

		全 体	何 度 も あ る	1 、 2 度 あ る	ま っ た く な い
全体		580	6.2%	14.8%	79.0%
性 別	男性	243	2.5%	14.0%	83.5%
	女性	327	9.2%	15.3%	75.5%
	その他	2	0.0%	50.0%	50.0%
	無回答	8	0.0%	12.5%	87.5%
年 代	18～20歳代	29	13.8%	13.8%	72.4%
	30歳代	47	8.5%	23.4%	68.1%
	40歳代	61	11.5%	26.2%	62.3%
	50歳代	104	7.7%	17.3%	75.0%
	60歳代	163	4.9%	10.4%	84.7%
	70歳以上	165	3.0%	11.5%	85.5%
	無回答	11	0.0%	9.1%	90.9%
居 住 地 区	瑞穂地区	150	4.0%	11.3%	84.7%
	山辺地区	56	12.5%	14.3%	73.2%
	大網地区	136	6.6%	13.2%	80.1%
	増穂地区	154	7.1%	22.1%	70.8%
	白里地区	78	3.8%	10.3%	85.9%
	無回答	6	0.0%	16.7%	83.3%

③ 経済的なこと

性別でみると「何度もある」の割合は、「女性」が「男性」より約2倍高くなっている。「1、2度ある」の割合は、女性が男性より7.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「何度もある」が最も高い世代は「18～20歳代」で6.9%、「1、2度ある」が最も多い世代は30歳代で8.5%となっている。

		全体	何度もある	1、2度ある	まったくない
全体		580	2.8%	4.8%	92.4%
性別	男性	243	1.6%	0.4%	97.9%
	女性	327	3.7%	8.0%	88.4%
	その他	2	0.0%	50.0%	50.0%
	無回答	8	0.0%	0.0%	100.0%
年代	18～20歳代	29	6.9%	0.0%	93.1%
	30歳代	47	0.0%	8.5%	91.5%
	40歳代	61	3.3%	6.6%	90.2%
	50歳代	105	2.5%	4.8%	91.4%
	60歳代	163	3.1%	6.1%	90.8%
	70歳以上	164	1.8%	3.0%	95.1%
	無回答	11	0.0%	0.0%	100.0%
居住地区	瑞穂地区	151	2.6%	4.6%	92.7%
	山辺地区	56	3.6%	5.4%	91.1%
	大網地区	136	2.2%	3.7%	94.1%
	増穂地区	154	3.9%	6.5%	89.6%
	白里地区	77	0.0%	3.9%	96.1%
	無回答	6	16.7%	0.0%	83.3%

④ 性的なこと

性別でみると「何度もある」割合が、「女性」は「男性」より 4.5 ポイント高くなっている。

年代別でみると「まったくない」割合は大きな差はなかったが、「何度もある」割合は「60 歳代」が他の年代と比べて低くなっている（0.6%）。

		全 体	何 度 も あ る	1 、 2 度 あ る	ま っ た く な い
全体		577	2.9%	6.4%	90.6%
性 別	男性	242	0.4%	2.1%	97.5%
	女性	325	4.9%	9.8%	85.2%
	その他	2	0.0%	0.0%	100.0%
	無回答	8	0.0%	0.0%	100.0%
年 代	18～20歳代	29	6.9%	3.4%	89.7%
	30歳代	47	6.4%	6.4%	87.2%
	40歳代	61	6.6%	8.2%	85.2%
	50歳代	104	2.9%	5.8%	91.3%
	60歳代	162	0.6%	7.4%	92.0%
	70歳以上	163	2.5%	6.1%	91.4%
	無回答	11	0.0%	0.0%	100.0%
居 住 地 区	瑞穂地区	150	4.0%	3.3%	92.7%
	山辺地区	56	3.6%	1.8%	94.6%
	大網地区	135	2.2%	8.1%	89.6%
	増穂地区	153	3.9%	11.1%	85.0%
	白里地区	77	0.0%	3.9%	96.1%
	無回答	6	0.0%	0.0%	100.0%

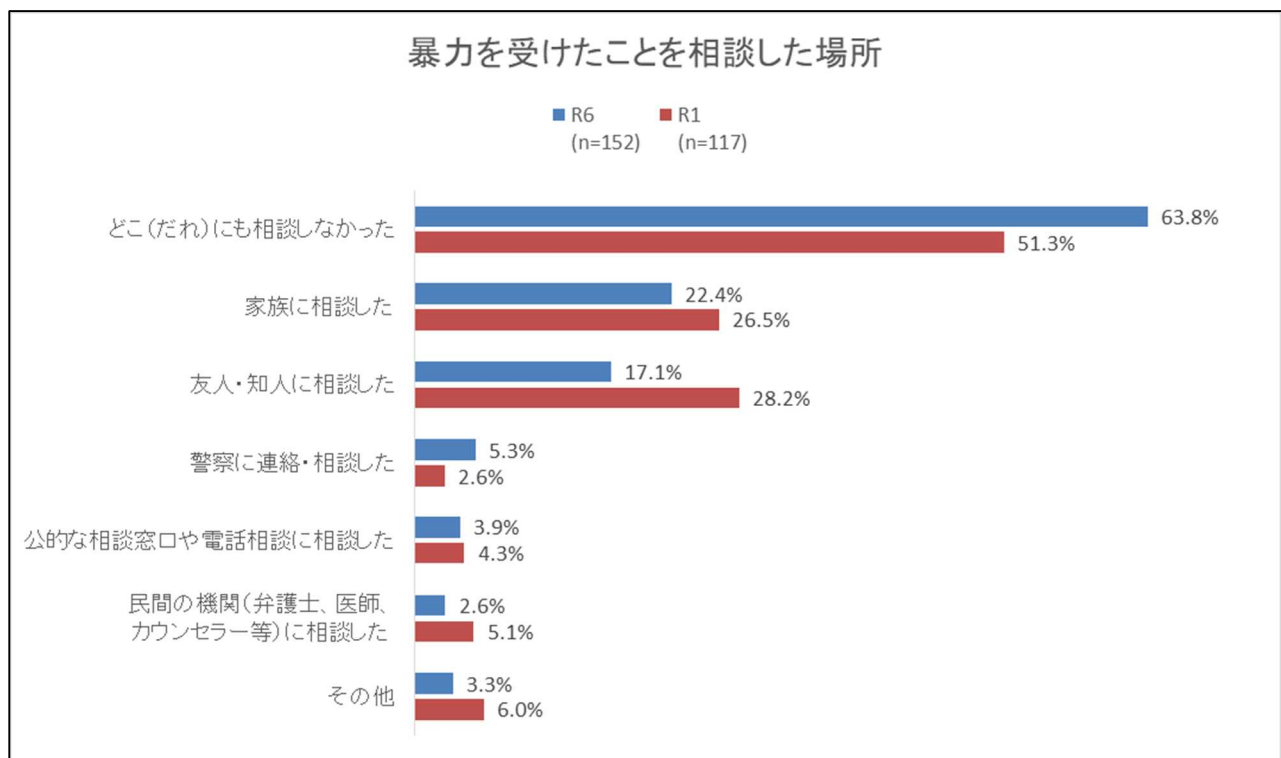
問 18 これまでに暴力を受けたことについて、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。

【全体】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合が 63.8%と最も高く、「家族に相談した」が 22.4%、「友人・知人に相談した」が 17.1%、「警察に連絡・相談した」は 5.3%となっている。

【前回との比較】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合が増加しているほか、「警察に連絡・相談した」割合が前回に比べ 2 倍増加している。



【属性別】

性別でみると、「男性」は、「女性」より「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合が12.7ポイント高く、身近な人にも公的機関にも相談しない傾向が窺える。

年代別でみると、40歳代以上の年代は「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合が高く、相談する場合、「18歳～20歳代」は「家族」に、「30歳代」は「友人・知人」に相談する傾向が窺える。

暴力を受けたことを相談した場所

		全体	どこ（だれ）にも相談しなかった	家族に相談した	友人・知人に相談した	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話相談に相談した	民間の機関（弁護士、医師、カウンセラー等）に相談した	その他
全体		152	63.8%	22.4%	17.1%	5.3%	3.9%	2.6%	3.3%
性別	男性	45	73.3%	11.1%	8.9%	2.2%	2.2%	2.2%	8.9%
	女性	104	60.6%	26.0%	21.2%	5.8%	3.8%	2.9%	1.0%
	その他	2	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	9	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
	30歳代	18	33.3%	33.3%	44.4%	5.6%	5.6%	0.0%	5.6%
	40歳代	28	60.7%	21.4%	21.4%	0.0%	3.6%	0.0%	3.6%
	50歳代	29	72.4%	13.8%	17.2%	6.9%	6.9%	6.9%	0.0%
	60歳代	34	70.6%	26.5%	8.8%	2.9%	2.9%	2.9%	0.0%
	70歳以上	34	73.5%	14.7%	8.8%	11.8%	2.9%	2.9%	5.9%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	30	70.0%	20.0%	10.0%	3.3%	3.3%	6.7%	3.3%
	山辺地区	18	66.7%	27.8%	11.1%	5.6%	5.6%	5.6%	5.6%
	大網地区	38	68.4%	21.1%	15.8%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	増穂地区	49	57.1%	22.4%	26.5%	6.1%	4.1%	2.0%	4.1%
	白里地区	16	56.3%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	6.3%
	無回答	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

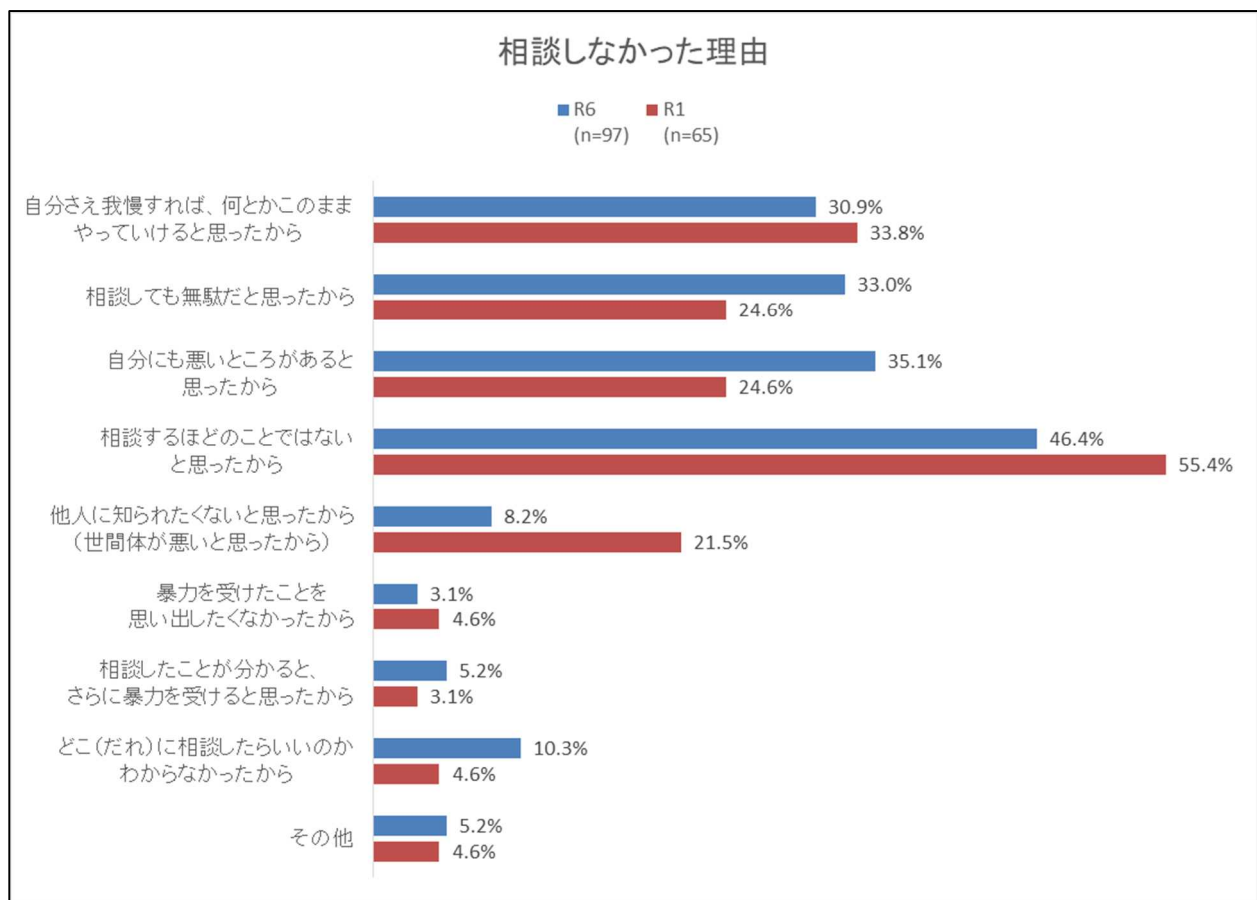
問 19 相談しなかった理由はなぜですか。

【全体】

「相談するほどのことではないと思ったから」が 46.4%で、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 35.1%となっている。

【前回との比較】

「相談しても無駄だと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が増加し、「他人に知られたくないと思ったから（世間体が悪いと思ったから）」の割合が減少している。



（その他意見）

- ・何とも思わないから。
- ・お互い様だから。
- ・すぐ別れた。

【属性別】

性別でみると、「男性」、「女性」とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も割合が高い項目であった（男性 58.8%、女性 38.7%）。「男性」で次に高い項目は「自分にも悪いところがあると思ったから」（44.1%）で、「女性」で次に高い項目は「相談しても無駄だと思ったから」（37.1%）であった。

年代別でみると、「18 歳～20 歳代」と「30 歳代」で「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高い傾向がある。

相談しなかった理由

		全 体	自分さえ我慢すれば、何とかの ままやっていると 思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分にも悪いところがあると思っ たから	相談するほどのことではないと思 ったから	他人に知られたくないと思ったか ら（世間体が悪いと思ったから）	暴力を受けたことを思い出したく なかったから	相談したことが分かると、 さらに暴力を受けると 思ったから	どこ（だれ）に相談したらいいの かわからなかったから	その他
全体		97	30.9%	33.0%	35.1%	46.4%	8.2%	3.1%	5.2%	10.3%	5.2%
性別	男性	34	26.5%	23.5%	44.1%	58.8%	8.8%	0.0%	2.9%	0.0%	5.9%
	女性	62	33.9%	37.1%	29.0%	38.7%	8.1%	4.8%	6.5%	16.1%	4.8%
	その他	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	4	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	6	0.0%	33.3%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	17	35.3%	35.3%	35.3%	29.4%	11.8%	0.0%	5.9%	17.6%	5.9%
	50歳代	21	28.6%	23.8%	23.8%	42.9%	0.0%	4.8%	19.0%	9.5%	9.5%
	60歳代	24	29.2%	41.7%	41.7%	50.0%	16.7%	4.2%	0.0%	8.3%	8.3%
	70歳以上	25	40.0%	32.0%	44.0%	40.0%	8.0%	4.0%	0.0%	8.0%	0.0%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	20	25.0%	35.0%	30.0%	40.0%	0.0%	0.0%	5.0%	10.0%	10.0%
	山辺地区	12	25.0%	41.7%	25.0%	41.7%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%
	大網地区	26	38.5%	34.6%	42.3%	42.3%	15.4%	3.8%	7.7%	11.5%	3.8%
	増穂地区	29	37.9%	31.0%	37.9%	44.8%	3.4%	3.4%	3.4%	13.8%	3.4%
	白里地区	9	11.1%	11.1%	33.3%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 20 DV について、今後、行政に対してどのような対応等を望みますか。

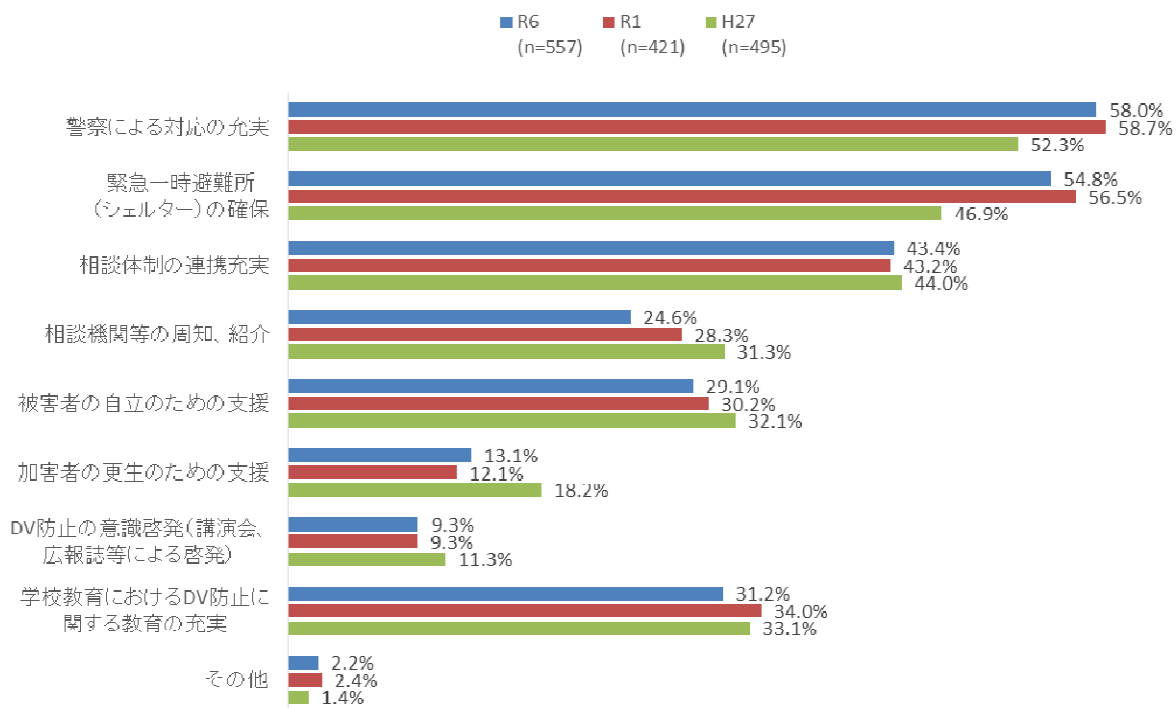
【全体】

「警察による対応の充実」が最も高く（58.0%）、次いで「緊急一時避難所の確保（54.8%）」、「相談体制の連携充実（43.4%）」が高くなっている。

【前回との比較】

前回とほぼ変わらないが、「相談体制の連携充実」「加害者の更生のための支援」の割合がやや高くなっている。

行政に対して望むDVへの対応



※男女共同参画計画策定当初からの推移をみるため、この表については第1回目の調査を含めた結果を掲載した。

（その他意見）

- ・基本的には選択肢全て。
- ・当事者同士の親族や弁護士との連携を充実させ、離別するように説得する役目を行政でもやる。
- ・DV 加害者への厳罰。
- ・被害者への速やかな支援、専門家の配置、事務的な受付はやめること。
- ・警察・行政が積極的に介入可能な法の整備。
- ・加害者の拘留・勾留制度、被害者の年単位の保護。
- ・DV を受けた人が望む対応ができるようにする。

【属性別】

性別でみると、「男性」で最も割合が高い項目は「警察による対応の充実」（60.2％）で、「女性」で最も割合が高い項目は「緊急一時避難所（シェルター）の確保（57.5％）となっている。「女性」は「男性」に比べ、被害者、加害者双方の支援を望む割合が高い傾向がある。

世代別でみると、「70 歳以上」を除く年代で最も割合が高い項目は「警察による対応の充実」であった。DV への対応は、警察による介入を望む傾向が窺える。

行政に対して望む DV への対応

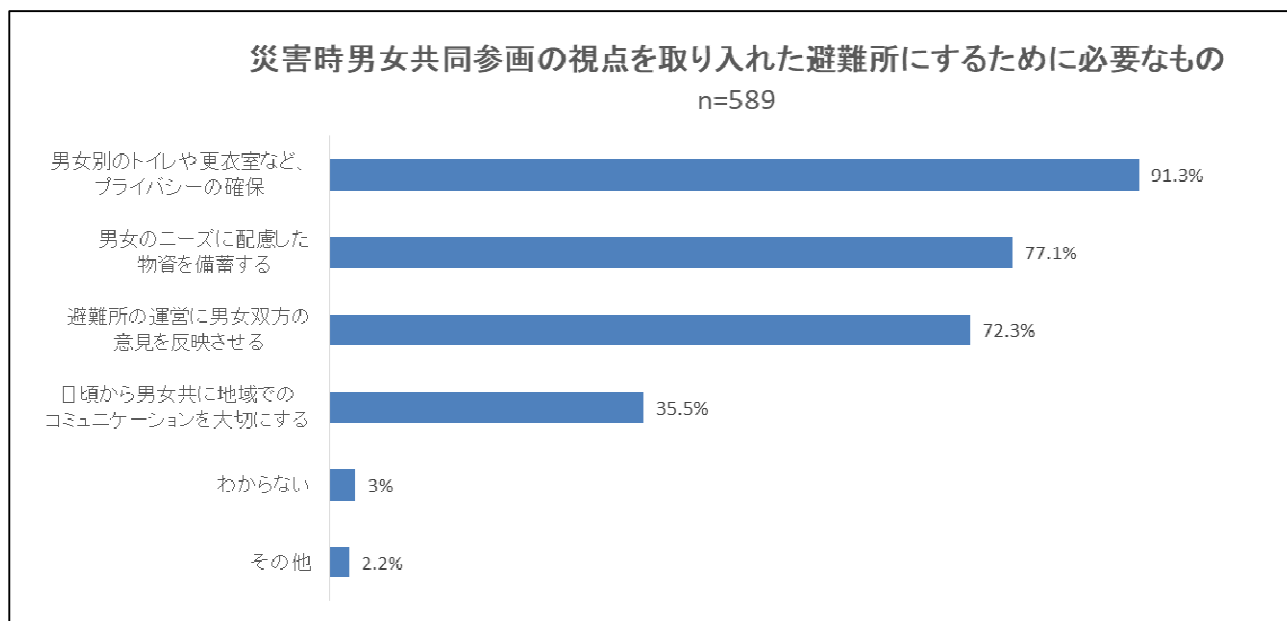
		全体	警察による対応の充実	緊急一時避難所（シェルター）の確保	相談体制の連携充実	相談機関等の周知、紹介	被害者の自立のための支援	加害者の更生のための支援	DV 防止の意識啓発（講演会、広報誌等による啓発）	学校教育における DV 防止に関する教育の充実	その他
全体		557	58.0%	54.8%	43.4%	24.6%	29.1%	13.1%	9.3%	31.2%	2.2%
性別	男性	241	60.2%	51.9%	47.3%	25.7%	26.1%	10.4%	10.4%	32.8%	2.9%
	女性	308	56.2%	57.5%	40.9%	24.0%	31.2%	14.9%	8.4%	30.2%	1.3%
	その他	2	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	50.0%	50.0%	16.7%	0.0%	50.0%	16.7%	16.7%	33.3%	16.7%
年代	18～20歳代	29	69.0%	44.8%	27.6%	17.2%	6.9%	20.7%	10.3%	44.8%	0.0%
	30歳代	47	72.3%	51.1%	38.3%	14.9%	25.5%	23.4%	2.1%	21.3%	2.1%
	40歳代	60	60.0%	55.0%	31.7%	23.3%	26.7%	25.0%	6.7%	28.3%	3.3%
	50歳代	102	62.7%	60.8%	45.1%	29.4%	28.4%	7.8%	7.8%	26.5%	2.9%
	60歳代	161	59.6%	57.8%	49.1%	17.4%	31.1%	12.4%	10.6%	32.3%	2.5%
	70歳以上	152	45.4%	50.7%	46.1%	34.2%	32.2%	7.9%	11.8%	35.5%	1.3%
	無回答	6	66.7%	50.0%	33.3%	16.7%	66.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	145	58.6%	48.3%	42.8%	21.4%	30.3%	9.0%	11.0%	31.0%	2.1%
	山辺地区	53	45.3%	54.7%	45.3%	28.3%	24.5%	17.0%	11.3%	41.5%	0.0%
	大網地区	130	56.9%	60.8%	42.3%	26.2%	23.8%	16.2%	7.7%	33.1%	3.1%
	増穂地区	150	65.3%	56.0%	41.3%	22.7%	30.7%	12.7%	10.0%	27.3%	1.3%
	白里地区	75	52.0%	54.7%	52.0%	30.7%	33.3%	12.0%	5.3%	29.3%	4.0%
	無回答	4	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%	75.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%

【防災等における男女共同参画の推進について】（今回新規質問）

問 21 災害時に男女共同参画の視点を取り入れた避難所とするには、どのようなことが必要だと思いますか。

【全体】

「男女のトイレや更衣室などプライバシーの確保」が最も高く（91.3%）、次いで「男女のニーズに配慮した物資を備蓄する」（77.1%）、「避難所の運営に男女双方の意見を反映させる」（72.3%）が高くなっている。



（その他意見）

- ・家族での個室、プライバシーを確保できる、間仕切りが必要。
- ・物資が補給しやすい場所(第二避難所)を用意して、男性用避難所と女性用避難所を確保する。
- ・大人だけではなく、老若男女に対応した避難所。
（過去に住んでいた複数のところで、何度か異なる災害に見舞われたことがあるものの、私は避難所を利用したことが無いので、避難所では既に実践されていることかもしれませんが、思いつくことを記します。）子供や要介護者、ペットとともにいられる別のスペースの策定や、それらの対象を一時的で短時間で見てもらえる人の存在。外部との接触を軽減できる耳栓やアイマスクなどグッズの備え。不安に思う人たちがコミュニケーションを図れる別空間の設定。例えば、ホワイトボードのようなアナログ的情報伝達方法の確保。
- ・食事の調理、配膳を女性主体にせず、男女共同で行う。
- ・日頃からどんな物が避難場所に設置されるのか周知して、足りない物を募る。
- ・責任者は男女各2名ずつ以上にする。
- ・色々な状態で避難するので仕切りが沢山あるとよい。

- ・避難所開設後も意見ボックスを設置していただき、都度見直しの対応を柔軟にしていだきたい。
- ・災害時であれば、不便なことがあることを当然と理解すべきであり我慢することが必要となるのではないか。
- ・段ボールでの仕切りなど粗末すぎると思います。” 体育館で床に雑魚寝” は先進国のあり方ではないと思います。

【属性別】

性別でみると、ほとんどの項目で同じ傾向にあるが、「日ごろから男女ともに地域でのコミュニケーションを大切にする」で、「男性」が「女性」より 9.4 ポイント高くなっている。

年代別でみると、どの年代も「男女のトイレや更衣室などプライバシーの確保」の割合が最も高くなっている。「日ごろから男女ともに地域でのコミュニケーションを大切にする」割合が、「70 歳以上」で最も高くなっている（42.5%）。

地区別でみると、どの地区も「男女のトイレや更衣室などプライバシーの確保」の割合が最も高くなっている。

災害時男女共同参画の視点を取り入れた避難所にするために必要なもの

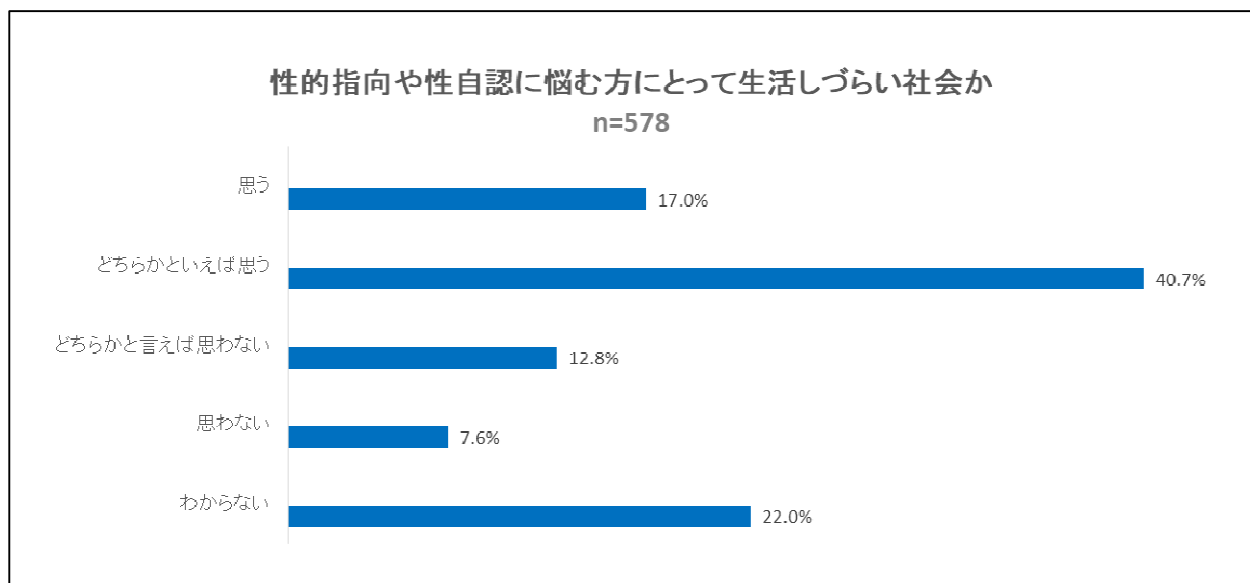
		全体	男女別の プライバシーの 確保	男女の ニーズに 配慮した 物資を 備蓄する	避難所の 運営に 男女双方 の意見を 反映させる	日頃から 男女共に 地域での コミュニ ケーション を大切に する	わ か ら な い	そ の 他
全体		589	91.3%	77.1%	72.3%	35.5%	2.9%	2.2%
性別	男性	250	90.8%	78.4%	72.0%	40.8%	2.4%	2.0%
	女性	328	92.1%	75.9%	72.0%	31.4%	2.7%	2.1%
	その他	2	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	無回答	9	77.8%	77.8%	88.9%	33.3%	22.2%	11.1%
年代	18～20歳代	29	93.1%	79.3%	62.1%	24.1%	0.0%	3.4%
	30歳代	47	80.9%	72.3%	59.6%	31.9%	0.0%	8.5%
	40歳代	61	95.1%	80.3%	60.7%	23.0%	0.0%	3.3%
	50歳代	109	91.7%	78.0%	72.5%	34.9%	0.0%	5.5%
	60歳代	166	92.2%	78.3%	80.7%	35.5%	0.0%	3.6%
	70歳以上	167	92.2%	74.3%	73.1%	42.5%	0.0%	4.2%
	無回答	10	80.0%	90.0%	80.0%	50.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	152	92.8%	75.0%	75.7%	31.6%	0.0%	4.6%
	山辺地区	55	94.5%	85.5%	74.5%	40.0%	0.0%	1.8%
	大網地区	135	92.6%	77.0%	68.9%	33.3%	0.0%	5.2%
	増穂地区	159	88.7%	74.2%	70.4%	36.5%	0.0%	4.4%
	白里地区	81	90.1%	80.2%	72.8%	39.5%	0.0%	4.9%
	無回答	7	85.7%	85.7%	85.7%	57.1%	0.0%	0.0%

【多様な性に関する意識について】（今回新規質問）

問 22 現在、性的指向や性自認に悩む方にとって偏見や差別により生活しづらい社会だと思いますか。

【全体】

「思う」「どちらかといえば思う」の合計が 57.7%と半数を超えている。「思わない」「どちらかといえば思わない」の合計（20.4%）より、「わからない」割合のほうが（22.0%）高くなっている。



【属性別】

性別でみると、「男性」「女性」で傾向に差がないことが窺える。

年代別で見ると、すべての年代において「思う」「どちらかといえば思う」の合計割合が「どちらかといえば思わない」「思わない」より高い割合になっている。特に「18～20歳代」では、「思う」「どちらかといえば思う」の合計割合が 80%を超えているが、「70歳代以上」では 50%を下回る結果となっている。

地区別でみると、「白里地区」で「思う」「どちらかといえば思う」の合計割合が最も低く（46.8%）、一方で「わからない」が最も高くなっている（29.9%）。

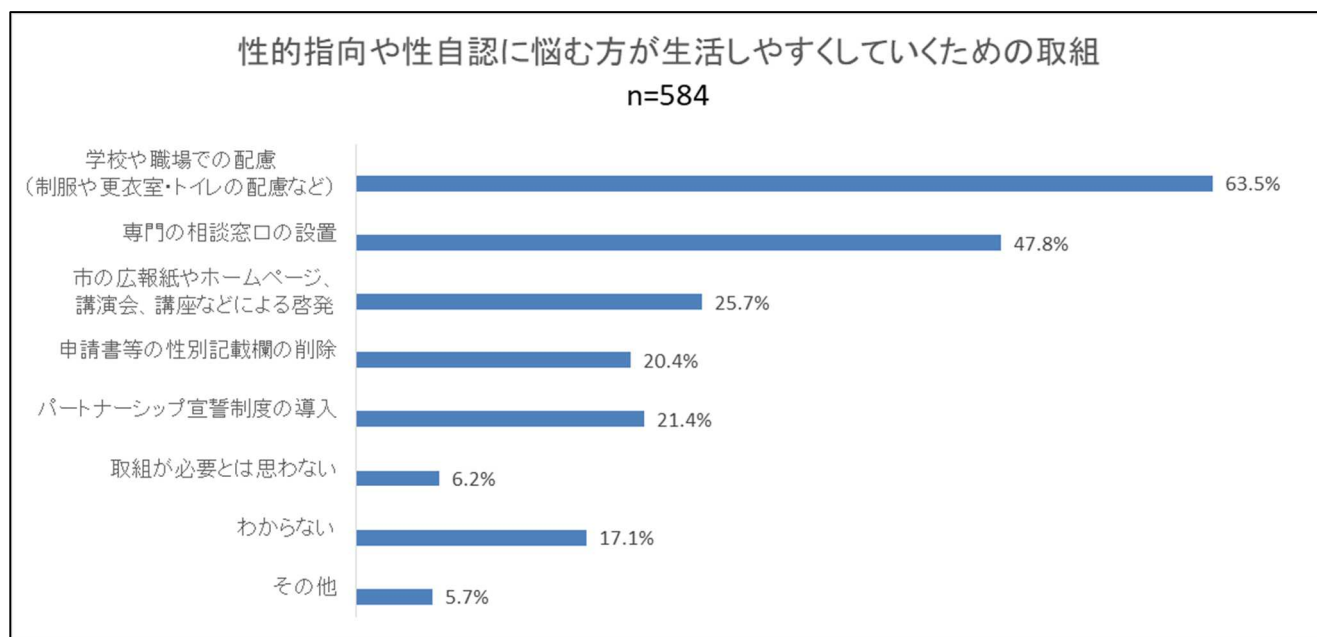
性的指向や性自認に悩む方にとって生活しづらい社会か

		全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	わからない
全体		578	17.0%	40.7%	12.8%	7.6%	22.0%
性別	男性	247	16.2%	39.7%	14.2%	8.1%	21.9%
	女性	320	17.2%	42.2%	11.9%	6.9%	21.9%
	その他	2	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	無回答	9	33.3%	22.2%	11.1%	11.1%	22.2%
年代	18～20歳代	29	44.8%	41.4%	10.3%	0.0%	3.4%
	30歳代	47	12.8%	40.4%	19.1%	14.9%	12.8%
	40歳代	61	18.0%	52.5%	14.8%	4.9%	9.8%
	50歳代	109	12.8%	43.1%	11.0%	7.3%	25.7%
	60歳代	165	17.0%	43.0%	12.1%	7.9%	20.0%
	70歳以上	158	15.8%	32.3%	12.0%	7.0%	32.9%
	無回答	9	11.1%	33.3%	22.2%	22.2%	11.1%
居住地区	瑞穂地区	152	15.1%	44.7%	9.2%	9.2%	21.7%
	山辺地区	54	25.9%	42.6%	14.8%	7.4%	9.3%
	大網地区	131	19.8%	39.7%	13.7%	5.3%	21.4%
	増穂地区	157	16.6%	38.2%	15.3%	5.7%	24.2%
	白里地区	77	9.1%	37.7%	11.7%	11.7%	29.9%
	無回答	7	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%

問 23 性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

「学校や職場での配慮（制服や更衣室・トイレの配慮など）」が最も高く（63.5%）、次に「専門の相談窓口の設置」が高くなっている（47.8%）。



（その他意見）

- ・ 本人が望む生き方ができるように周りの人間の意識の改革、必要以上に周りがその人を意識しすぎない本人の為の社会。
- ・ そもそも性的指向と性自認／ジェンダーとセクシャルなどは全く別の議題なので混同して議論にあげていること自体が間違いだと思います。
- ・ 身近に居ないため具体的にどのようなことに困っていて何が必要なのか分からない。まずはさらなる理解が必要ではないかと思います。
- ・ 学校教育の中での知識の習得。
- ・ みんなが寛容になること、とくにお年寄り。
- ・ 性的指向について大げさにとりあげて子供たちを含め人々を意識させない方が良いと思います。今までどおりで（日本のあり方）十分です。日本は古来から、例えば歌舞伎の女形などそういった人々に差別なくゆるやかに受け入れてきた文化、歴史があります。欧米グローバルリストは、子供たちに生まれ持った性を疑わせ、性転換手術を受けさせ、一生涯ホルモン注射を受けさせる等、邪悪な目的（性転換医療マーケット）でLGBTQを推進し、米国でも親子関係が壊れ困っている家族も多いと聞いています。むしろこれまでの日本のあり方の方が進んでいると思います。

【属性別】

性別でみると、傾向にほとんど差がないことが窺える。

世代別でみると、「市の広報紙やホームページ、講演会、講座などによる啓発」の割合が「60歳代」「70歳以上」で高い傾向がある。また、「パートナーシップ宣誓制度の導入」の割合は、「18～20歳代」「30歳代」で高い傾向にある。

地区別でみると、「白里地区」で「申請書等の性別記載欄の削除」が最も割合が低い結果となっている（12.8%）。

性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくための取組

		全体	学校や職場での配慮（制服や更衣室・トイレの配慮など）	専門の相談窓口の設置	市の広報紙やホームページ、講演会、講座などによる啓発	申請書等の性別記載欄の削除	パートナーシップ宣誓制度の導入	取組が必要とは思わない	わからない	その他
全体		584	63.5%	47.8%	25.7%	20.4%	21.4%	6.2%	17.1%	5.7%
性別	男性	250	61.6%	48.0%	28.0%	22.0%	22.0%	8.4%	17.2%	5.2%
	女性	323	65.0%	47.7%	23.5%	19.2%	21.1%	4.3%	16.7%	5.9%
	その他	2	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	9	66.7%	33.3%	33.3%	22.2%	11.1%	11.1%	33.3%	11.1%
年代	18～20歳代	29	72.4%	24.1%	13.8%	20.7%	37.9%	13.8%	13.8%	6.9%
	30歳代	47	61.7%	40.4%	12.8%	14.9%	31.9%	6.4%	8.5%	12.8%
	40歳代	61	62.3%	37.7%	13.1%	26.2%	23.0%	6.6%	14.8%	3.3%
	50歳代	110	58.2%	40.0%	21.8%	16.4%	16.4%	10.0%	18.2%	7.3%
	60歳代	164	70.1%	56.7%	31.1%	21.3%	22.6%	3.0%	14.0%	7.3%
	70歳以上	163	60.1%	54.6%	33.1%	20.9%	17.8%	4.9%	23.9%	1.8%
	無回答	10	60.0%	40.0%	30.0%	30.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	151	60.9%	51.7%	26.5%	22.5%	21.9%	7.9%	15.2%	6.6%
	山辺地区	55	74.5%	47.3%	29.1%	21.8%	21.8%	3.6%	10.9%	9.1%
	大網地区	135	65.9%	46.7%	25.9%	22.2%	20.7%	5.2%	21.5%	5.2%
	増穂地区	158	62.7%	43.7%	24.1%	19.0%	22.2%	6.3%	17.1%	4.4%
	白里地区	78	56.4%	51.3%	21.8%	12.8%	19.2%	5.1%	17.9%	5.1%
	無回答	7	85.7%	42.9%	57.1%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%

【男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて】

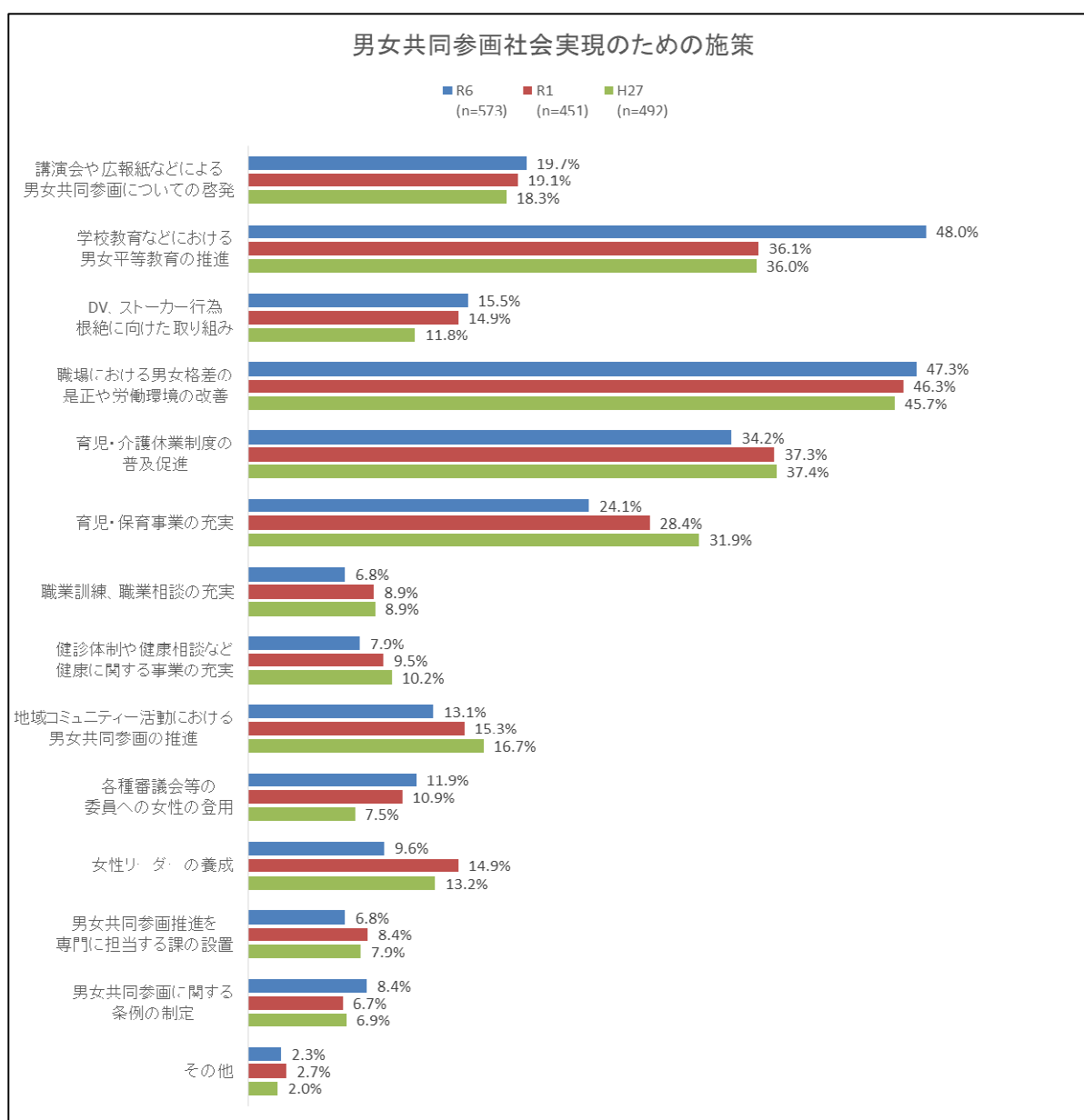
問 24 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。

【全体】

「学校教育などにおける男女平等教育の推進」の割合が最も高くなり（48.0%）、次いで「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」（47.3%）、「育児・介護休業制度の普及促進」（34.2%）となっている。

【前回との比較】

今回の調査では「学校教育などにおける男女平等教育の推進」の割合が最も高くなり、前回より 11.9 ポイント増加している。



※男女共同参画計画策定当初からの推移をみるため、この表については第1回目の調査を含めた結果を掲載した。

(その他意見)

- ・制度を作ることよりも男性女性と意識してわけないことが大事だと思う。強いて言えば男性女性の意識の改革。
- ・そもそも市長選など女性が立候補していない。女性の議員が少ない。女性は皆リーダーになりたがっているのか疑問である。
- ・男女共同参画社会にするための取り組みを行う（ポジティブ・アクションを行っている）企業を誘致するために、大網白里市が定める独自の基準や、市内に企業を置くメリットの策定とその取り組みの発信。
- ・男女の社会における負担の差は、明確にした上での各施策の推進を望む。

【属性別】

性別でみると、「男性」で「学校教育などにおける男女平等教育の推進」が最も高く（46.2%）、「女性」で「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高くなっている（51.7%）。

世代別でみると、「育児・保育事業の充実」が「30歳代」で最も高くなっている（51.1%）。

地区別でみると、「学校教育などにおける男女平等教育の推進」の割合が、「瑞穂地区」「山辺地区」で高い傾向にある。

男女共同参画社会実現のための施策（1）

		全体	講演会や広報紙などによる男女共同参画の啓発	学校教育などにおける男女平等教育の推進	DV、ストーカー行為根絶に向けた取り組み	職場における男女格差の是正や労働環境の改善	育児・介護休業制度の普及促進	育児・保育事業の充実	職業訓練、職業相談の充実
全体		573	19.7%	48.0%	15.5%	47.3%	34.2%	24.1%	6.8%
性別	男性	249	23.3%	46.2%	18.1%	42.6%	29.7%	23.3%	6.4%
	女性	315	16.8%	49.8%	13.0%	51.7%	38.1%	24.8%	6.7%
	その他	2	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	無回答	7	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	14.3%
年代	18～20歳代	29	10.3%	51.7%	24.1%	44.8%	31.0%	31.0%	6.9%
	30歳代	47	8.5%	29.8%	8.5%	25.5%	48.9%	51.1%	12.8%
	40歳代	61	18.0%	55.7%	14.8%	50.8%	19.7%	34.4%	3.3%
	50歳代	104	15.4%	51.0%	21.2%	42.3%	34.6%	22.1%	10.6%
	60歳代	161	26.1%	51.6%	12.4%	52.2%	42.2%	20.5%	6.8%
	70歳以上	161	23.0%	43.5%	14.3%	50.9%	28.0%	16.1%	4.3%
	無回答	10	0.0%	60.0%	40.0%	50.0%	30.0%	20.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	146	19.9%	53.4%	14.4%	50.7%	32.9%	24.7%	5.5%
	山辺地区	57	7.0%	63.2%	17.5%	59.6%	33.3%	21.1%	7.0%
	大網地区	132	24.2%	46.2%	15.9%	46.2%	35.6%	24.2%	6.8%
	増穂地区	155	23.2%	39.4%	15.5%	39.4%	34.2%	22.6%	9.0%
	白里地区	77	14.3%	48.1%	14.3%	49.4%	35.1%	28.6%	5.2%
	無回答	6	16.7%	33.3%	33.3%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%

男女共同参画社会実現のための施策（２）

		全体	健診体制や健康相談など健康に関する事業の充実	地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進	各種審議会等の委員への女性の登用	女性リーダーの養成	男女共同参画推進を専門に担当する課の設置	男女共同参画に関する条例の制定	その他
	全体	573	7.9%	13.1%	11.9%	9.6%	6.8%	8.4%	2.3%
性別	男性	249	6.8%	17.7%	10.0%	9.6%	8.4%	10.4%	3.6%
	女性	315	8.3%	9.5%	13.3%	9.2%	5.7%	7.0%	1.3%
	その他	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	7	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	18～20歳代	29	3.4%	3.4%	3.4%	6.9%	6.9%	6.9%	0.0%
	30歳代	47	8.5%	6.4%	6.4%	4.3%	4.3%	17.0%	4.3%
	40歳代	61	8.2%	4.9%	13.1%	13.1%	3.3%	3.3%	3.3%
	50歳代	104	12.5%	7.7%	7.7%	4.8%	7.7%	11.5%	2.9%
	60歳代	161	6.8%	18.0%	8.7%	9.9%	4.3%	6.8%	1.2%
	70歳以上	161	6.2%	18.0%	19.9%	13.0%	11.2%	7.5%	2.5%
	無回答	10	10.0%	20.0%	20.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	146	6.8%	11.6%	11.0%	8.2%	3.4%	10.3%	3.4%
	山辺地区	57	10.5%	10.5%	14.0%	10.5%	7.0%	3.5%	0.0%
	大網地区	132	7.6%	14.4%	9.1%	8.3%	7.6%	10.6%	3.0%
	増穂地区	155	9.7%	11.6%	13.5%	10.3%	9.0%	7.1%	1.9%
	白里地区	77	5.2%	19.5%	11.7%	11.7%	6.5%	7.8%	1.3%
	無回答	6	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%

問 25 「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、感じていることなど、なんでも結構なので自由に記入してください。

※趣旨に変更を加えない範囲で加筆・修正しています。

- ・自分の職場と違い、未だに農家では、男が仕事、女がお茶出しと昔ながらの男女の役割があり、男の自分が片付けやお茶出しをすると、座っていると言われる。意識改革には、啓発活動や研修が有効と感じる。【18～20 歳代男性】
- ・今一番不安に思っていることは、将来的に子供が出来たとき、仕事と育児の両立ができるか？ということです。家族が協力してくれることが一番の安心ではありますが、夫も出張があったり、実家にいる家族にも都合があるので、いつでもお願いできるとは限りません。大網白里市がどうかはわかりませんが、わたしの職場では「保育園に入れなかったから育児休業期間をもう 1 年延ばす」という方もいました。共働き世帯が多い今の時代だからこそ、家族以外で子供を預かってくれる施設が充実していると、みんな安心して仕事ができるのではないかなと思います。【18～20 歳代女性】
- ・学校で説明しに来ることはとても大切だと思う。会社では、性別に関係なく採用できるように工夫するべき。私は大網白里市が実現に向けた政策をしているのかさえ把握できていないので、やるならもっとやるべきだと思う。【18～20 歳代女性】
- ・女性が～男性が～という大きな枠組みでは無く個人間で解決していくべき。
【18～20 歳代男性】
- ・求める社会のあり方は人それぞれなので完全に実現するのは難しいと思うし、これからもっと社会のあり方や、マイノリティのあり方も変わっていくと思います。それに対してその都度その都度間違っているでもいいので色々な政策を打ち出してほしいです。社会がこんなに変わろうとしているのに、変える力を持つ側の人たちが変えようとしないと言ちづくりは難しいと思うので。また、今回のアンケートの実施は素敵だなと思ったので、これからもっとこのような機会を増やしていただいて、市民の声を聞くだけでなく、それを形にしていってほしいです。【18～20 歳代 女性】
- ・男性も女性も育休や子育て支援等の有り無しで働きやすさや家庭が充実という訳ではないと思います。単純に仕事以外で使える時間が少ないことや、休んだ際に月給が下がってしまう事が問題な気がします。(残業代が無くても十分な給与を出すべきでは)それに結婚子育てありきで考えている事も少し違和感を感じます。
男女平等と言うなら「男女平等」なんて言葉はいらない。なぜなら性別を意識してないから。女性が指導者やリーダー等社会において上の立場に立てないのは能力が無いからだと思っていて、それこそ男性女性だからと軽視している訳じゃなく能力の有無でしっ

かり見定めてるので、変えなくていいと思ってます。(男性でも能力無い人多いですが)
【30 歳代男性】

- ・現在の日本社会では育児にかかる期間が長く、費用的な負担も大きいのではないかと感じています。核家族が多い現在の日本で仕事と家事を両立させていくためには、親が子供の世話をするのではなく、子供が小さい頃から主体的に家事させて、親の負担を減らす事などが必要だと感じています。【30 歳代女性】
- ・別け隔てない施策、意識の啓蒙等が必要だと感じます。【30 歳代男性】
- ・イベントを開催して欲しい。若い男女をスタッフ側で雇い、子どもや高齢者がお客側でお金を払ってもらおう。市は責任と企画と場所を提供する。営利を求めず、赤字を出さず、交流の場所を提供して欲しい。【30 歳代男性】
- ・期待していない。【30 歳代女性】
- ・私はインターネットを使用して仕事をしていて、皆がそうできれば育児にも有利になると思います。でも白里地区にはスーパーがなくてリモートワークで暮らすには不便なのでスーパーやホームセンターを作れば男女共同参画社会の実現に近づくと感じます。
【30 歳代 その他】
- ・女性でも男性でも能力がないのに出来ないことは出来ないし、各々が向上心もないのに周りや社会が平等じゃなきゃいけないといって責任を押し付けるのもおかしい話。男とか女とか関係なしに一人の人間として扱えばいいと思う。【30 歳代男性】
- ・今 2 歳と 3 歳の子供を保育園に預け働いていますが、育児に関して旦那の協力が得られない(就業時間などの問題)場合、フルタイムで働ける仕事を探すことが出来ませんでした。土曜日預けられる園もありますがまず日曜祝日休みであること、朝 7:30～18:30(19:00)の間で拘束 9 時間となると近場でないと間に合いませんし、不動産関係は水曜日がお休み、小売関係は土日などは基本休めず開店が 10 時からであったりと、男性と同じだけの収入が欲しいと思っても仕事の選択肢がほとんどありません。ただでさえ仕事の少ない田舎で預けられるのが平日の夕方までのみでは、とても男女平等に仕事をするのは難しいと思います。【30 歳代女性】
- ・そもそも男女という単語自体に優劣を感じる。日本語として存在するので仕方ないとは思いますが。例えば市長が女性になれば解決するということでもなく、古い考え方に捕われないような人物が上に立てば、自ずと平等な社会になるのだと思う。【30 歳代女性】

- ・大綱はどちらかというと都市部に比べて男尊女卑の考えがまだ残っていると思う。跡継ぎや長男崇拜の考えがまだ根深いので、特に土木や農業関係の支援で女性の雇用を促進すると良いと思う。市役所を訪問しても全体的に男性の職員が多いし、課によっては男性しかいないようにも見える。市政から女性の活躍を増やしてほしい。学童も休日の会社が8時からで困っている、料金がかかっても良いので保育園と同じ時間にして欲しい。結局女性が遅く出勤することになり、職場での見方が変わってくると思う。4年生以上の学童の通所や下校の仕方なども他の自治体をもっと参考にしてほしい。【30 歳代女性】
- ・男女共同参画社会に向けて制度や法律増えているものの、実際の運用や意識改革は未だ不十分であると感じる。特に、都心に比べて田舎は家事育児は女性がやるものという考えが未だに定着しており、親族の会合等でも女性が料理を作り男性はお酒を飲みながら食べているような状況は少なくないと感じる。一方、若い世代は男性の家事育児参加は増えつつある。身体的特徴を踏まえ、男女が全く平等になることは困難であると思うが、若者の家庭における男性の家事参加を年配者が妨げるような発言を控えることが重要である。また、男性の家事能力を上げるための取り組みイベント(料理教室、洗濯講座、育児講座など)を検討するのも良いかもしれない。【30 歳代女性】
- ・どんな企業でも男女の賃金を平等にしていれば良いと思います。【30 歳代男性】
- ・子供が学生のうちは、仕事が休みの日も送迎などの対応に追われ、仕事を増やすことができないので、子供手当等をより充実させてほしい。【40 歳代女性】
- ・何十年も前から男女平等とうたわれているが、実社会は不平等です。職場の賃金の差がはっきりあるし、仕事ができなくても管理職になるのは男性です。【40 歳代女性】
- ・性別を問わず、個人の活躍したい方向で活躍できれば良いと思います。全ての女性が出世を望んでいるわけでもないし、全ての男性が仕事中心の生活をしているわけでもない。【40 歳代女性】
- ・アンケートの中に DV を受けた経験があるか聞かれているのはどういう意図があるのでしょうか。例えば受けていると答えていたら、市民を助けてくださるのでしょうか？計画に反映するような地域社会づくりに、個人的な質問が入り混じっているような気がして、とても不愉快な気持ちになりました。質問が暴力的で被害者に対する配慮に欠けていると思います。無作為であるのを承知ですが、被害者の方が答えた場合を想定して質問項目を検討されるべきではと思います。【40 歳代女性】
- ・無理強いをせず、社会に貢献していきたい女性がいるのなら、周辺が理解するよう努めることと、サポートを充実させること。男性も社会の変化に意識をアップデートしていかなければならないと思う。【40 歳代男性】

- ・古いしきたりや常識を時代に合わせてほしい【40 歳代女性】
- ・男女の区切りに拘らず同じ人間として、それぞれの適正に合った仕事や役割を持てるまちづくりをしたい。役割を頭から決めてかかる人が多すぎる。得意なことを得意だと言って受け入れてくれる社会になってほしい。【40 歳代女性】
- ・市としての方針を広く知れ渡るようにして欲しい。【50 歳代男性】
- ・少しでも前にすすむように願っています。【50 歳以上男性】
- ・実際の社会生活において、行政の言っている男女共同参画社会、なんてものを意識している男性は多分 1 割にも満たないと思う。家庭において、自分のことすら出来ない男性は今の人口比では 5 割くらいいるのではないかな？家事は人が生きるのには必要なスキル、その事を、男性も女性も理解する必要がある。その上で、各自が自立出来る仕事や制度を持つなどの社会が求められる。【50 歳代男性】
- ・そもそも、「男女共同参画社会を実現していくまち」とはどのようなことか。それが不明確である。各々に役割があり、その役割が調和していれば、別に男女共同参画社会でなくても良いと思う。【50 歳代男性】
- ・基本的に性別関係なく能力にあった役割を与えること、適材適所が大切であると思います。まちづくりにもそれが言えるのではないのでしょうか。【50 歳代男性】
- ・「男女共同」であっても、そこに外国籍の男女は含まれるのか？その地域に住み、税金も納めているのに選挙権がない、日本人同様のサービスが受けられない等の話を知人から聞いた。今の時代、外国籍の人を対象外とするには不自然だと思うし（彼らの存在なしには成り立たなくなってしまうこともたくさんある）「まちづくり」というのなら、なおさら無視できない事だと思っている。（大網市内に在住しているのかはわかりませんが）【50 歳代女性】
- ・男女共同参画に形だけ取り組んでいる企業がまだ多いと思います。自分が勤めている会社に育児休暇制度がありますが、職場の女性が育児休暇を取った時に、代わりに来た人がすぐに仕事ができず、結局忙しくなりました。企業が従業員のスキルアップを事前にする余裕がないと制度はうまくいきません。子供は社会全体でみんなで育てるものだと思います。【50 歳代男性】
- ・言葉を選ばず申し上げれば、70 歳以上の方の古い考えと、その圧が新しい時代の足を引っ張っている。70 代以上の役職のついた人達の決定権を若い（新しい感覚の）人たちに譲ると良いと思う。【50 歳代女性】

- ・男女にかかわらず、個性や能力により採用、不採用を決める。難しい問題である。【50 歳代男性】
- ・障害児（者）を抱える家族にはまだまだ届かない社会に思えます。
トイレ一つとっても男子を母が、女子を父が連れて行くのに多機能トイレはなかなか空きも設置もされていません。更衣室（アリーナ）などでもそうです。【50 歳代女性】
- ・男女の平等は当然の事。しかし、社会的に見て、全てが平等とできることは不可能であり、男女共にお互いの負担の差や、それにともなう格差等が生じることに対しては理解が必要。ただし、この負担差を軽減すべく、社会が女性の負担が少ない業務を行い、うめていく社会が理想。まだまだ、始まったばかり。【50 歳代男性】
- ・仕事と家事の両立をしていくうえで、たとえば男性は土・日曜日が休みでも女性は土・日も家事におわれとにかく休むひまがない【50 歳代女性】
- ・アンケート結果などから市として取り組んだことと、その経過報告を定期的に出してほしい。【50 歳代女性】
- ・過ぎたるはなお及ばざるが如し。【50 歳代男性】
- ・家庭生活におけるスキルが主人ではなく、家事育児が負担となり、出産後仕事はパートにしてきました。男の人が家事や育児に参加することが当たり前の社会ならば、正社員でバリバリ働く女の人も多くなると思います。ずっと正社員で働けばリーダーになる女性の方も増えるだろうと思っています。【50 歳代女性】
- ・男性が家事について無関心なのは一人暮らしして家事を経験した人が少ないからでは？男性も一人暮らしを経験すれば多少は理解するような気がする。【50 歳代男性】
- ・固定観念がしみついた大人になってからでは、遅い。とにかく学校教育レベル、この時期から変えていかなければ雨後のタケノコのように次から次へと変わらない考えの市民がうまれてくる。元から変えなければ。【50 歳代男性】
- ・「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、今、自分が具体的にどう役に立てるか、イメージができていないのですが、なにかの行事で手伝えることがあれば、協力したいと思います。性別関係なく参加して協力しあえればいいです。よろしくお願いします。【50 歳代女性】
- ・私個人としては、男性は男性らしく、女性は女性らしく、体がそうでなくても性自認を尊重することだと思います。男性にしかできないことは男性にお願いすればいいし、女性にしかできないことは女性にお願いすればよいという考えです。女性のリーダー

一とか男性の育児とか、女性より男性の方が判断力も人をまとめるリーダーの器もあるし、男性は赤ちゃんに自分のおっぱいはあげられない。そういうことではないでしょうか？今の女性が平等とかリーダーにしてもらえるのは男性たちの「優しさ」のおかげで、自分たちの力だと思ったら女性は男性化し仕事をし子供を産める身体なのに身体さえ男性化し、少子化が進む気がします。【50 歳代男性】

- ・男女とくることが必要な所と不要な所の意識づけが必要なのでは。男たるもの、女たるものと長らく生活の中で多くが決められていたことを変えるのはやはり長い月日が必要になるので、まずは「男女」というくくりを取れるところから取るのがいいのではないのでしょうか。【50 歳代女性】

- ・東京出身で大網には長年住んでいますが、まず市議会議員が男性中心、高齢多数が問題だと思う。男尊女卑の世界に長くいた方が多いので、早く世代交代したほうが良い。もっと若い世代の男女が公平な数で議員になれるよう様々な改善改革が必要になってくると思う。議員には年齢制限（65 歳まで）を設けるべきだ。そして市政に真剣に取り組んでもらう為に手当も大企業の部長クラスは支払うべきで毎年実績を評価する仕組みが必要だ。【50 歳代男性】

- ・男女が仕事をすることで、地域のつながり、親類のつながり、伝統文化の継承も薄れ、家族という単位から、個人、孤独へと進んでいくように思える。【50 歳代男性】

- ・時代の流れにあった社会にしていく事も良いですが、女性と男性の根本的な考え方は違うと思う。日常ストレスを感じない生活が出来たら良いのだろうか。女性らしさ、男性らしさというよりも人を思い遣る事の出来る人間らしさが失われてほしく無いです。

【60 歳代女性】

- ・大網白里市に居住する男性は建築・建設業に携わる方も多いようだが、生活ぶりを垣間見ると、「男女共同参画社会」という意識が極めて薄いように思える。それを生活を通して見て育つ子供たちは自ずとそういうものだと刷り込まれてしまって育つのかも。保育園や学童保育施設を作っても、希望する職種の企業や勤め先が存在しない街ならば、育った子供たちは皆、大網白里市を離れて戻ってこない。高齢化で田や畑を手放したいと思っている農家の方も少なくない。増す介護福祉のニーズに反して、収入を多く得られる職種とは言い難く、男女の比率もいびつになりがちではないのか。まずは、働く場所や産業を提供できる街づくりなしには何も始まらない。【60 歳代男性】

- ・我々が育った環境下では育児や家事は女性が、外で仕事するのは男性がという風潮が強かったが、近年の時代の変化は確実に男女平等などが進展しており今後は男女平等、ジェンダーフリーという考え方がより一層一般化するものと思われる。しかし、そのためには自治体、学校、職場等において継続的な普及活動を行うとともに、DV・パワハ

ラ等に対する厳しい社会の構築を進めることも必要であると考えます。差別のない明るい未来の到来を期待している。【60 歳代男性】

- ・仕事の業種的に男性中心の職場で働く機会の多い人等は、まちづくりに関して女性の活躍が意識しづらいと思います。【60 歳代男性】

- ・保育施設は大都市ほど充実しています。
それに近づけるよう努力していただきたいと思います。【60 歳代女性】

- ・男女共同参画社会って具体的にどういうことか？わかりにくいと感じる。意識してできる事もあるが、当たり前前にしている事など意識していない事も多々あり、それを変えていくには、子供や若い人への教育、そして我々老人世代まで意識を変える啓蒙活動を根気良く続けるしかないだろう。なので尚更わかり易さが必要ではないでしょうか？ 例えば言葉が硬すぎるのもっと別な表現も考えてみてはどうか。

【70 歳代男性】

- ・女性も働きやすい職場づくりの推進。【60 歳代男性】

- ・社会自体、女性が仕事をしていても家庭内のことは女性がという世の中になっている。仕事をしていても家庭内のことは女性がするということがあたりまえと思われている。

【60 歳代女性】

- ・年金生活者も多い中で、教育の大切さを痛感します。古い考え方を正すより、新しく時代にそった教育が必要かと。案ずるより動くことがまず一歩です。

男女に限らず、尊敬できる年長者、期待できる若人！！

そんなまちづくりが嬉しいです。ありがとう！！そしてがんばって！！

【60 歳代女性】

- ・男の人も女の人もお互いを尊重し合うことが大切であると思います。ひとりの人として大切に生かされていることへの感謝がもてるような社会になってほしいです。子供たちもお互いを尊重し理解しあえるような教育や過程が必要です。社会の仕組みも変えていく時期だと思います。【60 歳代女性】

- ・女性にしかできないこと、男性にしかできないことがあると思います。何でもかんでも同じにしてしまうと、女性が夜遅くまで働いたりすることができてしまうことがあるのかなと思います。【60 歳代女性】

- ・男女平等の教育（小中学校はとくに）。【60 歳代男性】

- ・年齢、男女関係なく若い頃からコミュニティに参加し、教えてもらい（改革しながら）受け入れ、いい町づくりを希望します。【60 歳代男性】

- ・ いろいろな会議等を行う中で数的圧力（男性が多くて女性少数等）にならないように、性別の人数を平等にそろえる事により、意見等が出やすくなり反映されるのではないかと思います。【60 歳代男性】
- ・ 義務教育からの社会教育、高等教育での意識改革を時間がかかっても確実に実施し、社会全体の意識を変えていくしかないと考えます。【60 歳代男性】
- ・ 少子高齢化が急激に進み、人口がどんどん減っています。出産後も子育てしながら男女共に気兼ねなく、子供が病気になったときなど、お休みをとれる社会だといいです。昔と比べずいぶんと変わりました。男性も育児ににどんどん参加している様子。良い方向に向かっています。【60 歳代女性】
- ・ 私が嫁に来た頃に比べ、夫が家事をすることが増えてきました。2人で育児をする姿も多く見られ母親だからという縛りも減っていると思います。若い人よりも私ぐらいの年齢の人が昔を引きずって変わらないのではないのでしょうか。若い人に男だから女だからにとらわれず家庭生活を営むことが大事という話を聞く機会を作ってほしい。今、パワハラなどと騒ぎ立っていますが昔は当たり前、我慢が多かったです。すぐにパワハラ！と言うのは問題がありますが、互いを思いやる気持ちを持てばいいと思うのですが、コミュニケーションが足りない人が多いですからね。【60 歳代女性】
- ・ アンケートを受けるまで「男女共同参画社会」とはどういうことか、考えることもなく興味もありませんでした。周知と衆知をして幼い頃からの意識改革を促すことが必要ではないのでしょうか。不当な扱いを受けている人や不満を抱えている人の声を拾うために相談窓口を、相談しやすい環境を整えてください。誰もが生きやすい社会をお願いします。【60 歳代女性】
- ・ 男女ともに思いやりと感謝の気持ちをもってまちづくりを行って頂きたい。
【60 歳代女性】
- ・ 男女の労働賃金の見直し、作業の効率化、女性技術者の増大。【60 歳代男性】
- ・ 組織の男女の構成比を出来るだけ同じくすること。まずはここから始めることが一番だと思います。男性と女性と考え方が違うのは当たり前、だからこそ理解し協力することで、より良いアイデアが生まれてくるのでしょうか。【60 歳代女性】
- ・ 機会の平等を目指すべきで女性だからの制度をつくるべきでない。【60 歳代男性】
- ・ 大人はなかなか変えられないと思います。（意識）教育が大切かなとざっくり考えます。【60 歳代女性】

- ・市としても、「男女共同参画」づくりに取り組んでいると思いますが、市民から日常的に見える形で取り組み実態をオープンにしていく方が良いのではないかと思います。
（例）市役所等での市民対応時の様々な判断が必要な場面では男性の指示で女性が動くことが多いように見受けられる。（考えて、自分で判断できる女性が育つ環境が醸成されていない。）【60 歳代男性】
- ・市議会議員の半数を女性とする。
- ・市役所職員の管理職の半分を女性とする。
- ・まずは行政が実践し取り組んでいく事。【60 歳代女性】
- ・男女共同参画の名を借りて「差別」をタテに現状を変えようとする人たちが多すぎる。声が大きく他の人たちが意見を言えない。声は届かない。何かにつけ「差別」と言われる、差別に結びつける。意見はよく話し合い（有識者と）内容を吟味し差別かどうかを話し合って欲しい。【60 歳代男性】
- ・性別について、このアンケートの「3.その他」の項目は遺憾です。もしもテストの時など回答用紙に3つの性別の選択があれば子供たちを悩ませることになります。個人の性はプライバシーであり、公に取り上げることではないと思います。3つの性があると公人や公的機関が強要して教えることはおかしいと思います。
むしろLGBTQ法案により気軽に温泉を楽しめないなど身体的女性の安全と立場がおびやかされ、女性が政治により逆差別を受けています。女性の権利はLGBTQ推進により益々おびやかされています。昔に比べ男性は随分女性に優しくなっていると思います。日本人の先祖代々の知恵、文化がこわされないように、グローバリズムの”改革”を叫ぶ波から大綱が守られていくように祈るばかりです。【60 歳代女性】
- ・役所は関係条例等を制定すれば良いと考えるのでは無く、その条例等が市民にどれだけ理解され、実質的に浸透しているか、また、実績が上がっているのか検証しなければならない。このことは市行政の全てに言えることだと思います。たとえ、担当課を設置しても市職員全員がその方向性を目指さなければならないと思いますが、いかがでしょうか。市議会議員についても同様です。【70 歳以上男性】
- ・男女と言っても対立するものではないが、リーダーとか役割については、男女ともに相手を思いやり、助け合う土壌が必要になると思う。まずは、そういう土壌を学校教育としてではなく、地方公共団体として、検討、実践していくべきだと思う。【70 歳以上男性】
- ・DVに気づかずに過ごしている隠れDVも、多いのではないかな。啓発が必要ではないだろうか。【70 歳以上男性】

- ・ 専門家による調査結果の分析と大網市民の意識傾向と対策等のアドバイス（公表）【70 歳以上男性】
- ・ 全国の「男女共同参画」を実現している成功事例の紹介をする。（広報等で）
成功事例の実現に向けた体制を構築する。（大網白里市に於いて）【70 歳以上男性】
- ・ まず市の職員及び管理職や議員の二分の一を女性とすること目標をかかげ、市の職員や管理職への女性の優先採用枠を設けたり、各政党に女性議員候補を立てるよう市から積極的に働きかけを行うなど、女性が活躍できる機会を増やす施策に市自ら取り組まれますよう期待いたします。【70 歳以上女性】
- ・ 皇位継承が「男系男子」とされている現在の制度が存続する限り、日本の「男女共同参画社会」は実現しないと思っています。「ジェンダーギャップ指数ランキング」では日本は146カ国中118位です。国政、地方自治、経済界における女性管理職等々、どこをとっても女性のウェイトが低いことは、日本人として恥ずべきことと考えます。すべての原点は、日本の象徴である天皇制によるものと思います。女系天皇、女性天皇が実現して初めて日本の女性活躍社会が実現するものと考えます。大網白里市が全国に先駆けて、『女系天皇、女性天皇推進都市宣言』を採択していただきたいと願います。【70 歳以上男性】
- ・ まず個人がしっかり生きること。人権や個人情報など言葉が先行して、逆に孤立してしまう。皆が協調していける社会になってほしい。【70 歳以上女性】
- ・ この調査が生かされることを期待します。今の若い家族は、女性の方が力を発揮しているように思いますが、職場ではその力が生かされていない？ように思います。田舎は尚更思う。【70 歳以上女性】
- ・ 男女共同参画社会に限らず、市の発信が極端に少ない。やる気度をうたがう。
【70 歳以上男性】
- ・ 考え方は双方とも（男性・女性）西洋の人たちから遅れをとっていると感じますが、徐々に（50年位）女性が過ごしやすい世になっていく気がします。法を作成する時に、女性の参加があまりにも少ない気がします。（女性が参加しようにも、なかなか届かない。）今回アンケートに真剣に記入していく事に意義を感じました。自分の生き方を見つめることができました。もっともっと多くの人に配布したらどうでしょうか。ありがとうございました。【70 歳以上女性】
- ・ 以前に比べると、「男女共同参画」の意識も高く、制度的にも少しずつ整ってきていると思います。といっても、まだまだ不十分です。さらに行政の取り組み、変革を期待しています。【70 歳以上男性】

- ・今の世の中は人に対する配慮が欠けています。
自分さえよければ人はどうでもいいや、金さえあればどうにでもなるとか男も女も毎日いらいらしている人が多いです。
- ・もっと心にゆとりを持ちましょう。【70 歳以上男性】
- ・日本は歴史から見ても、何百年も男性優位、男性中心の世界であった。
戦後、米国（連合国）による新憲法により、男女平等意識が芽生えてきたが、男女平等教育を受けた世代が中心の日本になるまで、まだまだ時間がかかると思う。本当の男女平等、男女共同参画社会が日本に根付くには、地道な施策の推進、世代の交代と相当な時間を要すると思う。【70 歳以上男性】
- ・久しぶりに市内を巡り、当市は観光を一つの目玉とすべきと思いますが、人を呼び込む施設が何もないことを再認識しました。男女共同参画社会の実現は良いことと思いますが、人口減の中、社会基盤を形成するために観光施設を投資する大企業を呼び込む戦略を考えていただきたい。どうしたら人口を増やせるかアクションをとらなければ消滅市となるのではありませんか。【70 歳以上男性】
- ・中・高・大学生にこれからの自分の人生生計を考えさせて見てみては？若い夫婦達の生活水準の見直しや子育て方法、賃金の格差とか？今後の生活もそうですがやはり法律などの改正・政治家の役割が大切かと思います。【70 歳以上女性】
- ・行政組織（教育関係も含む）で、管理職を希望しない女性が今だ多いということを耳にします。その理由を当事者等に聞き取り、改善に向けた対策・取りくみをする等、考えていただくと、良いかと存じます。男女双方の意見を生かした社会が求められていると思います。【70 歳以上女性】
- ・この町に未来は期待できない。【70 歳以上女性】
- ・男女共同参画社会は、これからの少子化社会で必要になってきます。家庭での女性の家事負担を軽減し、その分社会的活動できるようにしていく事は重要になっていくと思います。また過去妻がパートで酒屋さんに 3 年程働いていましたが重い荷物の仕事もあり手首を痛めて仕事を辞めたことが有ったので重い荷物はたとえお客さんであても持っていただくことや会社側も骨格等の男女の違いに配慮し、荷物によって仕事を変えるなど対応が必要かと思います。【70 歳以上男性】
- ・引っ越しして間もないので、仕事も他市でしており、まだ大網白里市がよくわかってなくて申し訳ありません。でもこのような取り組みを行っていることに対してとても嬉しく思いました。【70 歳以上女性】

- ・産前産後 8 週間休業・生理休暇を取れる・保育所の増設・育児休暇・年休 20 日間等、教職員の組合のストライキで勝ち取っていったことを改めて思い出しました。小学校の教員を 30 年間務めました。女の先生が多かったので、上記のことが定着してきたように感じます。とにかく教師って忙しいのです。子どもたちの為に、がむしゃらに働いてきました。その子供たちは、いろいろな能力を持っていて、いつも前向きに問いかけ、実行してくれるので、やりがいのある仕事でもありました。でも疲れしました。参考になるでしょうか。【70 歳以上女性】
- ・男性が仕事と同じように家事に対する考え方を変えていく事が必要。女性の家事を手伝うのではなく当たり前という考え方がまず大事。【70 歳以上女性】
- ・社会の基本は家庭であると考えております。家庭のなかで子供がどう育つかを、又どう育てるかを考えていることが大切な事です。男女もいいのですが、家庭をないがしろにした社会は、又国や地域は前に進んでいきますかしら？【年代不明女性】

Ⅲ 調査票

大網白里市男女共同参画に関する市民意識調査

男女共同参画社会とは

男性も女性もすべての個人が、互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。



<ご協力をお願い>

日頃から市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

大網白里市では、平成 28 年 3 月に「大網白里市男女共同参画計画」を、令和 3 年 3 月には現行計画である「第 2 次大網白里市男女共同参画計画」を策定し、男女がともに認め合い、支え合い、個性と能力を発揮できる社会の実現に向け、様々な取り組みを行っております。

この「第 2 次大網白里市男女共同参画計画」が、令和 8 年 3 月末に期限を迎えることから、「第 3 次大網白里市男女共同参画計画」の策定に向けた基礎資料とするため、市民意識調査を実施することといたしました。

本調査は、18 歳以上の市民の中から無作為に抽出させていただいた皆様に調査票をお送りしております。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和 6 年 9 月

大網白里市長 金 坂 昌 典

【ご記入にあたってのお願い】

- 回答は、できる限りこの調査票が郵送されたあて名のご本人がお答えください。
 - 次の 2 つのうち**どちらか 1 つ**の方法で、**9 月 30 日（月）まで**にご回答をお願いします。
- ①アンケート用紙に直接記入し、郵送により回答
- ▶ 質問ごとにあてはまる回答の番号を○で囲んでください。
 - ▶ ○をつける数は、質問ごとに指定していますので、その範囲でご記入ください。
 - ▶ 回答していただく方が限られる質問もありますので、質問の注意書きをご確認ください。
 - ▶ 回答が「その他」の場合は、（ ）内に具体的にその内容を記入してください。
 - ▶ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください。（切手不要）
- ②パソコン・スマートフォン等によりインターネットで回答
- 右の二次元コードまたは下記 URL により回答画面にアクセスし、画面の指示に従ってご回答ください。
- 【URL】 <https://logoform.jp/form/emGS/698719>



※本調査は、無記名で行い、調査結果は統計的に処理し、個人の名前が公表されることはありません。
また、調査の目的以外には一切使用いたしません。

<問合せ先>

大網白里市 地域づくり課 市民協働推進班

TEL 0475-70-0342 FAX 0475-72-8454

あなたご自身のことについてお伺いします

①性 別	1 男性	2 女性	3 その他
②年 代 (8月末時点)	1 18～20歳代	2 30歳代	3 40歳代
	4 50歳代	5 60歳代	6 70歳以上
③居住地区	1 瑞穂地区	永田、小中、萱野、砂田、神房、経田、駒込、東駒込、ながた野、みずほ台、みやこ野	
	2 山辺地区	金谷郷、餅木、大竹、南玉、池田、季美の森南	
	3 大網地区	大網、仏島、みどりが丘、小西、養安寺、山口	
	4 増穂地区	富田、南横川、北横川、北飯塚、南飯塚、星谷、柿餅、柳橋、上貝塚、清名幸谷、木崎、柿餅上貝塚入会地、上谷新田	
	5 白里地区	南今泉、北今泉、細草、四天木、四天木甲、四天木乙、北吉田、桂山、九十根、長国、下ヶ傍示、二之袋、清水	
④世帯構成	1 単身（あなた1人）	2 夫婦・カップル	3 2世代家族（子どもと）
	4 2世代家族（親と）	5 3世代家族	6 その他（ ）
⑤職 業	1 会社員・会社役員	2 自営業・自由業	3 パート・アルバイト
	4 公務員・教職員・団体職員	5 農林水産業	6 学生
	7 家事専業（主婦・主夫）	8 無職	9 その他（ ）

男女平等に関する意識についてお伺いします

問1 現在の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

項 目	男性の方が優遇されている	どちらか といえば 男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらか といえば 女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 地域で	1	2	3	4	5	6
③ 社会通念・慣習で	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育で	1	2	3	4	5	6
⑤ 職場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治で	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問5 男女とも仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1	再雇用制度の促進
2	保育サービスや学童保育の充実
3	育児・介護休業制度の定着促進
4	育児・介護休業中の賃金、手当等等の充実
5	在宅勤務、フレックス制、育児短時間勤務制度の充実
6	看護・介護サービスの充実
7	昇進、昇給や仕事の分担など労働の場での男女平等の促進
8	非正規社員の労働条件を改善する
9	家事の省力化、外部化（外食・クリーニング・家事代行などの家庭外のサービスを利用）などによる家事負担の軽減
10	仕事と家庭を両立していくことに対する家族や周囲の理解と協力
11	その他（ ）

問6 女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか。(○は1つ)

1	結婚や出産等にかかわらず、ずっと仕事を続ける
2	子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける
3	子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける
4	結婚するまで仕事を続け、結婚後は仕事につかない
5	子どもができるまで仕事を続け、その後は仕事につかない
6	仕事はもたない
7	その他（ ）

問7 現在、仕事をしている方にお伺いします。

あなたの職場では、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
① 採用時の条件	1	2	3	4
② 賃金	1	2	3	4
③ 仕事の内容、研修の機会	1	2	3	4
④ 能力の評価	1	2	3	4
⑤ 昇進や昇格	1	2	3	4
⑥ 育児・介護休業等の制度	1	2	3	4
⑦ 職場全体の意識	1	2	3	4

問8 現在、仕事をしている方にお伺いします。

あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを気兼ねなく取得できる環境にありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	取りやすい	どちらか といえば 取りやすい	どちらか といえば 取りにくい	取りにくい	どちらとも いえない	制度がない	わからない
① 有給休暇	1	2	3	4	5	6	7
② 育児休業	1	2	3	4	5	6	7
③ 介護休業	1	2	3	4	5	6	7

問9 現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。

あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(○は1つ)

1 取りたい	2 どちらかといえば取りたい
3 どちらかといえば取りたくない	4 取りたくない
5 どちらともいえない	6 わからない

女性の社会参加についてお伺いします

問10 職場や地域活動で、女性のリーダーが少ないように見受けられますが、その要因は何だと思われますか。(○は2つまで)

1 責任ある地位につきたくないから
2 家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから
3 組織活動の経験が少ないから
4 指導力のある女性が少ないから
5 女性がリーダーではメンバーがついてこないから
6 女性がリーダーでは軽くみられるから
7 男性がリーダーとなることが一般的と考えられているから
8 女性がリーダーになるという選択肢がないから
9 その他 ()

問11 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で、女性が指導的地位に占める割合が増える方がよいと思いますか。(○は1つ)

1 よいと思う	2 よいと思わない
3 どちらともいえない	4 わからない

問 1 2 問 1 1 で 1 と回答した方のみお答えください。

次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。(〇は3つまで)

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1 国会議員 | 2 県議会議員、市町村議会議員 |
| 3 県知事、市町村長 | 4 国家公務員・地方公務員の管理職 |
| 5 裁判官、検察官、弁護士 | 6 医師、歯科医師 |
| 7 学校の校長・教頭 | 8 大学・研究機関などの研究者 |
| 9 警察官、自衛官、消防士 | 10 企業の役員、経営者 |
| 11 地域活動団体の役員（区・自治会長、PTA 会長など） | |
| 12 その他（ | ） |

問 1 3 男性の家事、育児、介護等への参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 男性の家事、育児、介護等への参加を促進するための啓発活動を行う | |
| 2 男性の労働時間を短くして家事、育児介護等への参加できる時間を増やす | |
| 3 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する | |
| 4 職場における理解を得やすい環境づくりを推進する | |
| 5 男性の家事、育児、介護等に関する技能を高めるような講座等を開催する | |
| 6 その他（ | ） |

問 1 4 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどのように変化することを期待しますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|---|
| 1 政治が身近になる | |
| 2 男性中心の考え方に変化が生じる | |
| 3 男女共同参画社会に向けての施策が推進される | |
| 4 特に期待することはない | |
| 5 女性が活躍できる社会が実現できる | |
| 6 その他（ | ） |

問 1 5 男女がともにさまざまな場面（仕事、家事、育児、介護、地域活動など）で積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- | | |
|---|---|
| 1 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること | |
| 2 労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること | |
| 3 仕事と家庭の両立を支援する制度などの問題について、相談できる窓口を多く設けること | |
| 4 育児・介護に関するサービスを充実すること | |
| 5 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること | |
| 6 家庭や学校において、男女ともに、家事や育児を協力して行うよう教育すること | |
| 7 女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること | |
| 8 男性が生活面において、自立できるような能力を身につけること | |
| 9 職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること | |
| 10 その他（ | ） |

男女共同参画関係の用語についてお伺いします

問 16 あなたは、次の言葉を知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	よく知っ ている	少しは知 っている	聞いたこ とがある	知らない
① 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
③ ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3	4
④ セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)	1	2	3	4
⑤ マタハラ (マタニティ・ハラスメント)	1	2	3	4
⑥ パワハラ (パワー・ハラスメント)	1	2	3	4
⑦ DV (ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3	4
⑧ デート DV	1	2	3	4
⑨ ポジティブアクション (積極的改善措置)	1	2	3	4
⑩ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3	4
⑪ 女性活躍推進法	1	2	3	4
⑫ 家族経営協定	1	2	3	4
⑬ LGBT (性別マイノリティ)	1	2	3	4
⑭ ダイバーシティ	1	2	3	4
⑮ アンコンシャスバイアス (無意識の思い込み)	1	2	3	4
⑯ パートナーシップ宣誓制度	1	2	3	4

配偶者やパートナーからの暴力 (DV: ドメスティック・バイオレンス) について お伺いします

問 17 次のような行為はいずれもDVにあたると見なされる行為です。あなたは、配偶者
やパートナーから次のような行為をされたことがありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	何度 も ある	1、2 度ある	まった くない
① なぐったり、けったり、物を投げつけたりなど身体に対する暴力を受けた経験がある (身体的なこと)	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や監視などの精神的いやがらせ、恐怖を感じるような脅迫を受けた経験がある (精神的なこと)	1	2	3

③ 生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害された経験がある（経済的なこと）	1	2	3
④ 嫌がっているのに性的な行為を強要された経験がある（性的なこと）	1	2	3

問 18 問 17 の①～④のいずれかで 1 または 2 と回答した方のみお答えください。

これまでに暴力を受けたことについて、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1 どこ（だれ）にも相談しなかった 2 家族に相談した 3 友人・知人に相談した 4 警察に連絡・相談した 5 公的な相談窓口や電話相談に相談した 6 民間の機関（弁護士、医師、カウンセラー等）に相談した 7 その他（	
---	--

問 19 問 18 で 1 と回答した方のみお答えください。

相談しなかった理由はなぜですか。（○は 3 つまで）

1 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから 2 相談しても無駄だと思ったから 3 自分にも悪いところがあると思ったから 4 相談するほどのことではないと思ったから 5 他人に知られたくないと思ったから（世間体が悪いと思ったから） 6 暴力を受けたことを思い出したくなかったから 7 相談したことがわかると、さらに暴力を受けると思ったから 8 どこ（だれ）に相談したらいいのかわからなかったから 9 その他（	
---	--

問 20 DV について、今後、行政に対してどのような対応等を望みますか。

（○は 3 つまで）

1 警察による対応の充実 2 緊急一時避難所（シェルター）の確保 3 相談体制の連携充実 4 相談機関等の周知、紹介 5 被害者の自立のための支援 6 加害者の更生のための支援 7 DV 防止の意識啓発（講演会、広報紙等による啓発） 8 学校教育における DV 防止に関する教育の充実 9 その他（	
---	--

防災等における男女共同参画の推進についてお伺いします

問 2 1 災害時に男女共同参画の視点を取り入れた避難所とするには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 男女別のトイレや更衣室など、プライバシーの確保
- 2 男女のニーズに配慮した物資を備蓄する
- 3 避難所の運営に男女双方の意見を反映させる
- 4 日頃から男女ともに地域でのコミュニケーションを大切にする
- 5 わからない
- 6 その他 ()

多様な性に関する意識についてお伺いします

問 2 2 現在、性的指向（※1）や性自認（※2）に悩む方にとって偏見や差別により生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

- 1 思う 2 どちらかといえば思う 3 どちらからといえば思わない
- 4 思わない 5 わからない

※1 性的指向：どのような性別の人を好きになるか。

※2 性自認：自分の性をどのように認識しているのか。

問 2 3 性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 学校や職場での配慮（制服や更衣室・トイレの配慮など）
- 2 専門の相談窓口の設置
- 3 市の広報紙やホームページ、講演会、講座などによる啓発
- 4 申請書等の性別記載欄の削除
- 5 パートナースhip宣誓制度の導入
- 6 取り組みが必要とは思わない
- 7 わからない
- 8 その他 ()

男女共同参画社会実現に向けての取組みについて伺います

問 24 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。

(○は3つまで)

- 1 講演会や広報紙などによる男女共同参画についての啓発
- 2 学校教育などにおける男女平等教育の推進
- 3 DV根絶に向けた取組み
- 4 職場における男女格差の是正や労働環境の改善
- 5 育児・介護休業制度の普及促進
- 6 育児・保育事業の充実
- 7 職業訓練、職業相談の充実
- 8 健診体制や健康相談など健康に関する事業の充実
- 9 地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
- 10 各種審議会等の委員への女性の登用
- 11 女性リーダーの養成
- 12 男女共同参画推進を専門に担当する課の設置
- 13 男女共同参画に関する条例の制定
- 14 その他（

問25 「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、感じていることなど、なんでも結構ですので自由に記入してください。

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

[illegible]

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。（切手不要）